令和6年 9月 9日開会

令和6年 9月20日閉会

(定例第5回)

田布施町議会会議録

田布施町議会事務局

目 次

第1号（9月9日）

告 示	1
応招議員	1
議事日程	3
本日の会議に付した事件	3
出席議員	4
欠席議員	4
事務局出席職員職氏名	4
説明のため出席した者の職氏名	4
開 会	5
会議録署名議員の指名	5
会期の決定	5
諸般の報告	5
一般質問	7
2番 神田 栄治議員	7
1番 内山 昌晃議員	13
4番 松田規久夫議員	28
3番 西本 篤史議員	41
6番 國本 悦郎議員	52
11番 瀬石 公夫議員	68
散 会	77
署 名	78

第2号（9月10日）

議事日程	79
本日の会議に付した事件	80
出席議員	81
欠席議員	81
事務局出席職員職氏名	82
説明のため出席した者の職氏名	82
開 会	82
会議録署名議員の指名	82
一般質問	82
7番 高月 義夫議員	83
5番 落合 祥二議員	97
議案第36号	112
議案第37号	112
議案第38号	112
議案第39号	112
議案第40号	112
議案第41号	112
議案第42号	113
議案第43号	113
議案第44号	113
議案第45号	113
議案第46号	113

議案第 47 号	1 1 3
議案第 48 号	1 1 3
散 会	1 2 1
署 名	1 2 2

第 3 号 (9 月 2 0 日)

議事日程	1 2 3
本日の会議に付した事件	1 2 4
出席議員	1 2 6
欠席議員	1 2 6
事務局出席職員職氏名	1 2 6
説明のため出席した者の職氏名	1 2 6
開 会	1 2 7
会議録署名議員の指名	1 2 7
議案第 36 号	1 2 7
議案第 37 号	1 2 7
議案第 38 号	1 2 7
議案第 39 号	1 2 7
議案第 40 号	1 2 7
議案第 41 号	1 2 7
議案第 42 号	1 2 7
議案第 43 号	1 2 7
議案第 44 号	1 2 7
議案第 45 号	1 2 7
議案第 46 号	1 2 7
議案第 47 号	1 2 7
議案第 48 号	1 2 8
議案第 49 号	1 3 2
議案第 50 号	1 3 3
閉会中の継続審査及び調査	1 3 4
議員派遣について	1 3 5
閉 会	1 3 5
署 名	1 3 6

田布施町告示第34号

令和6年第5回田布施町議会定例会を地方自治法（昭和22年法律第67号）第101条第1項の規定により、次のとおり招集する。

令和6年8月26日

田布施町長 東 浩 二

- 1 期 日 令和6年9月9日
2 場 所 田布施町議会議事堂

○開会日に応招した議員

内山 昌晃議員	神田 栄治議員
西本 篤史議員	松田規久夫議員
落合 祥二議員	國本 悦郎議員
高月 義夫議員	河内 賀寿議員
谷村 善彦議員	瀬石 公夫議員
伊村 渉議員	南 一成議員

○9月10日に応招した議員

内山 昌晃議員	神田 栄治議員
西本 篤史議員	松田規久夫議員
落合 祥二議員	國本 悦郎議員
高月 義夫議員	谷村 善彦議員
瀬石 公夫議員	伊村 渉議員
南 一成議員	

○9月20日に応招した議員

内山 昌晃議員

神田 栄治議員

西本 篤史議員

松田規久夫議員

落合 祥二議員

國本 悦郎議員

高月 義夫議員

谷村 善彦議員

瀨石 公夫議員

伊村 渉議員

南 一成議員

○応招しなかった議員

なし

令和6年9月9日(月曜日)

議事日程(第1号)

令和6年9月9日 午前9時00分開会

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 諸般の報告

決算審査及び例月出納検査の報告

報告第3号

令和5年度基金運用状況の報告について

報告第4号

令和5年度決算に係る健全化判断比率の報告について

報告第5号

令和5年度決算に係る公営企業の資金不足比率の報告について

議員派遣

日程第4 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 諸般の報告

決算審査及び例月出納検査の報告

報告第3号

令和5年度基金運用状況の報告について

報告第4号

令和5年度決算に係る健全化判断比率の報告について

報告第5号

令和5年度決算に係る公営企業の資金不足比率の報告について

議員派遣

日程第4 一般質問

出席議員（12名）

1番	内山 昌晃議員	2番	神田 栄治議員
3番	西本 篤史議員	4番	松田規久夫議員
5番	落合 祥二議員	6番	國本 悦郎議員
7番	高月 義夫議員	8番	河内 賀寿議員
9番	谷村 善彦議員	10番	瀬石 公夫議員
11番	伊村 渉議員	12番	南 一成議員

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長	増原 慎一君	書記	手島 千晶君
書記	穂枝美乃里君	書記	稲木 陽君

説明のため出席した者の職氏名

町 長	東 浩二君	副 町 長	川添 俊樹君
-----	-------	-------	--------

教 育 長	鳥枝 浩二君	総 務 課 長	森 清君
総 務 課 主 幹	堀 昌子君	企画財政課長	山田 浩君
税 務 課 長	藤本 直樹君	町民福祉課長	長合 保典君
健康保険課長	寶城 和之君	経 済 課 長	長谷 満晴君
建 設 課 長	吉藤 功治君	学校教育課長	山中 浩徳君
社会教育課長	福田 幸治君	会 計 室 長	江良 和美君
代表監査委員	内田 勝己君		

午前9時00分開会

(ベル)

○議長（南 一成議員） ただいまから、令和6年第5回田布施町議会定例会を開会し、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

日程第1. 会議録署名議員の指名

○議長（南 一成議員） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、松田規久夫議員、神田栄治議員を指名いたします。

日程第2. 会期の決定

○議長（南 一成議員） 日程第2、会期の決定を議題にします。

お諮りします。本定例会の会期は本日から9月20日までの12日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、会期は9月20日までの12日間に決定しました。

日程第3. 諸般の報告

○議長（南 一成議員） 日程第3、諸般の報告を行います。

本日は、決算審査及び例月出納検査の結果報告のため、内田代表監査員に出席を求めています。

決算審査及び例月出納検査の報告を求めます。内田代表監査員。

○代表監査委員（内田 勝己君） それでは報告させていただきます。

松田監査員と私の2名で実施いたしました決算審査と例月出納検査の結果について、御報告申し上げます。

決算審査は、7月26日、27日、28日、8月2日、8月3日及び9日に行いました。その結果は、事前に配付しております意見書のとおりでございます。

次に、例月出納検査でございますが、令和6年6月、7月及び8月末における一般会計、特別会計、下水道事業会計、歳入歳出外現金、一時借入金及び基金の状況は、お手元に配付しております報告書のとおりでございます。

歳計実績表、収入書、支出命令書、預金通帳などについて検査いたしました結果、現金出納事務は適正に行われ、正確であることを認めましたので御報告申し上げます。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 次に、報告第3号令和5年度基金運用状況の報告についてから報告第5号令和5年度決算に係る公営企業の資金不足比率の報告までの3件について報告を求めます。東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、3件の報告事項について、その概要を御説明を申し上げます。

まず、報告第3号令和5年度基金運用状況報告についてでございます。

これは、特定目的のための定額資金運用基金でございます奨学基金及び土地開発基金の運用等について、監査委員の審査を受け、地方自治法第241条第5項の規定により、その意見をつけて状況を報告するものでございます。

最初に、奨学基金は、基金の貸付・償還に係るものであり、詳細はお手元に配付いたしました令和5年度基金運用状況報告の田布施町奨学基金のとおりでございます。令和6年3月末における貸付者はございません。

次に、土地開発基金につきましては、基金による土地の取得に伴う土地と現金の収支状況についてでございます。

令和5年度の変動は、町道上定井手線道路改良事業における土地取得及び麻里府地区防災拠点等整備事業における先行取得いたしました用地の買戻しを行ったものでございます。

次に、報告第4号の令和5年度決算に係る健全化判断比率についての御説明でございます。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき算定した財政指標につきましては、監査委員による審査と議会への報告が義務づけられており、監査委員の意見をつけて御報告いたすものでござ

ございます。

まず、実質赤字比率及び連結実質赤字比率につきましては、本町の会計のうち、赤字または資金不足となる会計がないことから、昨年に引き続き赤字比率は生じておりません。

実質公債比率は9.7%で、令和4年度決算数値の10.4%に比べ0.7ポイント減少いたしました。

また、町債残高のほか、上水道事業や消防等の一部事務組合に係ります負債、財務負担行為の残高等を含めて総合的に算定いたしました将来負担比率は21.9%で、こちらにつきましては、令和4年度決算の19.4%に比べ2.5ポイント上昇いたしております。

なお、下段に過去5年間の財政健全化比率の推移を記載いたしておりますので、御参考にしていただければと思います。

最後に、報告第5号の令和5年度決算に係る公営事業の資金不足比率につきましては、下水道事業が対象となりますが、決算で剰余額が生じたことから資金不足の比率は生じておりません。

以上により、今回の算定では、財政健全化法に規定されております早期健全化基準や財政再生基準となる比率をいずれも下回ることとなりました。

なお、各比率の算定結果につきましては、近日中に町広報やホームページ等でお知らせをいたしてまいりたいと考えております。

以上で御報告を終わります。

○議長（南 一成議員） 次に、議員派遣について報告いたします。

6月定例会以降の議員派遣は2件で、お手元に配付した文書のとおりです。

次に、地方自治法第121条の規定により、本定例会における議案等の説明のため出席を求めた者及び委任を受けた者の職、氏名は、お手元に配付の文書のとおりでございます。

以上で、諸般の報告を終わります。

日程第4. 一般質問

○議長（南 一成議員） 日程第4、一般質問を行います。順番に発言を許します。神田栄治議員。

○書記（手島 千晶君） 本日、2番、神田栄治議員の一般質問を行うに当たり、口頭で質問することが困難であることから、議会事務局の手島が一般質問を代読させていただきます。また、再質問がある場合も一般質問同様に代読させていただきます。

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。質問方式は1問1答形式で、答弁者は町長にお願いします。

1 問目は、人口増加と美しい景観形成を目指した緑化推進についてでございます。

町の緑化推進については、令和3年度12月議会において質問させていただき、緑化が人口増加に効果があった3つの事例をお示ししながら提言しました。

町では植樹帯を新たに設置する路線、廃止する路線、現状のまま維持管理する路線を検討していること、現時点で緑化が可能な場所は、中学校正面玄関周辺との回答でした。約3年が経過しましたが、進捗状況を教えていただきたいと思います。

以上、御質問いたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えいたします。

前回、良質な住環境や緑化といった美しい景観の形成が、まちづくりの基本において重要であること。そしてその取組が、人口増加対策にもつながるというすばらしい御提言の中で、流山市、田園調布市、白金地区の3つの事例を御紹介いただきました。

その際にも御答弁させていただきましたが、樹木の植栽や管理につきましては、様々な御意見がございますので、その場所ごとの安全面や利便性といった面、そして実態に即した緑化対策を考えていきたいと考えております。

それでは、前回お答えいたしました検討の方向性についてでございますが、現在、新規の街路事業の計画がないため、植樹帯を新たに設ける路線は現在のところありません。そしてまた、現在、植樹帯を設置いたしております路線は、さくら橋通り、中央南線、旭助政線の3路線となりますが、交通事情、歩道の狭さなどから現状のまま維持管理を行いたいと思っておりますが、樹木が成長し歩道の通行や安全面に支障を来す恐れがあるところについては、部分的に撤去等の対応もさせていただいております。また、維持管理や景観から、今後、撤去等の検討してほしいという御要望のある箇所もありますので、そうした地元の御意見も参考にして対処してまいりたいと考えております。

次に、前回の答弁で、緑化が可能ではというふうに御答弁させていただきました中学校の正門周辺につきましては、通学時の状況などから、現状のままとしたいと考えています。

そして、新たな緑化、景観形成への取組で申し上げますと、現在、地域交流館の東側の駐車場の隣に、未舗装のエリアがございます。半分ぐらい舗装していないエリアがございますが、今回の9月補正で国の緊急防災・減災事業を活用し、緊急防債でございますが、これを活用させていただき、災害時にコンテナトラックによる緊急の住居提供が可能となるよう、舗装、また必要な整備を防災対策としていたしたいと思っております。その際に、町道さくら橋通り線沿いに少しではございますが、緑化のエリアを設け、歌碑やハミングロードをPRする案内板の設置や植樹ということも計

画をいたしております。

これにより、詩情公園全体の魅力アップにもつながると期待しております。具体的には、補正予算の説明の折に御説明をさせていただきます。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 神田議員。

○書記（手島 千晶君） 御回答ありがとうございました。今回質問したのは、消滅可能性自治体という報道から、何とか人口増加を図るため、町のイメージアップの方策として提言するためです。

緑化は落ち葉の処理等、課題もありますが、多くの大学で取り入れられているように、アカデミックな雰囲気を出し、中学校周辺にはうってつけだと思っております。現状のままとする理由をお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 先ほども申し上げましたが、イメージアップとしては大変よい御提言でございますが、中学校の周辺を現状のままとしたい理由でございますが、現在は本町だけでなく学校施設内の樹木等については、不審者等が非常に見つけにくくなるなどの事件、事故が発生しております。そうした防犯上の問題、そして施設管理上の理由から、できるだけ見通しがよい学校校内に、また周辺にしていこうという風潮がございます。こうしたこともございますので、歩道は現在のままとし、朝夕の通学時に元気に通う生徒たちの姿を町民の皆さんで見守っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 神田議員。

○書記（手島 千晶君） 御回答ありがとうございました。中学校周辺は難しいようですが、新規に、さくら橋線沿いに植樹されると聞き多少なりとも安堵しました。

その際、要望があります。植樹する樹種を高木でお願いしたいと思います。現在のさくら橋通り線の街路樹ですが、せっかく植えてあっても、小さくて目立ちません。ケヤキやイチョウのような高木で、幼木ではなく、かなり大きくなった木の植栽をお願いします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 御要望ありがとうございます。

現在、高木で、町の木でありますクロガネモチの木で、3メートル程度を植樹するという予定で計画をしておりますが、実際に植えるまでに、まだ時間もございますので、植付け時期や成木を移

植する際の問題等を専門家にも御相談いただきながら、高さや樹種等を検討していきたいと思いますが、御要望にありますように、町のイメージアップにつながるような、すばらしい樹木にしたいと思います。

ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 神田議員。

○書記（手島 千晶君） 御回答ありがとうございました。ところで、人口問題に関連して1点、6月定例会の一般質問で、消滅可能性自治体への町長の見解として、5人という僅かな人数が明案を分けた、あと5人多ければ消滅可能性自治体にならずに済んだと。おっしゃるとおりではあるのですが、大事なことは、田布施町は危険ゾーンにいるんだという認識を持つことだと思います。

東京都豊島区は前回、ミスもあり消滅可能性自治体になってしまったそうですが、すぐ対策本部を立ち上げたそうです。

当町においても、引き続きの強力な取組をお願いしまして、1つ目の質問を終わります。

それでは、引き続き、次の質問に移らせていただきます。答弁は町長にお願いします。

タイトルは、歳入増を図るため「ふるさと納税」の返礼品数の大幅増をです。

平成20年度にスタートした、ふるさと納税制度。初年度の寄附総額は81億4,000万円だったものが、平成27年度から急増し、平成26年度388億円だったものが、令和5年度の全国納税額は1兆1,175億円と1兆円市場になりました。これは、10年間、年平均1,078億円増加したことになります。トップは宮崎県都城市で、納税額は193億8,400万円にも及びます。全国自治体総数1,718で割れば、1自治体当たり6億5,000万円となります。一方県内では、令和5年度トップは下関市で16億7,000万円、田布施町は4,120万円で、19市町中15位となっています。

魅力的な町づくりに必要なものは、財源の確保ですが、財政の硬直化が進む中、ふるさと納税額の増収に取り組む意義は大きいといえます。そこで以下についてお尋ねします。

1、町のふるさと納税額の推移、令和元年から5年度と返礼品数。2、ホームページや広報での新規返礼品募集はできないでしょうか。3、現在の返礼品に当町の野菜や米が少ないと思うが、いかがお考えでしょうか。4、返礼品増加に向け、どう取り組んでこられたか。また、今後どう取り組んでいかれるでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えをいたします。

まず、1点目の町のふるさと納税額の推移と返礼品の数でございます。ふるさと納税額は令和元

年度が1,821万円、令和2年度は5,606万円、令和3年度は5,308万円、令和4年度は4,120万円、令和5年度が3,302万円となっております。

返礼品の数につきましては、令和元年頃は約80品でございましたが、その後、総務省の制度改正もあり、約40品目まで減少いたしました。その後、令和3年頃には70品目、令和4年頃には約100品目まで増加をいたしております。

また、令和5年10月からは、返礼品が総務省への届出制に変更になり、令和5年度総務省への申請数でございますが、118品でございます。令和6年度は新たに登録予定も含めて152品となっております。

次に、2点目の御質問でございますホームページでの新規の返礼品の募集でございますが、寄附者に対する返礼品を提供いただける協力企業の募集ということで、ホームページに掲載いたしております。ふるさと納税の趣旨や返礼品として出品することで、事業者としてのメリットも広く周知し、現在未参入の事業者の皆様にも協力していただける意識を高めていただけたらというふうな考えを持っております。

3点目の御質問でございます返礼品としての野菜や米の取り扱いでございます。米につきましては、地域交流館からの出品として登録はさせていただいておりますが、現在は御承知のように、店頭での需要が大変多いことから、返礼品としての取り扱いが実際できずに停止をしておるという状況でございます。野菜につきましては、果実もそうでございますが、日持ちや傷がつきやすいという問題があり、また、輸送にかかるコスト等も高く、対応できる業者が限られているのが現状でございます。

次に最後、4点目の御質問でございます。返礼品増加に向け、どう取り組んできたか、また、今後どう取り組んでいくのですかということでございますが、これまでは事業者からの随時の提案を受け、季節限定商品や新たな返礼品を追加をしております。しかしながら、令和6年度の総務省における制度改正で、返礼品の登録は年に1回、今年でございますと7月でございます。

今後はこうした年に1回の登録時期も見据えて、計画的な取組を進めていく必要があると考えております。

なお、昨年10月から、自治体が寄附を募る経費を寄附額の5割以下とする、いわゆる経費率の基準が非常に厳格化されてきております。本町の場合、返礼品の調達価格が非常に低いものが多く、それに対する送料等の割合がどうしても高くなってしまいうということから、この基準内に収めることに今大変苦慮しているという状況でございます。それに対します国からの指導が、今後さらに厳格になってくるといような感じもいたしておりますので、ふるさと納税に関する大きな課題だと

いうふうに考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 神田議員。

○書記（手島 千晶君） 御回答ありがとうございました。繰り返しになりますが、ふるさと納税は歳入増を図りたい地方自治体にとって、これほどうれしい税金はありません。納税額の半分は返礼品と経費でなくなりますが、あとは指定寄附以外は自主財源です。努力次第で納税額を増やせることが最大のメリットです。

県内に目を向けると、令和5年度ふるさと納税額は、下関市が1位で16億7,000万円、田布施町は19市町中14位で3,302万円です。ちなみに、令和4年度は13位で4,120万円でした。19市町のふるさと納税額の平均が約2億3,000万円なので、納税額、順位ともにもっと上げたいと考えますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 議員おっしゃるとおりでございます。

先ほど答弁で申し上げさせていただきましたが、本町におきましては、令和2年度に5,606万円といった納税額がございました。その後、いろんな制限等もございまして、低下をしておりますので、何とか令和2年度水準とはいわず、もっと増収を図りたいと考えておりますので、経費率への国の非常に厳しい指導もございますが、新たな返礼品を増やすとか、本当に価値のある、価格の高い額に、アップに直接つながるようなものも、町内企業さんと一緒に考えていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 神田議員。

○書記（手島 千晶君） 御回答ありがとうございました。

現在の返礼品に、当町の野菜や米が少ないと思いますが、いかがお考えでしょうか。米については返礼品としての取扱いは停止しているとのことでしたが、復活できないものでしょうか。野菜も対応できる業者を増やせないでしょうか、お尋ねします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） まず、お米についてでございますが、端境期に起きる一時的な米不足が報道され、地域交流館でも店頭で多くの需要があつて、なかなか返礼品として対応するということができないという状態が続いておりましたが、新米が入荷してまいりましたので、現在は再開をさせていただいております。しかしながら、どうしても端境期を抱える品というのは、需要と供給の状況が非常に読みにくいということもございますので、そのためには、生産者や地域交流館が玄米の

冷蔵施設をもう少し増やす、また交流館については、新たに確保していただくとか、そういったことがございませんと、どうしても量の確保ということは、現在の米の流通量から見ると、非常に厳しい問題かなと思います。

そのためには、行政がどういった支援ができるかというのは、いろんな農業関係者の皆様と一緒に考えさせていただきたいというふうに思います。

また、野菜につきましても、必要な時期に必要な量がお約束どおり確保できるか、また確実に輸送に耐えられる品質や処理、包装ができるのかといった課題もございませんと。そうしたリスク管理や相当の出品に関しては品質保障というノウハウが必要となりますので、今後、生産現場や出荷現場、また、そして商品として出荷する、その辺の専門人材の育成やノウハウを現場と一緒に考えながら開拓していきたいと考えております。ありがとうございました。

○議長（南 一成議員） 神田議員。

○書記（手島 千晶君） ふるさと納税の返礼品の創出は、単に返礼品の数を増やすだけでなく、特産品のPRや販路拡大が図れ、地場産業活性化に寄与することから、目標を立ててしっかり取り組んでいただきますようお願いいたしまして、2問目の質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

神田栄治議員の一般質問の代読でございました。

○議長（南 一成議員） 以上で、神田栄治議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） 次に、内山昌晃議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

本日は2問で、一問一答方式。答弁者はいずれも町長でお願いいたします。

それでは、1問目です。介護保険料、国民健康保険税について。

本町の介護保険料は、県内19市町の中で最も低料金であると聞いています。65歳以上の方の経済的負担の軽減に寄与していることと思います。

一方、国民健康保険税は、令和4年度に税額の引下げを行い、本年度は平等割合を2,000円引き下げたことから、本町の国保税額も県内自治体の中でも低料金の位置にあると思われませんが、どの位置にあるのか。また、介護保険料、国保税とも他市町と比較して低料金となっていることに要因は何かお尋ねをします。

また、介護保険料、国保税に直接関連する介護・国保の保険給付費の今年度の状況と見通しはどうか。さらに国保税の軽減・減免の状況、その中でも子ども、未就学児の均等割軽減、令和6年1

月より始まった産前産後期間における軽減の状況について、併せてお尋ねいたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） お答えをいたします。

議員がおっしゃるように、田布施町は介護保険料が県内で最も安くなっております。これは、皆様方の常日頃からの健康づくり、介護予防への意識の高さが、医療費や介護保険料の低減につながっているわけでごさいます、大変感謝申し上げるところでごさいます。

さて、御質問の1点目は、さきの介護保険料ではなく、今度は本町の国民健康保険税、県内で何番目に低いかということでごさいます。被保険者の世帯構成により異なりますが、インターネットでの国民健康保険の自動計算サイトの例によりますと、単身世帯では県内2番目に安うございます。次に、父母40歳以上と小学生2名の世帯、標準的な世帯では、県内で最も安くなっております。

次に、2点目の介護保険料及び国民健康保険税が低い要因でごさいますが、まず介護保険料につきましては、本町の高齢化比率は19市町の9番目でごさいますが、介護費用は17番目となっており、高齢者1人当たりの介護費用が少ないという特徴でごさいます。また、これに加え、令和6年度から8年度までの第9期計画期間中においては、基金を約1億5,000万円繰り入れるなど、介護保険料の抑制に努めてきたわけでごさいます。

また、国民健康保険税につきましては、本町はもともと医療費水準が低かったこと、そしてまた、これも同様に、長期的な視点から計画的に資金を繰り入れてきたことなどに、保険税の上昇の抑制に努めてきたといったことが主な要因かなというふうに考えます。

次に3点目。令和6年度の介護給付費、医療給付費の見込みについてでごさいますが、令和5年度と令和6年度の4月から8月までの支出額を見比べますと、介護給付費は、介護職員の処遇改善の影響や、このところの施設サービス受給者が増加していることなどから、現在のところ、令和5年度より約8,000万円程度増加し、14億8,000万円程度になると見込んでおります。

次に、医療給付費については、大きな制度改正はございませんでしたが、被保険者数の減少等により約5%程度低くなってきております。今後の医療費の動向につきましては、6月から適用された診療報酬改定の影響等、まだまだ不透明なところが多々ございますが、こうした状況が続くと仮定すれば11億1,000万円前後になると見込んでおります。

4点目の今年度の国保税の子ども均等割軽減、産前産後期間の軽減の状況についてでごさいますが、子ども均等割軽減を受けられた方は、7月末現在25世帯36人でございます。

次に、産前産後に係ります軽減につきましては、現在5人の方が適用を受けられております。

以上です。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ありがとうございます。国保、介護ともなかなか制度が複雑で難しく、また法令で全て骨格が決められていて、なかなか自治体の裁量でどうにかできるものでもないというところは重々承知しておりまして、その中でも、このように介護保険料については県内で一番安い、国保についても標準の4人世帯であれば一番安いということで、大変誇らしいというか、田布施に住んでいただく上でのこういうことが、いい指標になるのではないかというふうに思っております。

それで、まず、介護保険の方からいろいろと質問していきたいんですけど、基準額というか第5段階というところで、今年から13段階ということで、きめ細かい段階が設定されておりますけど、当然ほかの段階も安いであろうと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） お答えいたします。

県内の各段階別の介護保険料の状況でございますけれども、まず、第2段階及び第13段階につきましては、下関市さんが一番低いということになっております。この理由といたしまして、第2段階のほうなんですけれども、基準の保険料額の乗率を下関市さんは第2段階に下げられておりまして、標準0.485に対しまして0.385というふうな乗率を掲げております。そして13段階が一番低かった理由なんですけれども、下関市さんは多段階化を行っておりまして、現在16段階の保険料の段階としております。ですので、田布施町でいきますと13段階が下関市さんのとこで16段階、そして12段階のほうは15段階というふうな形になっております。ですので、その細分化によって、13段階でいきますと下関市さんが一番低くなっているという状況でございます。そして第12段階につきましては、光市さんが一番低くなっております。これも国が示した乗率よりも、標準でいきますと2.3を乗ずるところは1.975を乗ずることにしておりまして、その分が一番低いということになっております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 各市町とも、いろいろこういうふうに工夫をされて、頑張っておられるということだと思います。軽減というか、そういう話になるんですが、後ほど国保税に対する軽減というのはまた質問させていただくんですけど、介護保険、軽減がないということだと思うんですけども、恐らく13段階、きめ細かくそれぞれ保険料を設定をしているというところが、まあ軽減がないということなのかなというふうに思いますが、そういう認識でよろしいでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 議員さんお見込みのとおりでございます。基本的に介護保険料といたすのは、乗率というのは国が一応標準を示しております。これを変更する場合について、多段階化を行いまして、計画期間中に必要な保険料の総額が確保できるようにというふうに設定するようになっております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ありがとうございます。続いて、答弁でもありましたけど、介護給付費のほう、今年度見込みですけれど、8,000万円増えるというところをおっしゃいました。最終的には、この不足分というのは、基金を取り崩して補填をするのかということなんですけど、いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 現在、令和8年までの3年間での計画を立てておりますが、この計画期間中に約1億5,000万円の基金を投入する予定でございます。そして、今のところ、この3年間の総額で必要となるかならないかということになってきますので、今のところは、当初予定しております1億5,000万円の基金の投入で賄えるのではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 3年間の間で1億5,000万円を、基金を繰り入れるという、に含まれるというところだろうと思います。想定内というか、計画どおりということであろうというふうに思います。今おっしゃいましたけど、6年度から8年度、3年間の今回の保険料ということで、次、3年後といいますか、令和9年度からを、また次の保険料をどうするかというところが、これがまた重要な課題となってくると思います。引き続き県内のほうでも安いほうで、できれば推移をしていただきたいというふうに思っておりますけど、そうするためにはどうしていったらいいかということ、ちょっと漠然な質問で申し訳ないんですけど、どうお考えでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 介護保険料が高くならないとか、上昇を抑制するには、やはり介護給付費の低減というのが必要になってこようかと思っております。介護給付費の低減をするには、認定者が少ない、そして1人当たりの介護給付費が少ないということが求められるわけでご

ざいます。これらを行っていくためには、やはり介護予防と、それから介護が必要になった方に対する重度化防止というのが、必要になってくるというふうに考えております。

介護予防につきましては、平成28年から、百歳体操をはじめとした介護予防事業を展開しております。コロナの影響がありまして、一時停滞しておりましたけれども、コロナが明けて皆さんの活動が活発になってまいりましたので、この百歳体操をはじめ、今、田布施町で、たぶせ茶屋事業ということで、健康麻雀などいろいろな事業を行っておりますので、こういうのを活用して、介護予防を進め、そして認定者の増加を抑制していきたいというふうに思っております。

また、重度化防止につきましてはなんですけれども、ケアマネジャーさんが、介護になった方々に対しましては、ケアプランというものを作成いたします。こちらのケアプランの内容等をそのままやるのではなくて、例えばハビリの専門職、医学療法士さんですとか、作業療法士さんとか、そういうふうな方も踏まえたケア会議というものがあるんですが、こちらのほうで内容を確認させていただきまして、その方が介護度がどんどん上がっていかないように、もしくは、できれば軽減できるよというふうなことを、専門的な検知から御意見をいただく場を設けております。このような活動を行いまして、そして、そこで得られた情報を、ケアマネジャーさんなり介護事業者の皆さんにフィードバックしていくことによりまして、重度化防止を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ありがとうございます。給付の低減ということで、いろいろこれからやっていくこと、やってきていたことということ、よく分かりました。

後ほど、また西本議員のほうから、いろんな提言とかあると思いますので、それはもう西本議員さんのほうにお任せをしたいというふうに思います。

続いて、国保税のほうです。

まず、単身世帯では県内で2位と、それから標準の4人世帯では県内で一番安いということで、これも大変すばらしい、誇らしいことであるというふうに思います。

答弁の中で、もともと医療費水準が低いであるとか、計画的に基金を繰り入れてきたことが、その要因であろうということであると思います。

国保税については、もともとこれは瀬石議員のライフワークというか、もう常々言ってこられたことが、本当にここで実を結んだということだと思っておりますので、そう思います。

医療給付費についてなんですけど、被保険者数の減少等で、見込みが11億1,000万円程度ということで、ほぼほぼ予算額と同程度ということだと思っております。このまま推移してくれば、余計

な持ち出しもなく、引下げをしたことも十分それをカバーできるということであろうというふうに思います。

今、制度が変わってしまって、もともとは自治体単位で保険を運営をしておったということなんですが、最近では県単位、広域というか、県のほうが保険者となって運営をされているということだろうと思います。

例えば、以前だと高度医療といいますか、高額な医療が、本当診療報酬が2,000万円、3,000万円の医療が発生すれば、それがもう単独の町であれば打撃となって運営が厳しくなるというようなことが、昔であればあったと思うんですが、今、例えばそういう医療が発生した場合というのは、どういうふうになるのでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 今の医療費がかかった場合、それが高額であった場合であっても、基本的には国のほうから、特に県のほうから交付金というのがありますので、そちらによって賄うということになります。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ちょっと言い方悪いですけど、県全体で割り勘効果というか、それをほかの市町で支えてもらっているというような考えでよろしいかということと。

例えば、そうやって割り勘効果でいただければ、恐らくうちからまた県のほうへ納付金というか、そういうのも発生してくるんじゃないかなというふうに思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） まず、町の保険料等が定める場合に、県のほうから、まず標準税率というのが伝えられます。これに基づきまして、その当該年度の保険税額なり、保険税の両立なりというのを定めていくわけなんですけれども、医療費がたくさんかかった場合につきましては、例えば後年度に、またそういうふうな標準税率のほうに反映されてまいりますので、その場合には、その標準税率が高くなることによって、翌年度に影響が生じるということになってくるかと思えます。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 少なからず影響があるということだろうと思います。見込みどおり、このまま医療費のほうで推移してくれば、また次の、できれば引下げにつながっていくので

ないのかなというふうに思います。

では、続いて、軽減や減免というところで質問をさせていただきます。

軽減、減免をすれば、軽減した分だけお金が入ってこなくなるということなんですけど、単純にこの少なくなった分というのは、国や県から、これは補填というか交付金とか補助金で補填はされるのかということなんですけど、いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 法定といいますか、全国一律の制度で軽減を行うものに対しましては、国庫のほうからの補助金なり、県からの補助金なりという形で補填がされるようになっております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 今言われた全国一律のものということ、補填をされるということ

です。
一律でないもの、例えば本町独自のものというのがありますでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 本町独自でいきますと、今年度平等割のほう2,000円減額というのを行っております。こちらが本町独自ということになります。

この財源につきましては、町が今までありました国保の基金のほうから繰り入れることによりまして対応しております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） まさしく自治体独自の軽減ということで、2,000円と僅かな軽減でありますけど実施をしていただいたということで、大変ありがたいことだというふうに思います。

それでは、通常の軽減、2割、5割、7割という軽減があると思います。これも確認なんですけど、この軽減は応益分、均等割と平等割、これを2割、5割、7割という軽減をするということだと思いますけど。その確認と、それぞれどのぐらい軽減の世帯数があるかということ、ちょっと確認させていただいてよろしいでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 軽減の対象になりますのが、平等割、均等割のあたりなんですけど

れども、軽減対象の世帯数につきましては、2割軽減世帯が271世帯、5割軽減が382世帯、7割軽減が686世帯となっております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） かなりの世帯の方が軽減をされているということで、これは国一律の方法だということで、これは引き続きお願いをしたいというふうに思っております。

それから、次が、答弁にもございましたが、未就学児の子ども均等割と、軽減ということだと思います。25世帯、36人あるということで、こちらは均等割が半額ということです。これは、その子どもさんに対しての軽減ということの確認が一つと、仮にそうであれば、子どもさんなので、介護分というのは賦課されないので、医療分と後期分を合わせたものを半額にするということかということと。

それから、例えば、ここの世帯が2割、5割、7割軽減に該当している場合は、その2割、5割、7割軽減後の額が半額になるのかということの質問です。お願いします。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 均等割のほうは、議員がおっしゃったとおりの部分が軽減ということになるかと思えます。

そして、軽減が基準額から半額になる、減額されるという理解でよろしいでしょうか。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 例えば、その世帯が2割世帯に該当していた場合は、2割軽減後の額のさらに半額なのかということの質問ですが。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） すいません、その部分については、ちょっと今手元に資料がございませんので、また後ほど回答させていただけたらと思います。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） また、よろしく申し上げます。軽減を二重で受けられるかというようなことの趣旨でございます。

それから、続いて、産前産後の減免制度というところでございます。答弁では、5人の方が適用されているということで、ちょっと、この減免制度の内容というかを教えていただいたらというふうに思います。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） これは昨年12月議会のときに、たしか提案させていただいたものかと思いますが、こちらの産前産後適用になりました場合に、扶養者の均等割が、たしか軽減になったかと思うんですけれども、こちらの被保険者の均等割の4か月分が軽減になるというふうに記憶しております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ありがとうございます。出産前1か月、それから出産月と出産後の2か月、今おっしゃられた4か月ということなので、これが、それは奥さん分が軽減をされるということだろうと思います。

先ほども言いました、未就学児の人頭割とか産前産後の軽減ということで、子育て世帯に優しい施策ということで、この辺もどんどんPRもしていただいて、進めていっていただいたらというふうに思います。

そのほかですね、いろいろ軽減たくさんあります。75歳で後期高齢者に移行したことによる軽減とか、ちょっと難しいんですけど、社会保険から後期高齢に移行したときの扶養者、奥さんに対しての軽減ですかね、それから非自発的失業者と、会社都合といいますか解雇といいますか、そういう方に対する軽減、減免だと思います。

このように、たくさん軽減、減免があります。その中でも、申請をしなければいけないもの等も、申請しなくても自動でなるものというようなこと、制度の難しさも含めまして、なかなか町民の方、把握をしていられないと思います。

ですから、これらのことを、やはり、もっと広報とかホームページで知らせてはいると思いますけど、もっともっと知らせていただいたらというふうにも思いますし、先ほど来から言っています、保険税が安いんだよというのをも併せて、もっとPRをしていただいたらなというふうに思います。

それで、あとは現行の保険税額なんですけど、できる限り、現行の保険税額は安いままで維持はされるものだというふうに思います。やはり、今後、この基金をどう有効に使っていくのかということもありますし、健康増進計画等も、今、策定もされて、それにのっかって健康づくりのほうも充実をさせていって、できるだけ医療費も安くするというふうなこともあろうかと思っています。

それから、これもよく國本議員がライフワークで言われておるんですけど、健診とか、その辺の推進というのにも必要になってこようかと思いますが、今後どのような施策を講じていくことが重要であるか考えるか、ちょっとまたこれも難しい質問だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） まず、保険税額につきましては、どうしても毎年、毎年、県が示します標準税率というものが、どうしてもそこにとられるというわけになってしまいますので、それが上昇しないようにというふうなのを図っていこうというふうなことを今、考えておるところでございます。

基金につきましては、現在、計画的に繰入れを行っておりまして、これも継続して繰入れを行うことによって、上昇抑制に努めてまいりたいというふうに、今思っております。

また、町民の健康維持のための施策につきましては、やはり健診であるとか、あとは今、第2期健康増進計画が令和7年度までで、次期の計画の策定というのを着手を始めているところでございます。

こちらの計画につきましても、心と体の健康の維持ですとか、食育の推進というふうな形、そしてまた、健診の実施体制の強化というふうなことをうたう予定といたしております。

健診のほうにつきましては、働ける方の受診機会を確保するために、今、特定健診の集団健診が土曜日に一日行っておりますけれども、受診機会を増加させるためには、次年度以降、その実施日程について、休日または土曜日開催の日程日数を増やすなど、そういうふうなところを、ちょっと検討してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ありがとうございます。まさに言われるとおりのことだと思います。引き続き取り組んでいただけたらというふうに思いまして、1問目の質問を終わります。

続いて、2問目です。外郭団体の公金管理、補助金等適正化条例についてです。

県内自治体の外郭団体の職員が、1億5,000万円を超える金額を着服した疑いがあると報じられました。全国的にも程度の差こそあれ、このような事案は多々発生しています。

本町の外郭団体においては、このような事態が発生しないよう、公金の管理をどのように行っているのかお尋ねします。

また、これに関連するものとして、外郭団体への補助金等の交付の公正の確保と適正化を図ることを目的とした、田布施町補助金等適正化条例がありますが、その運用状況について併せてお尋ねします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えをいたします。

本町の外郭団体につきましては、財団法人や社団法人といったものではなく、自治会連絡協議会や、

まちづくり推進協議会、老人クラブ連合会といたしました、町や町教育委員会が事務局となっているもので、令和6年3月末で109の通帳がございます。こうした通帳の残高につきましては、毎年度、企画財政課において3月末現在に各通帳の実態調査を行っておりまして、残高のほか、決裁や監査の状況も詳しく確認をいたしております。

なお、こうした通帳につきましては、役場に通帳と印鑑がございますので、ほかの団体もそうでございますが、その管理については引き続き徹底をしたいと考えております。

次に、田布施町補助金等適正化条例についてでございますが、この条例の対象となる町から補助金を受けられております団体につきましては、3年ごとに補助金交付の効果等を検証しておりまして、今年の秋も、しばらくすれば、補助金等適性化チェックをするように予定をいたしております。このチェックの方法は、過去3年間の補助金の実績額と決算剰余額を整理し、担当課から運用状況等について聞き取りを行っております。

なお、条例の対象となる団体につきましては、町から補助金を受けている団体で、商工会や法人保育園などの外部の団体も含まれますが、外郭団体につきましては、必ずしも町から補助金を受けるとは限らず、町の事業に関係する事務を行う団体でございますので、双方が同じ団体構成ということとはございません。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） ありがとうございます。答弁の中に、令和6年3月末で109の通帳があるということがございますけど、おおよそこれが外郭団体の数ということなんでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 団体内で複数の事業等もやっておる団体もございますので、その辺ちゃんと整理はできておりませんが、おおむね100団体から105団体ぐらいじゃないかと考えております。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） やはり公金を扱う団体ということで、やっぱりそれを取り扱う規約といたしますか、そういう指針といたしますか、そういうものはつくられておりますでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 公金取扱い事務は、指針というものをつくっております。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） なので、その指針にのっとって、適正に管理をしているということであろうと思います。

ちょっと細かいことというか、これ大事なことなので聞いていきたいと思うんですけど、ほとんどが町職員が会計を行っているという私の認識なんですけど、職員以外の会計を行っているところも当然あるということではよろしいでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） その運用によって、現場で通帳管理したほうが良いというような事業もあると思いますけれども、基本的には課のほうで責任を持って、どこかでチェックをするとか、そういう管理はされていると認識をしております。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 出入金のやり方というか、支出ごと収入ごとに、それぞれ決済を受けているのかということが一点。

それから、通帳と印鑑を別々の人が管理をするということができているか。それから、管理は鍵のかかるところで施錠管理をしているのかということ。それから、現金管理はしていないかということ。それから、現金を受け取った場合は、受け取る場合は、複数の職員で受け取っているか。それから、領収書を発行しているか。受け取り後、速やかに口座に入金をしているかというような、ちょっと本当に細かいんですけど、この辺はいかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 通帳の数が109ございますので、私も自分の足で歩いて、直接見てということはちょっとできておりません。

しかし今回、年に1回、外郭団体の調査を私のほうでやっておりますけれども、通帳と印鑑が管理が同じというふうに回答されているところもございましたので、今回、決算監査でそういう是正するようにという指摘もございました。

ただ、調査ものではそうなっていても、実際にはちゃんと別のところで管理されているということもあるようですので、ちょっと正確なことはこれから把握してまいりたいと思っております。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 実態調査をされたということで、できていないところは、今後は適切に管理をするように指導していただきたいというふうに思います。

それで、あと重要なのが通帳残高を定期的に確認をするということも大事だと思います。年1回の監査のときに合わせるのではなくて、半期に一度とか、四半期に一度とか、定期的に御確認をし

ていただいたらというふうに思います。

それで、ちょっと、令和5年度の田布施町歳入歳出決算基金の運用状況に係る審査意見書と監査委員さん出されている、資料が本日配られておりますけど、この中の13ページ、「社会教育課」というところの①番で、通帳管理という記述がございます。

社会教育課が所管する通帳は全体で76冊、全体の70%を占め、そのうち公民館関係が60冊と多く、前回指摘されたものについては対応し、改善されている。残高の多い事業については、さらに内容を把握し、適切に処理をされたい。

ということで、通帳残高が多い事業については、ちょっと見直しをしてはどうかというような書きぶりだと思います。

町長の答弁にもございましたけど、秋頃に補助金等適正化チェックを実施しますということがございます。過去3年間の補助金実績額と決算余剰金を整理し、担当課から運用状況について聞き取りを行うということもございますが、このあたりについては、やはり余剰金のあたりを比べると効果が少ないというようなことがあれば、指導なり、そういう措置を考えているということによろしいんではないでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 非常に長い歴史もあるということもございますし、これまでも、いろいろ財政が非常に厳しくなったときに、金額を見直したりということございましたし、最近もちょっと効果が上がっていないのではないかとこのようにずっと言われていたものについては、廃止したりとかいうことは実際にしております。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） それでは、ちょっともう今、補助金等適正化条例のほうに行っていると思いますので、そちらのほう質問させていただきたいと思います。

条例を見ますと、目的からずっと書いてあります。補助事業者となるものの範囲ということで、公共的団体とか、いろいろ書いてありますけど、町の区域外において事業を広域的に行うものという、これが交付団体に認められているような書きぶりなんですけど、実際に町外のこういう事業者というか、いらっしゃいますか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 前回の補助金の適正化チェックをやった団体の中では1団体ございまして、これは大島商船の関係の島スクエア、起業支援の関係ですけれども、こちらが1団体ございました。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 島スクエア関係ということで、承知しました。

それから、先ほども質問したんですけど、3年ごとの見直しということで、条例を見てみますと、3年ごとに補助金の交付の目的及び効果を測定し、補助金等の見直しを行うものとするということが、これは第9条に書いてありまして、第10条に補助金等の見直しの原則ということが書いてあります。

内容としては、支出の目的を達成したものや一定期間補助金を交付しても実績が上がらないものについては廃止をするということや、それから、例えば、自主運営が可能であると判断されるものについては補助金を廃止をするということで、もうその見直しの前提が廃止というようなことに限定をされているように私は受け止めるんですけど、実際そういうことでよろしいのでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 廃止をするべきかどうかというチェック項目がございまして、これは4種類ございます。今、議員がおっしゃられた感じのことなんですけれども、これに全て当てはまるようなものであれば、もう廃止なんですけれども、一つ当てはまったとしても、全体的には、そこはちょっと各課の判断にはございますが、先ほど申し上げましたように、そういうチェックをする中で実際に廃止した団体というのはございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 見直しということで、例えばもっと効果が期待できるというような場合は、例えば増額というのものもあるのかというのが、まず一点。

それから逆にですね、実績報告額というか、交付決定額よりも、実績額が下回った場合、これは恐らく返還と、補助金の返還というようなことになろうかと思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 増額につきましては、ほとんどないんですけども、その事業の種類によっては、ちょっともう少し頑張ってもらおうじゃないかということであれば、一時的に増額するというのもございます。

それから、最近コロナ禍ということもあって、なかなか事業ができなかったという団体もありました。補助金を減額する場合と返還させる場合、つまり、変更決定して減らす場合と精算で返していただくと、こういう場合がございます。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 返還の実績というのがありますか。例えば、昨年度で言えば。いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） コロナ禍でちょっと集まることができなかったというんで、補助金が使えなかったというので、これは、たしか返還していただいたのではないかというふうにはちょっと思っております。

○議長（南 一成議員） 内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） 分かりました。なかなかこの補助金適正化条例というのは難しい、運用が難しい条例だなというふうに思います。やっぱり3年に一度、条例のほうで見直しをうたわれておりますので、きちんと節目の年には精査をして、実績、その効果等検証されて、適切に運用していただいたらというふうに思います。

それと、あとは公金ですね。やはり事故があってははいけませんので、これはきちんと運用していただいて、適切に管理をしていただきたいということを節にお願いしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（南 一成議員） 以上で、内山昌晃議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） ここで暫時休憩します。15分時間を取りますので、10時35分から再開したいと思います。

午前10時20分休憩

.....

午前10時35分再開

○議長（南 一成議員） 休憩を解きます。

先ほどの内山議員の質問に対して、執行部より回答があります。寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 先ほど、ちょっとお答えできなかった部分につきまして、お答え申し上げます。

未就学児の均等割軽減につきましてですけれども、こちらのほうは、軽減がまず一旦適用された後の均等割について、さらに軽減を図ることとなります。

ですので、軽減がない世帯については、その当該子どもの均等割について5割軽減、そして2割軽減世帯の方につきましては、2割軽減後の均等割について、さらにまた5割軽減するという流れになっております。5割・7割軽減の世帯についても同様の取扱いでございます。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） それでは、休憩前に引き続き一般質問を続けます。

松田規久夫議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） 一問一答で3問。

1 問目は、税と社会保障率の負担率を問うと題しまして、町長へ。

2 問目は、児童・生徒に対する就学支援と題しまして、町長、教育長へ。

3 問目、緊急避難場所を指定し環境整備をと題しまして、町長。

よろしく願いいたします。

子どもを持っている友人を見て羨ましく思う、自分もそうなりたいと思う、この思いがなければ、結婚したり、子どもを持ったりしない。結婚し子どもを持つ友人を見て、その生活が苦しそうなら、独身や子どもを持たない選択をする。しかし、生活が苦しくても家族を持つ喜びはあるのだが、これは外見から判断できない。社会保障費の負担が重く、給与の手取りが少なくなれば、家族の生活は苦しくなる。今後も結婚しない若者は増加すると予測できる。若者の貧困をなくし、生活苦とまらない所得を確保する政策が必要と、私は考える。

標準世帯をモデルに、長期にわたり、税と社会保障費負担率の質問が続いている。従来同様の試算条件で、年収300万円、500万円、700万円の負担率をお尋ねします。また、高齢化が進む現在、75歳の高齢者1人世帯の年収——年金収入となりますが、110万円、200万円では。

よろしく願いします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えいたします。

町民の税と社会保障費の負担率についてのお尋ねでございます。試算の条件は、昨年同様に、40歳代の御夫婦と子ども2人、4人世帯で、国民健康保険加入の給与所得者として、年収を300万円、500万円、700万円の3つのパターンで算出をいたしました。また、固定資産税につきましては、償却資産を除いた平均税額として算出いたしております。

まず、税負担についてでございますが、固定資産税は減となっておりますが、所得税及び個人住民税の試算では、前年の社会保険料控除額の減による所得課税額の増により、微増となっております。

また、社会保障負担につきましては、国民健康保険税は減額となっておりますが、国民健康保険の保険料の増により、増額となっております。

年収別の負担額及び負担率につきましては、年収300万円の世帯では、税負担が9万3,300

円、社会保障負担が72万1,420円で、負担率は27.2%になります。昨年度より0.4ポイントの増となります。

次に、年収500万円の世帯では、税負担が29万5,000円、社会保障負担が92万5,720円で、負担率は24.4%となり、0.2ポイントの増でございます。

最後に、年収700万円の世帯では、税負担が56万7,100円、社会保障負担が110万6,020円で、負担率は23.9%となり、0.1ポイントの増となります。

また、新たに御質問ございました75歳の高齢者1人世帯で年金収入が110万円と200万円の場合を試算いたしますと、保険料控除の増により、負担率はそれぞれ、4.2%と10.2%となっており、あまり昨年と変わりはありません。

なお、今年度におきましては、定額減税、そして各種給付制度が入ってまいりましたので、それらを新たに加味いたしますと、40歳代の4人世帯では、年収300万円、500万円、700万円のそれぞれの負担率は、25.2、22.0、21.6となり、大体2%ぐらい低くなっているというふうに感じます。

それと、75歳の1人世帯では、年収110万円と200万円で、それぞれ3.8%と9.4%となり、0.4%ぐらい低下しているというふうに感じております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） 今年度の定額減税あるいは給付金等によって、多少数値的には下がっていますが、いずれにしても、2割を超えるような負担ですから、結局、働いた対価として給料をもらっても、2割強が消えていくようなイメージになると思います。社会保障費は、世代間の助け合いという要素が強いものですから、ある程度の負担はやむを得ないと思います。

私、考えてみますと、生まれてくる子どもが50人程度になったと、ということは、成長して高校を卒業するまでは田布施にいるかも分かりませんが、それ以降は、大学あるいは就職でよそのほうへ出て、地元でUターンで帰ってくる子なんかを含めても、自分のときは同級生が350人おりましたが、田布施に残るとるんが50人ぐらい、正確に数えたことはないですが、おったにしても最大その程度で、ですから、50人の子どもだったら、田布施に残る子は一桁になるんじゃないだろうかと、そういう思いでおります。

そういうふうなことが将来考えられるんですが、残る子どもが一桁ぐらいの人数になった場合に、人が減れば、当然、それに伴い自主財源も減ってきます。急激な人口減少による将来の財政というのは、描けているんでしょうか。特に、直ちにに取り組む必要があると財政的に考えているものに

何かあるか、お尋ねします。

○議長（南 一成議員） 山田企画財政課長。

○企画財政課長（山田 浩君） 毎年、予算編成に先立ちまして、今後5年間の収支見通しというものをしております。それによりますと、令和10年度までにつきましては、町税の税収についてはそれほど大きな減収を、その影響は見えてはおりません。

その先につきましては、税収が減れば地方交付税で補填されるという仕組みはございますが、ただ、10年先とか20年先になってきますと、これを見通すのはちょっと難しいというのが正直なところでございます。

直ちにに取り組む必要があるものといいますと、人口が減ってまいりますので、当然いろいろ公共施設の規模であるとか、そうしたことも考えていかないといけないんですけども、直ちにというのはなかなか難しい面もございます。

それから、交付税を我々もらっていますので、収入を増やすということでは、交付税制度の外、つまり、ふるさと納税が代表的ですけども、そうしたものでちょっと増やして行って、頑張っていけたらというふうには思っております。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） 田布施町は自主財源が3分の1で、将来的にも交付税頼みの、国が頼りだというこの辺りは、今日の1番目の神田議員の質問等、あるいは町の職員、若返りましたので、よりいいアイデアを募って、収入が増大するような施策を考えてもらったらと思います。

最近、夫婦別姓のことがですね、長年にわたって結論出でなかったんですが、解決の方向だと思います。不公平という形でいえば、ここにいるほとんどの人が、給与所得があるんですが、この中に扶養手当がありますね。結婚しとれば、その配偶者の金額によって、もらえる人、もらえない人がありますが、結婚しとるか、してないかで、その手当がある、ないというのは、非常に不公平だと思います。町役場も結婚しない、あるいは結婚できない、そういう人から見ても、配偶者手当を含む子育ての扶養手当がある、ないというのは、非常に不公平だと思います。本来的には、この金額は働いた対価ですから、等しく私は全員に分ける必要があるんだと思いますね。

社会保障費というのは世代間の助け合いですから、そういうイメージでみんなに、収入の多い人、少ない人で分けているわけですから、私はこの扶養手当というのは、非常に不公平な給与制度だというふうに思っているんですが、これについては社会保障を含めまして、どういうふうに町のほうでは思っておられるでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 今おっしゃいますような論議が、今、総裁選を含めて、いろんな性の問題、名前の問題、扶養と、いろいろ出てまいります、おっしゃいますように、やはり世界、社会が変わってくるという中で、また見直されるのかも分かりませんが、収入というものに対して、やっぱり高い収入の方はありませんので、その辺の所得制限もございませうけども、おっしゃいますように、少し加算をしているようなものも当然ありますので、それをどう捉えているのか。

例えば消費税の話でも、同じ収入の方から見ると、やっぱり今、食品について、消費税を減額なり、かけんほうがあえんじじゃないかという論議もありますし、やっぱり社会全体として、どういふふうにやっぺいこうかという問題でございませうので、扶養手当については、今、国の制度に沿ってやっぺいしておりますので、今後そういう制度改正があれば、所得制限なり、ルールなり、変えていきたいと思ひますが、今は国の制度で運用いたしております。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） 国の制度ですから、町長がどうする、こうするという答弁をですね、私は、それを聞くのは無理な質問になります。消費税のことも言われましたが、機会があれば、町長、県とか国にですね、不公平というのは、やはり一つの、どう言うたらええんですかね、若者が物事を考えていく上で、たどりたどっていったら、なかなか少子化に歯止めがかからんというこの辺ぐらゐまで、「風が吹いたら桶屋がもうかる」じゃないですが、つながっていくんかも分かりません。

扶養手当を言ひましたが、2問目では児童手当のことについてちょっと聞きたいと思ひませうので、1問目はこの辺りにして、2問目に行きます。

児童・生徒に対する就学支援。小・中学校の給食費は、義務教育であり無償化が望まれる。給食費の無償化をコロナ後も明確にしている自治体もある。多額の財政措置を要す田布施町の給食無償化をお尋ねします。

次に、小・中学校の入学時の支援について。中学校ではブレザーの制服が導入されたが、学生服より高価である。以前、入学後の給付を、事務処理は多大となる入学前支給とした。ホームランはオーバーだが、保護者にとっては行政が提供するヒットの施策と言へる。大谷翔平君には、多数のヒットを望むよりも、三振してでもいいから、50—50のホームラン50本、盗塁50個を実現してほしいと思ひしております。ところで、入学支援金の見直しはされたのか。

最後に、昨年、自転車運転時のヘルメット着用が道路交通法で努力義務となった。小学校の児童は3年生で講習会や実技検定があり、パスすれば自転車の運転ができる。要保護、準要保護を対象に、入学時の就学支援、毎月の給食費の支援がなされている。自転車運転許可取得児童にヘルメッ

ト代金の支援はできないか。近隣の自治体の現状はどうなのか。山口県自転車の安全で適正な利用促進条例があり、ヘルメットの着用を促進している。他の市町に先駆けて、小学校3年生時点で支援策を望むので、お尋ねします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、私のほうから、1点目の学校給食の無償化についてお答えをさせていただきます。

本町では、現在、令和6年度につきまして、全学期分を予算措置しており、完全無償化ということで実施をさせていただいております。財源といたしましては、地方創生臨時交付金を活用いたしておりますが、来年以降につきましては、こうした交付金があるかどうか、また活用できるかどうか、全く見通せておりません。本町のような普通交付税の交付団体につきましては、限られた一般財源の枠の中で財政運営をしていかなければなりませんので、学校給食の無償化を一般財源で継続していきますと、財政運営に大きな影響が出てくることは必至と考えております。

本来、こうした学校給食につきましては、国が責任を持って取り組んでいただくというのが本筋だと思います。重要な課題でございますので、財政見通し等に最大限の注意を払いながら、要は財源確保でございますので、そうした財源確保ができるかどうか、併せて検討を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 2点目の就学援助費に係る入学時の支援については、私のほうからお答えをいたします。

就学援助費につきましては、経済的な理由で就学困難な児童及び生徒の保護者に対しまして、就学費の一部を支援すると、そういうものであります。

このうち、お尋ねの入学時の支援の見直しに関しましては、従前、就学援助の支給は新年度が始まってからとしておりましたが、強い要望などもあり、平成30年度に新たに小・中学校に入学されるお子さんがおられる場合には、就学援助費の一部を新入学準備金として、入学前に受け取ることができるように変更したところであります。

また、現在、援助費目の支給額等につきましては、毎年度、国の示す基準額を踏まえて更新してきておりますが、町独自で新たな援助費目を追加支援するということはしておりません。

次に、3点目の自転車利用が可能な児童へのヘルメット代金の支援ができないか等についてお答えをいたします。

令和5年4月1日に改正道路交通法が施行され、全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義

務化されたところですが、現時点では、柳井地域の近隣自治体における自転車ヘルメットの購入補助等の実施状況につきましては、中学生を対象に自転車通学ヘルメットの購入補助を実施している自治体がございますが、小学生を対象に補助等を実施している自治体はございません。

お尋ねの自転車利用が可能になる小学3年生時からヘルメット購入経費を支援することにつきましては、教育委員会では現在のところ考えておりません。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） ヘルメットについては、中学入学者については、物品として支援の金額に入っているということでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山中学校教育課長。

○学校教育課長（山中 浩徳君） 本町で行っております独自の就学援助費につきましては、いろいろと援助費目が決まっております。通学費、通学品費というのがございますが、その中に含まれているものだというふうに理解しております。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） また、中学校なんですけども、学生服が高価になりましたが、こちらのほうも配慮はされとるんでしょうか。

○議長（南 一成議員） 山中学校教育課長。

○学校教育課長（山中 浩徳君） 援助費目の中に学用品費というものがございます。先ほど言いました通学品費もございますが、その後の詳細については明記しておりませんので、その中に含まれているというふうに解釈しております。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） 学生服からブレザーで高価になりました。その金額が、差額が反映、それじゃあされてないということも考えられますね。

○議長（南 一成議員） 山中学校教育課長。

○学校教育課長（山中 浩徳君） 先ほど教育長の答弁にございましたように、毎年、国の基準で決まっていきますので、それをうちは準用しておりますので、変わる年もあれば、変わらない年もありますので、そちらが、例えば言いましたように、制服が上がったからといって、こちらが上がるかというのはちょっと分かりません。ただ、経済的な理由の中で毎年変化するというふうには理解しております。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（４番 松田規久夫議員） もし、その金額が反映されていないようであれば、次年度の見直しの中で検討してもらったと思います。

中学校に上がるときにヘルメットを購入される人も中にはおられますが、ほとんどの児童は３年生のときに、学校の試験というんですか、認められると、そこで子ども用の自転車を買ったり、ヘルメットを買ったり、中には自分の住んでいるエリアを考慮して、もう大人用の自転車を小さいながら買われるという家庭もあると思います。

給食費にちょっと戻るんですけども、自主財源の乏しい、国に依存している財源の中で、給食費の無償化は難しいという回答でした。無償化に向けては３つの方法しかないというふうに思っているんですね。無償化する、一部補助する、元に戻す。

保護者の中には、高校は弁当を作ると、弁当を作らんで子どもの給食が出るんで、もうそれだけで、値段のことは二の次という方がほとんどじゃないかという、私はそういう思いでおります。一部補助すると、例えば３割でも５割でもいいですが、これを始めますと、料金改定がある都度、こだけ町がやってくれとるんだから、値上げ分は、またそれに割合を増やして、町のほうでということ、例えば５割負担だったら、５割５分負担とかですね、というような格好になっていって、最終的には１０割負担というふうなことになるんじゃないかと思います。

昨日だったか、おとといだったか、自民党の総裁選で、茂木さんが給食の無償化に向けての主張をされていましてから、一人の人が総裁選なんかでこういうことを言いますと、早い時期に今度衆議院選があるみたいですから、場合によっちゃ、その衆議院選の中に給食の無償化という辺りも話題になるかも分かりません。

いずれにしても、一度出た話題は来年以降もまた出るんでしょうから、義務教育の給食無償化というのは、国のほうで考えていかれる。田布施町としては、依存財源が多いんですから、国のほうの決断を待っていくという辺りでいいんじゃないかと思います。

田布施だけで給食の無償化に向けては決められない面もありますよね。来年９月には平生町と事業を一緒にやるわけですから、１食の給食費の値段も同じにしなければなりませんし、その無償化にしても、負担割合は両町が同じでないといけんでしょうから、無償化に向けても、国のほうの結論を待つというのがですね、このスタンスで田布施町はいいんじゃないかと思います。

先ほど、児童手当のことをちょっと言いました。児童手当も、まず、これの位置づけなんですけれども、児童手当というのは、子どもが育って勉強していく、その中で必要な経費というふうに考えたら、就学支援の一種だというふうに町のほうでは考えておられるのか、これは全く別の手当というふうに考えておられるのか、この辺りをお聞きしたいと思いますが、いかがでしょう。

○議長（南 一成議員） 長合町民福祉課長。

○町民福祉課長（長合 保典君） 児童手当は、子どもの健全な育成を支援するための重要な制度です。現在、児童手当は原則として扶養者の口座に振り込まれることとなっております。これは、扶養者が子どもの生活費、教育費などを管理し、適切に使用するということが前提となっていることによるものでございます。

以上です。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（４番 松田規久夫議員） 就学支援という観点からいくと、親の口座のほうに入るといふことですから、僕には児童養育手当というふうに、そういうふう聞こえるんですね、仕組みが、親の口座に入るわけですから。要するに子どもがいるんですよ、家で食べる食事とか光熱費とか、全てその費用がかかるから、子育てに必要なお金を各家庭に、子どもの人数あるいは配偶者の所得によって手当を出しますというふうな、そういうふう児童養育手当というふう聞こえるんです。

児童手当、世代間の助け合いでしたら、僕は、児童手当は、子どもが生まれたときにマイナンバーカードを作ってもらって、そこで銀行口座を登録してもらって、児童手当は子どもの口座に入れるべきだと思っているんです。そうすると、親が生活の費用が不足するという方は、その児童手当を生活費のほうへ回される方もおられるでしょうし、あるいは小学入学とか中学入学、高校入学とか、そういう必要なときに引き出される方もおられるだろうし、人によっては大学に行くまで口座に手をつけずに、将来の学費として蓄えられる方もおられると思います。

いずれにしても、子どもに支給される児童手当ですから、児童養育手当じゃないわけですから、子どもの口座に振り込まれるのが児童手当の本来の姿だと思うんですが、この私の考えをどのように思われますか。

○議長（南 一成議員） 長合町民福祉課長。

○町民福祉課長（長合 保典君） 御指摘のとおり、児童手当を子どもの口座に直接振り込むことができれば、子ども自身のために使われることが明確になるという利点はあるとは思いますが。

しかし、現行の児童手当法、この中で、この１条に、保護者、養育者が子育てについて第一義的責任を有するという基本認識の下にということを示されておきまして、これの下に保護者、養育者の口座に振り込まれるという制度設計となっております。現行の制度では、未成年の口座に直接手当を振り込むということが想定されていないために、法改正や制度の見直しということがどうしても必要になってくるというふう考えております。

ですが、議員御指摘のように、児童手当の支給方法につきましては、子どもの利益を優先に考え

て、より適切な方法を検討していく必要があるというふうに考えておりますので、現行制度の趣旨を踏まえつつ、機会を捉えて国や県のほうにも働きかけていけたらというふうに考えております。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（４番 松田規久夫議員） ぜひとも、子どものために使う世代間の助け合いの児童手当ですから、ぜひとも現行ルールのままじゃなくて、本当に子どものためになるように、機会あるごとに県なり国のほうへ発信してもらったらと思います。

２問目は、一番大事なところを、今、主張しましたので、まだ細かいことはたくさんあるんですが、３問目へ行きます。

緊急避難場所を指定し環境整備を、町長、よろしくお願いします。

災害時の避難所として、１次、２次避難所は指定されている。高齢者や障がい者、生活弱者を対象にした福祉避難所を田布施町はどのように考えているのか。ペットの問題もある。住民に対し明確にすべきと思う。

保健センターは西公民館から本庁舎隣に移転し、住民サービスが向上した。福祉避難所は医療・介護や福祉関連の専門家の配置とあり、役場敷地内という立地条件、専門職員の存在で、保健センターを大災害時の対策本部、福祉避難所として役割を明らかにしたらどうだろうか。

田布施川北側の旧市街地は標高が低い。大規模な水害時の緊急避難として、緊急避難場所の指定が必要と思う。町営高層住宅、大内公園、役場の近隣公園などが候補だろう。城南から移転する消防署が完成すれば、この場所も候補となるんじゃないかと思います。

海岸に接するエリアも津波対策として指定が必要と思う。単に公園として整備するより、緊急避難場所とするほうが、防災関連で国の支援の可能性が高く、財政的に有利と思える。子どもも避難するので、遊具の整備も併せて要望します。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） お答えをいたします。

福祉避難所の在り方、またその役割を広く町民に示すことについてということでございます。

まず、福祉避難所は、高齢者や障がい者、妊婦の方、乳幼児並びに医療的ケアが必要な方など、特別な配慮を必要とする方々のために、避難所として重要な役割を果たすこととなります。これらの方々が安心して避難していただける環境を整えることは、町の重要な課題であると認識いたしております。

具体的には、町の福祉避難所として西田布施公民館及び保健センターを指定するとともに、福祉避難所に関する協定を、町内の高齢者施設や医療機関の４施設と協定をさせていただいております。

町の施設におきましては、バリアフリー化や停電時の電源確保を行っており、併せて衛生用品や介護用品等の備蓄についても一定程度確保しております。

また、災害時の受入れ体制では、必要に応じて保健師等の専門的な知識を持つスタッフを的確に配置し、相談や支援に対応することといたしております。

しかし、実際の運用においては、人的・物的に制限があり、福祉避難所への受入れ人数に限られる中、どのように優先順位をつけさせていただき、一般避難所とのすみ分けを判断するか、重要な課題だと考えております。このことは、本町だけでなく、近隣市町においても同様の課題となっております。

次に、福祉避難所につきましては、住民に明確に周知しては、との御提案ですが、御指摘のとおり、現時点では、福祉避難所の機能や役割についての住民周知は、まだ不十分だと考えております。

特別に配慮を要する人が利用可能となるよう、福祉避難所の役割や重要性について、町広報やホームページ並びに防災訓練や地域のイベント等の機会を通じて、住民の方への周知を深めていきたいと考えております。

また、ペットについてでございます。飼い主にとってペットは家族同然であり、その安全を守りたいという気持ちは十分に理解できるものでございます。しかし、公共の避難所では、多くの人々が快適に過ごせる環境を維持する必要があります。そのため、ペットの同伴については、現在のところ御遠慮いただいているのが現状でございます。

本町においては、以前、防災フェスタ等で、屋外にペットのためのスペースを確保し、ほかの避難者との分離を受け入れる運用を試行的に行いましたが、あまり理解を得ることができていないというふうな感じがしたところでございます。

いずれにいたしましても、昨今のペットブームに加え、少子化や晩婚化に伴い、ペットの飼育件数は増加傾向にあり、ペットに対する考え方も変わってきております。このことについては、今後、検討していかなければいけない難しい課題の一つと考えております。

次に、保健センターを大災害時の災害対策本部、福祉避難場所として役割を明らかに、との御質問でございます。お答えいたします。

保健センターは、田布施町地域防災計画等で、大規模な災害が発生した場合、災害対策本部を設置することができるとされており、また、令和5年8月1日の公示により、指定緊急避難場所及び福祉避難所としても指定をいたしており、施設も新しく、駐車スペース等も広く確保できますので、災害の状況に応じて多目的に、状況に応じて活用していきたいというふうに思います。

次に、大規模水害等時の緊急避難場所として大内公園をとということでございますが、防災関連の

国の事業で整備できないかということでございますが、田布施川から北側の駅から東田布施にかけての洪水時の浸水エリアは、駅前から波野方面に通じる町道三本松塩坪線から南の地域となり、駅前の町道から北側は浸水はいたしませんので、現在は東田布施小学校及び田布施農工高校などを避難場所といたしております。

御提案の大内公園は、高さ的には申し分ございませんが、傾斜が非常に急で険しく、また上がる道が狭く駐車場もないため、通常の公園利用者の方も現在はほとんどいच्छゃらないことから、避難場所としての指定や避難時のための遊具等の整備は、現在のところは考えておりません。

最後になりますが、災害時において全ての住民の方が安全に避難できる環境を整えることは、町として最も重要な責務と考えており、今後も住民の皆様の御意見を伺いながら、さらなる改善を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） 福祉避難所については、周知のほうをよろしくお願いします。ペットについては、すぐに結論というんじゃなくても、検討されて、今後また決まり次第、住民周知等してもらったらいんじゃないかと思います。

緊急避難場所なんですけども、私が思っている緊急時の対応の仕方と行政側が考えている、すぐに逃げにゃいけんというあたりの認識に、思いにずれがあるような気がします。

例えば、宮崎で地震がありましたね、ちょっと前。津波警報が出て、南海トラフなんかが、もし発生すると、田布施なんかも津波が押し寄せるんでしょうが、こういうふうな場合に、一次避難所、二次避難所に逃げるんじやのうて、とにかくすぐにでも、自分の命は自分で守るじゃないですが、高いところへとりあえず行くと。そういう場所を、大内公園であつたり、城南から移転する消防署へとりあえず行くなり、一本松、砂田地区辺りであれば、役場の近隣公園に行くなり、とりあえず高いところへ逃げて。その被害というか、津波の場合は押し寄せて引いていきますから、引いていったら自宅に戻って安心な人は自宅でええでしょうし、そうじゃない人は避難所のほうへ行くというふうな、とりあえず逃げ込むところというあたりを考える必要があるんじゃないかということで、緊急避難場所という形で町のほう指定すれば、今は大内公園、トイレなんかも撤去せずにそのままになっておりますし、なかなか遊具なんかも壊れたままですから、子どもの声も聞こえないと。どこの公園辺りも、そういう傾向にあるんでしょうが、今の子どもは外で遊びませんから。特に高いところは、同じ高くても祇園様は階段ですから、これは緊急避難場所にはならんと思います。大内公園は車も上がりますし、ルールさえ決めれば、すぐにでもたくさんの人が避難できる状況になるん

じゃないかという。とにかく、すぐ対応する、命を守る、こういう場所が必要だろうから、緊急避難場所として指定してもらって、緊防債か何か条件のいい支援策をつけて整備してほしいということなんです。

今日の神田議員の1問目で、交流館の前の駐車場を舗装するという、そういう話がありました。同時に植樹もするというので、彼も大変喜んでいいるだろうと思います。

ところが、これ考えてみますと、物事を決めるのに、長信町長のときから半分残しとった、それをようやく予算化されて、町のほうも大変苦労されたというのが私も分かります。認めます。ですけど、この舗装する理由が、この問題は、本来的には経済の委員会の協議会で言おうと思うとったんですが、まだ時間がちょっとあるからこの場で言わせてもらおうんですが。長い期間できずに置いているところを、理由をつけて舗装するんです。トレーラーハウスは舗装しなくても平たんなら入ってくると思うんですよ。理由を考えたら、理由があつてこういうことをやるちゅうんじゃないに、やることを決めて、それで理由をつけたと。それで、この理由からいえば、僕なんか優先順位つけりゃあ、波野団地北側の町営住宅とか、長田とか名倉ですね、結構空き家で棟が何棟か誰も住んでいないというふうな。こういうとこを解体して、それはトレーラーハウスでもええし、災害時のごみ処理場所でもええし、あるいは仮設住宅でもいい。こういう用地を確保するほうが、理由から言うたら先だと思ひます。

今回の交流館、それは舗装されればみんな喜びます。僕も喜びます。雨が降ったりしたら、イベントのときなんか足元が悪うないわけですから。ですけど、物事の決め方の順序が違うんじゃないかと思ひますね。

緊急避難場所は、個人個人の命を守るときに、高いところへ行けば水が押し寄せてこんど。命を守るためにはどうすりゃいいかというんで、緊急避難場所を指定してもらって、そこを整備してもらって、逃げれるようにしてくださいと。僕が緊急避難場所を言うとするのは、理由のほうが先なんです。それで交流館の舗装のほうは、理由のほうが後づけなんですよ。そう思ひませんか。交流館の舗装はやったら喜ぶわけですから、ぜひともやってほしいと思ひます。ここができるんなら、緊急避難場所対策も要望しますんで。緊急避難場所は民意ですからね。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 避難場所というのは、うちは一次、二次とか言っておりますが、指定緊急避難場所と緊急避難場所、二通りございます。今、松田議員がおっしゃるのは指定緊急避難所。命の確保をまずするために、とりあえずリスクから避ける。緊急避難場所じゃないところ、指定じゃないところは、少しやっぱり2日なり3日なり、その災害から耐えて、生活ができるという避難場

所。ですから、津波対策とかいうことで麻郷、麻里府でやられておりますのは、とりあえずここへ逃げるといふうに地域の人が決めておられますのは、町からすれば指定緊急避難場所ということになります。ですから、それはリスクを避けて避難すると。

福祉避難所を先ほど申されましたが、福祉避難所というのは、一旦普通の緊急とか指定でお受けをして、それから福祉避難所へ行くという、タイムラインが少し違うわけで、申されますように、一番最初のタイムラインが指定緊急避難場所、これはリスクがありますから。その後が緊急避難場所。それから出てくるのが福祉避難所とか、いろんなことになってきますので。その辺は大内公園がどうかといえば、いろんな論議が分かれるところだと思いますけども、町内ほかにたくさんございますので、通路なり、いろんな整備をせにゃいけんというのは、緊防債があるうちに。それから、ちょっと急いでおりますのは、緊防債が7年で終了ですから、今から論議をしておったんじゃ間に合いませんので、ちょっと急がしていただいたということで、また議会では説明をさせていただきます。

私の思いは、やはり仮設住宅を造るのに半年ぐらいかかるんですよね、1年とか。あれは何でかという、下水とか電気とか、そういったものがない中に基礎を打って建てようと思うと大変ですから、一応舗装する中に電気とか配水とか水道のパイプを全部通して、車が来ればすぐにできるということがあれば、福祉避難所に本来行かにゃいけん方がいらっしゃっても、トレーラーハウスに来ていただくことが可能ですから、それはかなり迅速に提供できる可能性があるということで、また補正予算の中でも御提案させていただきますが、理由はそういった理由で提案させていただこうと思います。また説明はさせていただきます。

○議長（南 一成議員） 松田議員。

○議員（4番 松田規久夫議員） いずれにしても、命が守れるようなところを、すぐに逃げ込めるようなところを、住民には分かりやすく、ハザードマップ以外でも何でもいいですからそういう形で、機会があれば、ペットあるいは福祉避難所も含めて周知してもらいたいと。これをお願いします。私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（南 一成議員） 以上で、松田規久夫議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） ここで暫時休憩いたします。再開を13時、1時ちょうどということでしたいと思います。1時間半休憩取りますので、よろしくをお願いします。

午前11時33分休憩

.....

午後 1時00分再開

○議長（南 一成議員） 休憩を解きます。

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

西本篤史議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） それでは、3問ほど質問いたします。全て一問一答で、答弁者は町長お願いいたします。

まず、質問1です。地方創生総合戦略について。

先日、地方創生検討委員会が行われました。まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価、K P I（重要業績評価指数）の達成状況はどうであったのでしょうか。このことは、町民にはあまり知られていないですが、周知すべきではないでしょうか。

産業雇用振興、移住定住促進、少子化・子育て支援など話し合われましたが、内容はどうかののでしょうか。

人口対策で、北海道南幌町が移住全国1位と聞きましたが、参考にはならないのでしょうか。

全国自治体で結婚や子育てを支援する「こども計画」がありますけども、この計画は田布施町にあるのでしょうか。

町も住宅地を増やし、若者向けのしゃれた町営住宅を建設して、移住者を増やしてはどうか。

また、消滅可能性自治体となり、不安を感じた麻郷小学校児童が町長に提案しましたが、どんな内容であったのでしょうか。ほかの学校も提案を出してもらったらよいのではないのでしょうか。

以上、お尋ねいたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えいたします。

先日開催されました田布施町地方創生検討委員会では、事務局から第2期田布施町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和5年度重点説明資料を中心に説明をさせていただき、基本方針、基本目標1から4まで、その数値目標の状況や取組等を説明をさせていただきました。

中でも基本目標3、結婚・出産・子育て環境の整備の目標値は、0歳から14歳までの令和7年度の年少人口を1,476人と目標値として定めておりましたが、令和5年度末の年少人口が既に1,334人と下回っており、大変厳しい状況になっております。また、その他の基本目標の数値目標も、令和7年度末での未達成のものも多くありまして、決して楽観的な状況ではないと考えております。

次に、当日は詳細な説明はいたしておりませんが、第2期田布施町まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン、そして令和5年度評価検討資料においては、具体的な取組の状況の評価をいたしております。

令和5年度評価検証資料にありますKPI（重要業績評価指標）の達成状況を、田布施町地方創生検討委員会では、別の資料で取りまとめて説明をいたしております。

その中で令和5年度のKPIの達成状況は、40項目中15項目は達成されており、令和4年度より1項目増えております。

それぞれの基本目標ごとの達成状況は、資料を御覧いただくこととなりますが、一番悪い分野が基本目標1、産業振興による雇用の創出で、現在のところ2項目しか達成に至っていないということがありますので、これから力を入れていきたいと思っております。

一方で、一番よい分野は基本目標4、持続可能な元気な地域社会の形成で、11項目中7項目を達成いたしております。

これらの第2期田布施町まち・ひと・しごと総合戦略の令和5年度重要説明資料や令和5年度評価検討資料については、今後、過去の資料も含めて、町ホームページに掲載をさせていただきます。

地方創生検討委員会での事務局よりの説明後、委員の皆さんから就農や農業について質問や意見、婚活イベント、そして図書館活動への質問等、具体的な質問も頂いております。

委員会後半では、各部会へ分かれての意見交換、ワークショップが開催され、子どもや若者の居場所づくり、若者の出会いの場所づくり、教育の充実、駅や駅前のにぎわいづくり、図書館サービスの充実、空き家対策等々、委員の皆さんから様々な貴重な御意見を頂いております。頂きました意見を参考に、今後取り組んでいく施策の参考にさせていただきたいと考えます。

次に、御質問にございました北海道の南幌町でございますが、その取組についてでございますが、この町は札幌連携中枢都市圏を形成する自治体でございますが、非常に札幌市に近く、また空港からのアクセスも大変いい地域でございますが、その上に加えて、子育て支援として最大200万円の住宅建築補助金を支給される事業を行っておられます。南幌町によりますと、移住者の増加により2023年に人口増加率全国1位を達成されたと聞いています。

本町の場合どうかということでございますが、本町は広島広域都市圏に属しておりますが、広島市からは遠く、人口を呼び込む明確なターゲットがないため、本町を含みます周辺の自治体が、そうした事業を行い合いますと、狭い範囲での人口の奪い合いになるということになりかねません。そして、人口減少の抑制の観点からは、施策を進めていくことは必要でございますが、費用対効果も併せて十分検討していく必要があると思っております。

私といたしましては、どうしても人口は減っていく中でも、住みやすく皆さんが楽しく暮らしていただける風景をつくっていくこと、環境をつくっていくことが、本町にとっての人口問題の改善に向けての大切なことだと認識をいたしております。

次に、令和5年4月に施行されました、こども基本法に基づく市町村こども計画は、作成することが努力義務とされ、既存の各法令に基づく市町村計画と一体のものとして策定することができるかとされております。

本町では、令和7年度から令和11年度までを計画期間としました、第3期田布施町子ども・子育て支援事業計画の策定に向け、作業をいたしているところでございます。今後、こども計画を策定する場合には、この計画と一体化するという事になるかと思いますが、現在のところは、まだ検討に至っていないという状況でございます。

次に、住宅地を増やして、若者向けのしゃれた町営住宅を建設してはと御提言ございますが、町営住宅につきましては、長寿命化計画に基づいて整備を進めており、城南住宅で、子育て住宅を先行してさせていただきましたが、次は、従来の計画にあります長田住宅の建て替えということになりますが、その時期や内容については、まだ決めたものはございませんので、今後、議会とも十分協議をしていきたいと思っております。また、設計につきましては、社会的な情勢や住宅状況を踏まえたものにしていかなければならないと考えます。

最後の御質問でございます、麻郷小学校の児童の皆さんからの提案ですが、7月9日に麻郷小学校で総合学習の授業に私も参加いたしました。授業では、食や自然、観光、馬島といった4つの班に分かれて、いろんな意見の発表がございました。これは、毎年行われております麻郷小学校の公民館や地域との交流学习でございまして、私が、今年春先に運動会がありまして、そのときにお伺いしまして、校長先生からそういう授業があるということをお聞きしましたので、公民館だけでなく、私も参加させてほしいということで、授業の一助になればと思ってお引き受けをさせていただいたものでございます。

子どもたちからの提案でございますので、いろんな自由な発想に基づくものがありますので、実現させてあげられるものがあれば、私も一緒にもっと考えまして、具体化していくようなものになればいいかなと考えますが、あまり子どもの考えですから、現実を押しつけましても発想が消えてしまいますので、意見交換はさせていただきまして、子どもたちの考えは十分聞かさせていただきました。

その中で、子どもたちの、田布施が好きといった素直な気持ちに触れることができ、私としましては大変有意義なものでございましたし、ほかの学校でもそうしたものがあれば、ぜひ参加をさせ

ていただいて、若い子どもたちの気持ちを感じたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） ありがとうございます。

まず、北海道南幌町ですよね、今の答弁でありましたけども、住宅を建てる場合200万円の補助ということと、土地を買えば、分譲地の場合でしたら50%町が負担すると。ということは、半額で土地が買える。それで200万円がもらえる。

また、子育て支援ということで、中学生まで子ども1人につき米10キロ支給というのが入っております。また、高校生の通学費月1万円補助ということで、本当これは夢のような政策なんですよ。田布施町もここまで無理と思いますけども、いろんなアイデアがあったら何かできると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 非常に具体的ですばらしい施策だと思います。北海道、やっぱり札幌の周りというのは、ほとんどこういった形で、30分で札幌まで行けるというところは、札幌の土地が高い、場所がないという現実から、もう少し、30分離れてもベッドタウンとして札幌市内まで通えるということがあって、人口の取り合いのような形になってきております。駅を自分で造るとか、そういったとこまでやられておりますが、なかなか本町の場合、そこまで行きませんので、松田議員にもありましたけども、ヘルメットの補助とか、ちょっとレベルは下がるかも分かりませんが、学校給食の問題とか、医療費はさせていただきましたけども、全体の子ども・子育ての支援として何を優先的にしていかにゃいけんのかというのは、財源限られておりますので、はっきり区別をして、住民の皆さんにも理解できる形で取り組んでいきたいなと思います。参考にはさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） 田布施の土地柄といいますか、周南地区に通える範囲内ということで、田布施は駅がございます。この辺の利便性を使えば、田布施町内の空いた土地、民間業者に委託して住宅地をつくるとか、いわゆる周南地区、岩国地区のベッドタウンですね、こういったことで人口増をできるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 川添副町長。

○副町長（川添 俊樹君） おっしゃることはよく分かります。昨年ですか、団地開発をした業者に補助を出して、団地開発を促進していただくというような制度を設けていますので、今その制度を

今年度補正を組むぐらい団地開発ができていますんで、ある一定の効果はあるのかなと思いますけれど、そのほかの施策として、適当な施策があれば検討させていただきたいと思いますけれども、現時点では、昨年実施した宅地開発の行政、わりと上手くいっているんじゃないかなというふうには思っています。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） ぜひとも民有地もありますし、町営地もあります。ちょっといろいろ考えていただいて、とにかく住宅地を増やして人口を増やすと、そういうのをやっていただきたいと思います。

あと、先ほどありました小学生ですよ。若い子ども、小学生、中学生、高校にしても、いろいろなアイデアがあるんですよ。先日も、田布施農工といろいろお話ししたりしましたけども、本当夢のあるいろいろな思いがあって、いろいろ発表されますけども、私らから見たら、それは現実的じゃないなとか思いますけども、やっぱり夢は夢で、今後こうしていきたいと、こういうのはいろいろな成果の中に入れてもらったらと思います。

今回は麻郷小学校だけでしたけども、各ほかの小学校、中学校、この辺もいろいろな機会があれば、いろいろアイデア出してもらったらと思いますが、その辺どうでしょうかね。できますか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 2年前ですかね、西田布施小学校の子から具体的に提案いただきまして、すごい、そこに図書館あっちと書いてあるんですが、何メートル向こうか分からんから、いけん。そうか、私は300メートルちゅうのは子どもの頃から分かっておりますから。知らない人が来ると、あっちというだけでは、どれだけ遠いのか分からない。そりゃそうだなと思ひましてですね。それと、こちらの詩情公園ですか、テニスコートの裏が寂しいとかありまして、何か一つ具体化してあげんといけんかなと思ひまして、テニスコートのほうは、すぐ具体化させていただきました。そういうふうに、やっぱり何か現実に物になるというのが、何か一個でもあると子どもたちはええかなと思いますし、麻郷の子どもたちと今年話し合いましたけど、すごいなと思ったんですね。自分たちが何かせにゃいけんかというのを聞かれるんですよ。公園が荒れている、草が立っている。じゃあ、自分たちは何ができるんかというのを言ってくれるから、すごいな。草を刈れ、町長さんと言ってくれるんじゃないら、お金がないと思ったんですが、私たちも刈るから、きれいにしようと思うから一緒に何かしませんかという観点ですから、すごいね、自分たちが何ができるんかということをしきりに、4つの班で分かれて、全てがそれは共通しておりましたんで、すごいいい感じだなと思いますので、またほかの小学校、中学校もやっていきたいと思います。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） 子どもたちの夢を壊さないように、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

先日、新聞で、地方創生は不十分というのが68%、こういった記事がございました。確かに地方創生の取組で人口減少対策に効果はあったかという質問で、どちらかといえばというのが27%ですね、どちらかといえば不十分が54%。田布施町はこのアンケートに対してどういうお答えされましたか。分かりますか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） いろんなアンケートがありますんで、今どうやって答えたかというのはありますが、やはり十分じゃないなというのはございます。そもそも地方創生が始まったときに、消滅可能性とか、あの辺が一緒に出てきた話でございまして、何かですね、これをすればという話があるんですが、社会というのはそうじゃなくて、人口といっても交流人口もあれば関係人口もあるわけで、ある世代の人口だけを捉えて物を言うというのは、ちょっと社会的に合っていないじゃないかと思うんですが、今回も10年前と全く同じような物差しでしゃべられますから、ちょっと残念な気持ちはしたんですが。やはり、日本がこういう人口減少社会ですから、もう少し工夫をして、地域が元気を出すにはという、北風と太陽ですか、今、北風ばかりなんですよ。消滅する、消滅すると言われて。でも、太陽のような、こうするとええよというのが国からも示していただけると、地方からすると元気が出るんじゃないかなという気はします。

地方創生、やはりいろんな課題があることが事実でございますので、今後どういうふうになるかわかりませんが、重要なことだろうと思いますので、長期的なプラン立てながらやっていこうというふうに思います。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） ぜひとも頑張ってくださいと思います。

次に、質問2に行きます。高齢者健康寿命促進についてです。

先日、町の介護保険料が山口県で一番安いと聞きました。町民の皆さんが健康で元気であれば、町の医療費負担、介護保険料も減るのではないのでしょうか。

隣の広島県では、高齢者いきいきポイント事業で健康寿命促進を行っております。

まず、健康づくりとして、介護予防に取り組む活動、グラウンドゴルフ、囲碁、将棋、ウォーキングですね。特定検診の受診、ボランティア活動、児童の見守り、防犯パトロール、サロンの世話人、老人クラブ友愛活動などに参加すれば、ポイントがついて付与されて、貯まれば奨励金が支給

されると。町もフレイル、加齢による衰えですね、これの予防のために取り入れてはどうでしょうか。

以上、質問いたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） お答えいたします。

さきの内山議員も申されましたように、田布施町は介護保険料が県内で最も安く、国民健康保険の標準世帯では最も安いという、こういうメリットがございます。これも、皆様方の日頃からの長い間の健康づくり、介護予防への意識の高さが医療費や介護保険料の低減につながっているわけでもございまして、大変感謝申し上げます、行政も今後こうしたことが継続できるようにしっかり支援していきたいと思っております。

さて、御質問の様々なボランティア活動等に対してポイントを付与して、奨励金や商品券等と交換できる制度は、今多くの自治体でも実施をされており、本町でも高齢者の社会参加を通じた介護予防を促進するとともに、地域において高齢者が互いに支え合う体制を構築するために、一般介護予防事業の制度を活用し、65歳以上の人を対象にボランティア活動を行った方にポイントを付与し、獲得されたポイントに応じて、年間50ポイントが現在は上限でございますが、1ポイント1000円に換算して奨励金を交付させていただき介護予防ボランティア制度を実施をいたしております。

この制度は、町が指定しました介護保険事業所または介護保険施設でのボランティア活動、町内で行われる認知症カフェやサロン活動等の運営支援、町内で活動される非営利の団体等が行われる高齢者への無償の支援活動に対して、おおむね1時間程度の活動に対して1ポイント、1日2ポイントを上限として交付させていただいており、9月1日現在、16人が登録され、認知症カフェの運営支援や生きがい教室の送迎支援、今年6月から麻郷公民館での毎週金曜日に開催されております住民主体の集いの場、そうした運営支援などで御活躍をいただいております。

今後も関係団体への声かけや、町広報紙への掲載などにより、住民への周知を進めたいと考えます。

なお、このポイント付与の対象範囲につきましては、今後、皆様のいろんな御意見を取り入れて拡大を図っていきたくと考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） ありがとうございます。田布施町もこのポイント制度を行って

たというのは、私、今初めて知りました。16人が登録されておるということで、ちょっと啓発活動が弱いのではと思います。

広島県のいきいきポイント制度、これが田布施町は50ポイントが上限ですけども、広島の場合は100ポイントが上限なんですよね。年間100ポイント貯まれば1万円もらえると、こういう制度です。各それぞれで健康づくりですね、グラウンドゴルフとか囲碁、こういったのが1ポイント、特定検診、これに行くと2ポイント、地域のボランティアですね、こういったところに行くと、また2ポイント。このポイント手帳ちゅうか、こういうのを持ちちょっと、行ったとこで書いてもらうんですね。ポイント手帳へ貯まったら、例えば100ポイント貯まったら、それを持っていったら奨励金がもらえると、そういう制度なんですけども、田布施町はこういったポイント手帳ちゅうのはございますか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 今、16名の方にポイント手帳をつくりまして、それを交付して、実際にボランティア活動を行ったときに、そこの、例えば団体さんの代表さんとかに、はんこを押してもらいまして、それで1ポイントというふうに換算しております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） 見たこともないもんですから初めて知りました。これもちょっといろいろ町民の方に周知してもらって、こうすれば今の特定検診、これも参加率が増えると思います。

あと健康づくりということでグラウンドゴルフとかウオーキング、これなんかもポイントがつけば皆さん元気になられると思います。

昨日、生涯学習発表会というのが西の公民館であって、私、見に行ったんですけど、町長、教育長もいらしておられました。これを見ると、本当皆さん元気で活動されておられます。これも今の介護予防になるんじゃないかなとか思いました。今の生涯学習に限らず、いろんなスポーツとか介護予防とかございますので、その辺ももっともっと町民の方へ参加していただいて、ポイントをつけてもらって、ますます元気になって介護保険を安くすると、こういうふうになりたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） このボランティアポイント制度につきましては、今年の4月から始めた制度でございまして、まだ始めたばかりというのもありますし、ちょっとPRが、まだ足り

ていないのかなという部分もありますので、今のところまだ16人というふうになっております。

また、検診受診した場合にポイントとか、というふうなの、実際に広島市さんがやられていますし、ほかの、例えば東京のほうで同様のことをやっているというのも承知はしております。ただ、検診とかというふうなのになりますと、今、保健センターのほうでも、健康マイレージ制度というのもやっております、そちらのほうも、例えばウォーキングとかをすれば1ポイントとかというふうなのがあって、田布施町であれば、レザンジュさんだったですかね、そこで割引が受けられるよとか、ポイントが貯まったら、保健センターのほうから粗品提供するとか、というふうな制度も行っております。ですので、そちらは今のところ、そういうふうな形でさせていただいて、ボランティアポイント制度自体をまず始めたというのが、いろんなサロン活動でありますとか、一般介護予防事業で運営を担っていただけるか。いわゆる担い手さんと言われる方々というのを確保するのが一番大変な状況でございます。ですので、まずそのような方々に実際にやっていただける、そういうふうなのを担っていただける方に、まず財政的にちょっと恩恵といいますか、奨励金を交付させていただく形で、まず始めさせていただきたいと。

町長の答弁にもありましたように、それが定着していった場合に、今度はそういうふうな参加者さんというの、今後の検討課題ではありますけれども、そういうふうなのも引き続き検討は続けていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） 田布施町は50ポイントなんで、100ポイントぐらい、ちょっと厳しいですかね。ぜひともやっていただきたいと思います。

昨日は生涯学習芸能大会、町長は見に行かれて、どうでした、御感想は。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 議員さん感じられたように、元気なお年寄りがたくさん出て来られて、教育長さんが申されたのは、子どもも一緒におったらね、交流ができるんじやのという、ああ、それはそうだなと思った。何分、団体の数と参加が多くて、午後からのイベントだけじゃ、なかなか無理なような気がいたしますが。

挨拶でも申し上げたんですが、生きがいを持ってやられた結果が、こういうふうな、発表会というふうなとこまでたどり着かれたんだろと思えますから、生涯学習と言っていますけども、生きがいを見つけるということが大事かなというふうな挨拶させていただいたんですが。そうしたことから見たら、やっぱり自分が好きなものを見つけて取り組むというのは、介護予防、健康づくりに

つながってきますので、これからも支援して、ぜひ西本議員にも出演していただいて、楽しんでいただけたらと思います。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） 私も還暦過ぎまして、高齢者の仲間入りしておりますので、ぜひとも参加させていただきたいと思います。

続きまして、3問目に行きたいと思います。3問目、上関中間貯蔵施設について質問いたします。

先日、建設反対署名が約3,360筆、議長に提出されました。

また、光市議会一般質問の答弁で光市長は、「仮に計画が前に進んだ場合、本市の町に対するイメージの悪影響を懸念しているところであり、本市にとって一つのリスク要因である」、「本市のまちづくりに責任を持つ市長として、この計画に責任を負うべき国や電力事業者において、周辺に暮らす住民の皆さんの安心・安全の確保と不安の払拭に向けて、より真摯で主体的な姿勢を持っていただきたい」、「周辺市の長として、今後とも本会議の場を通じて、こうした考えを強く申し上げていく」と申されました。町長のお考えはどうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えいたします。

さきの御質問の光市長さんの御発言は、令和5年12月の議会の御答弁だと思います。上関町の中間貯蔵施設についての私の考えにつきましては、この問題が明らかになりました、最初の去年の9月の議会で複数の議員の皆様から御質問いただき、御答弁はさせていただきました。その後、いろんな動き等もございますが、私の考えは、現在も何ら変わりはありません。

その際申し上げましたのは、繰り返しになりますけども、本町は、温暖で瀬戸内に面した豊かな自然と住みやすい環境に恵まれており、そうした中で、これまで将来にわたり、安心して結婚、出産、子育てできる環境づくりに積極的に取り組んでまいりました。これからも継続して、そうした取組を進めていく際には、仮に中間貯蔵施設が上関町に建設されるということになれば、本町のこれまでのそうした将来に向けてのまちづくりや、移住・定住に向けての取組に対して大きな影響を与えるものだと思いますし、本町を含めた周辺市町のイメージ低下にもつながるんじゃないかと危惧しております。そうしたことを申し上げました。

最初から一貫して、その後、調査が今進められておりますので、この場でというのは、ちょっと今、時期的にどうなんかなと思いますけども、見守っているという状況でございますが、私の考えは最初からそうでございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） ありがとうございます。ちょうど1年前に、私も含めて一般質問いたしました。この1年間の間に、電力会社から町長に説明もありましたし、田布施町議会、議員に対しても電力会社から説明がございました。ですけれども、住民への説明がちょっとなかったような感じがいたしました。各地でいろんな講演会とかがございまして、見に行かれた方、聞きに行かれた方いらっしゃると思います。そうした中で、今回1年後にこういった町長のお気持ちというのを聞かせていただきました。1年前、建設されれば町のイメージ低下は避けられない。移住定住策の影響を危惧しているということで、現時点ではメリットはないとおっしゃられたわけですが。

今日の一般質問の最初の中で消滅可能性自治体、この中にありますけれども、とにかく住みよい町ということで、これから子どもたちに安心して住める町、これをしていくために、これが必要なかどうかというのは、みんな思っておると思います。その辺、町長どうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 議員おっしゃいますように、まちづくりから見ると、ちょっと、どうぞという感じのものではありません。ですから、私の考え方もありますけれども、議会また住民の皆さん、意見、署名とかされております。その辺は慎重に見させていただいておりますが、周りの柳井から光に向けて、関係の市町の首長さん、議会も大変苦慮されていると思います。スタートが少し、私から思うとちょっと裏切られたような形でしたから、なかなか原点に戻るまで随分マイナスの時間がかかるのかなと思いますが。今調査をされておりますから、今度発表なり報道されるときには、住民の方々へも十分理解できるようにですね。

まず、私一番思いますのは、信頼性というんでしょうかね、信用していいのかという信頼関係の醸成を、まずしっかりと国にも電気事業者さんにも持っていただいて、地域住民、県民の気持ちに沿った対応を十分考えていただきたいなというふうに思います。今ちょっと、また今から進んでくるんだと思いますけれども、その辺の状況を見て、私の判断はさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 西本議員。

○議員（3番 西本 篤史議員） いろいろ御苦労はあると思いますが、今後とも田布施町のためによりしくお願いしたいと思います。

以上で、質問を終わります。

○議長（南 一成議員） 以上で、西本篤史議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） 次に、國本悦郎議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 今回の質問方式は一問一答でお願いします。

では、大きな質問1に入ります。

質問は、県下有数の埋蔵文化財（歴史遺産）の保存と次世代への継承を、答弁者は鳥枝教育長でお願いいたします。

1年前の9月議会で「埋蔵文化財（歴史遺産）を活用したまちづくり」と題して一般質問しましたが、研究課題や検討課題が多かったように記憶しています。

また、発掘調査のまとめの発刊も当初より遅れており、新たな発行計画が出されていますが、それも未刊行のものも多いと聞いています。

では、個別の質問に入ります。

1つ、案内板、説明板の修復、設置箇所の見直しや最新のコースマップの作成の進捗状況はどうでしょうか。できていない場合には、その要因といつまでにするのかを明確にお答え願います。

2つ目です。埋蔵文化財に詳しい郷土館の館長と文化財調査室の学芸員の連携は不可欠です。今年度、具体的にどのような取組をしましたか。

3つ目です。耐震構造でないから誰も入れない旧麻里府小に保管している発掘物を整理し、他の場所での公開はできませんか。

4つ目です。埋蔵文化財の保存と活用を一層促進する上で地元地域の協力は不可欠です。また、アマチュア愛好家や研究者を育成するためにも、ぜひ生涯学習の中にきちんと埋蔵文化財の保存と活用の位置づけをお願いします。

5つ目です。以前発行が遅れていることが指摘された発掘調査のまとめが、令和5年度には2冊発刊予定としていましたが、発刊がさらに遅れているように聞いています。その大きな要因は何でしょうか。

以上です。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 埋蔵文化財に関する5つの御質問にお答えをいたします。

まず、1点目の案内板、説明板の修復や設置箇所の見直し、最新のルートマップの作成の進捗状況につきましては、本町の古墳めぐりのルート7の案内板は、ライオンズクラブにて制作・設置されているものではあります。現在、劣化等により見づらくなってきております。このルート7の古墳ごとの案内板の修復について検討してまいりましたが、ライオンズクラブにて修復する予定が

ないことから、早い時期に教育委員会にて修復したいと考えているところであります。

なお、各古墳ごとに設置しております説明板、こちらのほうにつきましては、現時点では修復の必要性はないと考えております。

また、最新のルートマップ作成につきましては、現在、城南公民館を起点とする複数のルートについて検討してきたところではありますが、古墳の所在する敷地やルートによっては、私有地に立ち入るようになる箇所もありまして、地権者等の了解を得る必要があると考えております。

2点目の郷土館の館長と文化財調査室の学芸員の連携に関しましては、今年度、町の巡回展に合わせて、一昨日になりますけれども、郷土館館長を講師に「田布施町の石器」と題する講演会・ギャラリートークを開催したところであります。

3点目の旧麻里府小に保管しております発掘物の整理と公開についてのお尋ねですが、保管しております出土品等につきましては、現在、発掘調査の報告書の作成に関わる出土品以外は既に整理を終えております。

公開につきましては、今後、町の巡回展や郷土館の企画展において展示等を検討する予定にしております。

4点目の生涯学習の中に埋蔵文化財の保存と活用を位置づけること、これに関しましては、県の埋蔵文化財センターと連携を図るとともに、今後も、町の巡回展や郷土館の企画展等を継続して開催してまいりたいと考えております。こうした機会を通して、アマチュア愛好家等の育成にもつながるのではないかと私は考えております。

5点目の発掘調査のまとめの発刊が遅れている要因についてのお尋ねですが、ほ場整備事業の対象のエリアが拡大してきたことに伴い、遺跡調査の報告書の作成よりも、現場の発掘を優先して行わざるを得なくなり、各報告書の発刊が延びることにはなりましたが、令和8年度までには、計画どおり全ての報告書の取りまとめをすることができるものと考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） では、再質問に入りますが、担当課長が年度末人事で他の課に異動をしていますし、これまでの答弁どおりに執行されていないということは、教育長に大いなる責任があると思っています。

これからの質問には、教育長本人が御答弁願います。

2点目のルートマップにつきましては、これからこういったように具体化していくというのが一番ではないかと思えます。そういった未達成のものをいつまでにどうするのか、そういった具体案

を示していただけませんか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） ルートマップにつきましては、既に原案のようなものはできてはおりません。複数のルートを考えております。ただ、先ほどもお答えいたしましたように、現時点では、まだ私有地とか敷地の中を横断したりする可能性が十分ありますので、そのあたりの地権者、地元の方の了解を得ないままに発行することはできませんので、それができ次第、まとめてお示しするような予定にしております。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） そういった研究課題とか検討課題は、1年前に一応答弁したことです。もっと早く取りかかれなかったものですか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 遅れておりますことにつきましては、大変責任を感じておりますが、なかなか地権の方と会うことができなかつたというようなことも報告をいただいておりますので、確認が取れ次第、取ればルート等をお示しすることができるんじゃないかなと考えております。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 田布施町では広くほ場整備が行われ、県や町が発掘しています。そのたびに多くの出土品が出ております。遺跡数は、県下の市町の中では4番目ですが、面積当たりの遺跡数では断トツ1位です。そういった多くの貴重な文化財ともいえる出土品がありながら、耐震構造でない旧麻里府小の2階には、それらがただ保管しているだけのように感じています。これらの貴重な文化財を多くの人に公開してほしいと思っています。

先ほど、巡回展とかそういったことを言われました。では、いつまで旧麻里府小の校舎に中間貯蔵施設のように行き場のないまま保管するんですか。麻里府地区の活性化の大きな足かせともなっています。いつまで公開しないまま保管するつもりですか。具体的な期限をお答えください。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 旧麻里府小学校に保管しておりますこれまでの出土品等ですが、これから報告書に取りまとめるものについては、公開することは難しいものと考えておりますけれども、既に出土しております出土品につきましては、できるだけ公開ができるような方向が望ましいと思っております。

ただ、議員さん御指摘のように、数的にはかなりの数がございまして、大きさも商品ものが非常に多いというのが特徴ではないかなと思っております。一昨年も、その出土品を町の巡回展で紹介

をして講演をしました。今年も引き続きまして、さきの土曜日に石器ということで巡回をしました。

展示物を一堂に公開をするというのは、なかなか施設設備的には難しい、現時点では難しいと考えておりますので、整理されたものから順次、そういったものを巡回で紹介をしながら、展示をやっていききたいというふうに現時点では考えております。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 展示とか紹介とかというのは分かります。麻里府小学校に保管されているのは、いつまで撤去、そういったようにするのでしょうか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 保管しておりますものをどういうふうにしていくかというのは、ちょっと現時点では考えておりません。一番望ましいのは、できるだけ多くの出土品については、多くの人が見られるような、そういう機会にしていくべきだとは思いますが、ちょっと現時点では、その辺の見通しは立っておりません。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 旧麻里府小の校舎につきましては、一応、8年をめどにというような、そういった取決めがあっています。このままずっと本当、それこそ中間貯蔵施設です。行き場がないまま置いておくというのはどうかと思います。期限を切ってもらえませんか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 廃校になりました施設につきましては、関係部局とも協議をしながら進めてまいりたいと思います。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 埋蔵文化センターのマスコットキャラクターのほっちょるんは、田布施町で発掘された分銅形土製品をモデルにしているほど高く評価されています。田布施町では、こういった貴重な出土品や古墳群、発掘場所を活用し、学校や生涯学習でも古墳の町田布施をアピールしていきませんか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 議員御指摘のように埋蔵文化につきましては、歴史的な価値とそれから観光資源的な価値と様々ものが含まれていると思います。今、御紹介がありました学校において古墳について学習する機会の一つとして、一番いいのは埋蔵の現場を見ながら、それを見て学ぶということが非常に有効だと思います。

これまでも、ほ場整備作業中の発掘現場については、そういった案内で行ったり、また、これま

で子ども会で、そういった土器の発掘現場を体験するというようなことも実施をしておりました。引き続き、子どもたちがそういう歴史的な遺産、文化財に触れる機会は積極的に考えてまいりたいと、そういうふうに思っております。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） こういったような田布施町遺跡地図というのがある。これは郷土館には掲示してあるんでしょうか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） ちょっと現物がはっきり分かりませんが、ちょっと確認ができておりませんが、今、児童のほうにつきましては、ふるさと田布施という郷土の中に、そういう遺跡をもう少し簡略化して、町内の遺跡、主な遺跡がどこにあるかというような資料は、全児童に配布して学習をしているところです。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 古墳の町田布施をアピールするには、町内の人に対するそういったことも必要ですが、町外の人に、こういったのを掲示して、郷土館でこれを大きくしてやったらいいんじゃないかと思います。裏には、どこにあるかというこういう説明もあります。ですから、早急にそれはお願いできませんか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 町内に限らず、広く周知できるような方法について、これから検討していきたいと思います。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 出土品や化石は、アマチュア研究家が発見したことが多々あります。町内には田布施の古墳に精通した人がたくさんおられますが、高齢化が進み、それを継承する後継者の育成は待ったなしの状態です。町内には小中高生を対象にした天文や発明クラブ、大波野の神舞の保存活動等があり、活発に活動しております。

今後、学芸員や郷土館長が小中高生に働きかけ、こういった埋蔵文化財保護の観点で、保存と継承活動はできないものでしょうか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 特に、埋蔵文化に関わる学芸員さんたちの専門性ですが、これは非常に高いというふうにも、幅広いというふうにも感じておりますし、今、御指摘のように後継者といえますか、担い手を育てていく、広げていくというのは、非常に大きなこれからの課題だと思ってい

ますが、なかなか、例えば学芸員で申しますと、それぞれのやっぱり専門性があるだけに、専門分野が限られているというのがございまして、埋蔵文化につきましてもやっぱり同じように感じております。その時期によって非常に精通していないと、なかなか古代から現代までに至って、出土品がどうかというのは判断することが非常に難しい、そういう専門性が求められると思います。

したがって、今おっしゃったように、今後、後継をしていただける、アマチュアも含めてになるだろうと思うんですけれども、それは探してみたいとそういうふうに思っております。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 町内には、高橋元郷土館長、現尾崎郷土館長、詳しいです。そういった人が前面に出て小中高生に働きかける、そういったことをお願いいたします。

では、最後に、どうも今の保存状態や活動状況からすると、田布施町の古墳群は、学術的な価値からすると教育長は低く見積もっている気がします。文化財保護法を遵守する観点から、郷土館と文化財調査室には、埋蔵文化財の保存と次世代への継承に力を入れるように御指導を願います。

これで、一応、この質問は終わります。

次に、大きな質問の2に入ります。

観光資源としての埋蔵文化財（歴史遺産）を活用したまちづくりをです。

答弁者は、東町長にお願いします。

田布施町には、古代には、田布施川に沿って城南地区まで海に面し、石城山を背景に古墳群があり、熊毛王国として権勢を誇った歴史があります。そういったロマンを感じる中心地である田布施の地において、これまでいろんな形で埋蔵文化財を取り扱った取組が行われ、パンフレットがライオンズクラブや観光協会からも発行されてきております。

古代ロマンを夢見隊ののぼりを作り、古代米アートが取り組まれたのは、国民文化祭が山口県で開催されたときでしたから、まだ歴史は浅く、古墳群とともに、これからもっとアピールしてほしいと思っています。

観光協会には、こういった貴重な財産を継承するために、活動方針や重点的に取り組む活動内容にきちんと位置づけてほしいものです。

では、個別の質問に入ります。

1つ目です。駅前に大きく「古墳の町田布施」の看板設置をお願いできませんか。

観光協会が教育委員会とタイアップして、埋蔵文化財を観光資源として活用しようとする、どんな具体策が今ありますか。

大きな観光資源となる田んぼアートへの町と観光協会への取組はいかがでしょうか。3つ目です

ね。

4つ目です。取り組む予定としている田布施検定の今現在の取組はどうなんでしょうか。

5番目です。近隣市町と連携し、熊毛王国の地元である本家本元の田布施町が主体で取り組みませんか。

以上です。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） お答えをいたします。

まず、1点目の駅前に大きな「古墳の町田布施」といった看板を設置をしてはというお尋ねでございますが、田布施町にはたくさんの古墳があることをPRできるような表示板、看板を新たに設置してはという御趣旨だろうと思われませんが、御承知のように、駅前には既に田布施ライオンズクラブが策定に携わりました古墳や遺跡巡りの案内看板が設置されておりますので、当面はこちらを有効活用して、いろんなアイデア等も募って観光案内に役立てていきたいというふうに思います。

次に、2点目の観光協会が教育委員会とタイアップして、埋蔵文化を観光資源として活用してみてもとの御提案でございますが、町だけで決められません。観光協会にも話をしてみないといけません、町が一方的に動くということではできませんので、御質問の内容を伝えて一緒にやっていきたいと思っております。

しかし、これまでこうしたものは教育委員会で企画、展示を通じ、様々な文化財の公開活動が既になされてきております。今後の観光への活用につきましては、郷土館への来館を積極的に呼びかけるなど、観光協会との連携した取組を促していきたいというふうに考えます。

3点目の田んぼアートへの町と観光協会の取組についてのお尋ねでございます。

観光協会のフェイスブックやインスタグラムで、田んぼアートのほか、古代米についてその取組を発信されていると聞いております。また、地域交流館のホームページでも古代米を使用した商品の紹介がなされております。

次に、4点目でございますが、令和4年6月議会以降、2回御提案をいただいていると思っておりますが、埋蔵文化の田布施検定実施についてでございます。これは文化財調査室と観光協会とでタイアップして、町内の埋蔵文化財の検定問題を策定してPRしてはという御提案だと思いますが、こちらでも観光協会で町の歴史に関する興味関心を持っていただけるよう、現在、田布施検定クイズの作成に着手されておりますので、また、國本議員にもお諮りする中で、いろいろな御意見等もいただいて、いいものにしていきたいなというふうに思います。

5点目の近隣市町と連携して、古墳巡りを田布施町が主体的に取り組んでみてはというお尋ねでござ

ざいますが、近隣市町が作成しております観光マップなどを用いて、古墳巡りに限らず、広域で観光名所を巡る周遊ルートを立案してみることも一考だと考えますので、近隣市町で検討する場があれば提案してみたいと思いますし、また、各市町の首長さんにも御提案してみたいと思います。観光協会には、当然、打診はさせていただきます。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 再質問に入りますが、先ほどと同じように、こちらも担当課長が年度末人事で他の課に異動していますし、これまで答弁どおりに施行されていないということは、町長に大いなる責任があると思っています。

これからの質問には、町長本人の御答弁を願います。

再質問の一つです。田布施駅の待合室の敷石には何が描かれているか、町長は御存じですか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 知っておると言いたいんですが、存じておりません。存じておりません。申し訳ございません。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 後井古墳なんです。後井古墳が、待合室の改札口の手前の真ん中のところに描かれています。それほど古墳の町田布施は、駅もPRしているんです。いつそれが描かれたか分かりませんが、昨日、今日ではないです。もう昔からそういった後井古墳が描かれています。古墳の町田布施を象徴しているとは思いませんか。

どこに古墳の町田布施の看板を立てるかにつきましては、一番適地と思われる場所があります。先ほどライオンズクラブの看板が立ってあるというふうに言われましたが、その隣に、古めかしい郷土館の案内図があるんです。その地図には、スーパーミコーの懐かしい名前が見えます。恥ずかしいとは思いませんか。観光客が駅前に降り立ってその案内図を見たときに、どのように感じますか、想像できますか。それを撤去して、縦長に「古墳の町田布施」という看板を立てるとというのが私の主張です。どうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 國本さんの御提案、参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 観光協会の理事には若い人が多くて、埋蔵文化のことについてどうも経験が浅い人が多いように感じています。

昨年9月に質問して以来、経済課からも要請があったと思うんですが、今年度の総会資料には、このことには触れていないように思います。答弁どおりに働きかけたでしょうか。

観光協会の理事にもなっている、ふるさと寄附金の一番多いおいしいパンの店Y a m a g u c h i が、分銅形土製品を模倣してパンを作り、売り出したらどうかと思っています。返礼品として使ってもいいのかもしれませんが。町長はどう思いますか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 分銅の件ですか。分銅のパン、すばらしいアイデアだと思いますので、またY a m a g u c h i さんにも相談して、少しでも寄与できればと思います。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 町長に答弁をずっとお願いしていますので、よろしく願いいたします。

昨年の9月の質問では、経済課長が田んぼアートを今年はホームページに出して、皆さんに周知していきたいというふうに考えておりますとの答弁をいただいております。今年は町制69周年ということで、3か所の古代米田んぼアートがあるうち2か所でその数字を入れています。今は赤米の穂が出て、デザインもはっきりしてきました。

町長は家から庁舎までの道すがらの跨線橋のところで描いている田んぼアートは見ておられると思うんですが、そういった数字が入っているのを御存じですか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 毎日通っておりますので、色がついてきたなど。今日もお昼を食べてからここに来るときに見させていただきました。すごいいいデザインで、よく色がついてきたので楽しみにしております。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 6月から10月までは経済課長の答弁どおり、リピーターが訪れるよう町と観光協会、地域交流館ともタイアップして、田んぼアートに特化し、その他の季節には田布施町の四季折々の様子をホームページでアップするのはもちろん、写真展や写真コンクールをしたりして、田布施の魅力を発信したらいいと思っています。来年は町制70周年ということで、アートにその数字を入れ、大きなアピールになると思われま。

田んぼアートで、そばを通る山陽本線にラッピング電車や瑞風等が通ったりすると、いわゆる撮り鉄が集まります。古墳の町田布施をアピールするには、いいチャンスですがどうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 田んぼアートは非常にすばらしいものだと思いますし、やはり山陽本線からすぐ見えますし、県道から見えますので、非常に町をPRすると申しませうか、そうしたのから見たら、観光の町、古墳の町とか、すばらしいと思います。

木村節郎さんとか、携わっていらっしゃる方もいらっしゃいますので、その辺とも十分相談しながら、70という記念すべき年でございますので、しっかり取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 田布施町は、通過型観光から滞在型観光に転換するのが一番の課題です。古墳と田んぼアート、農産物を含めると、農家民宿や農家レストランを建てるには、私は納所付近が最適だと思っています。町長はどう思われますか。観光協会と連携して、そういったものを建ててもらおうよう、町民をたきつけませんか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） やはり行政だけではできませんので、やはり今頃いろんな仕組みがありますので、銀行さんに入っていて、PFIとか、いろいろな資金を民間で調達してつくるといふこともできますので、3種類ぐらいあると思いますので、ある銀行さんから提案は受けておりますので、そうしたものに取り組みませんかというのを聞いておりますので、今、すばらしい御意見をいただきましたので、そうしたものが可能かどうか、町だけでつくるわけにはいきませんので、関係される方、関係してきた方に御意見をいただきながら、一つの方策として考えてみたいというふうに思います。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 今、山口県古墳ネットワークというのが結成され、活動を始めています。これまで何回か古墳ネットワークの集いが持たれています。このネットワークには、光市では末岡元市長といったそうそうたるメンバーが入っております。田布施町でも、埋蔵文化財に詳しい人を募ってメンバーに入れたらどうでしょうか。

古墳ネットワークの集いは、去年は平生で、今年は周防大島ですといたしますから、来年は熊毛王国の本家本元の田布施町が引き受けると、町長自ら山口県古墳ネットワーク、こちらに働きかけませんか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） そういう取組があることは聞いておりますが、具体的にはまだあまり分か

りませんので、尾崎館長とか同級生でございますので、いろいろ話も聞かせてもらいながら取組を進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 先ほど教育長にも言いましたけど、田布施町の観光資源として埋蔵文化財が使えるということを町長は低く見積もっていませんか。トップが冷めていたんでは、埋蔵文化財を活用したまちづくりはできません。来年の町制70周年記念行事には、ぜひとも古墳に詳しい町の観光大使である松村邦洋さんをお呼びして、古墳の町をアピールしてもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。

以上で2問目は終わりました、3問目に入ります。

地域包括ケアシステム構築を、答弁者は東町長です。

団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、地域包括ケアシステムの構築を実現するために、町は昨年度末に第10次田布施町高齢者保健福祉計画を策定し、今年度からそれに基づき事業を推進しているはずで。

重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるようにするには、住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供が求められます。

今後、増加が見込まれる認知症高齢者の地域での生活を支えるための対策と取組をお尋ねします。では、個別の質問に入ります。

1つ目は、高齢の認知症の予備軍といわれる若年性認知症とMCIといわれる軽度認知障がい者にはどこが担当し、具体的にどのように対応しているのですか。

2番目です。相談窓口となる田布施地域包括支援センターと認知症地域支援推進員は外部に委託していますが、町民への周知と認知をどう図っていますか。

3つ目です。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう介護する家族、支援する地域、事業所等への具体的な取組はどうなっていますか。

4つ目です。避難所に認知症の方をケアできる設備と周囲の人が理解できる体制を構築してほしいと思っています。現状はどうでしょう。

5つ目です。9月21日がアルツハイマーデーということから、9月はアルツハイマー月間となっています。9月に、本町では認知症を町民に啓発するような取組をしていますか。

以上です。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それではお答えします。

まず、第1点目でございますが、若年性認知症や軽度認知障害の担当部署及び具体的な対応についてでございますが、若年性認知症につきましては、介護保険法に基づきますサービスと総合支援法に基づきますサービスがあることから、健康保険課及び町民福祉課が連携して対応をさせていただいております。

また、MC Iにつきましては、介護保険法に基づくサービスの利用になることから、健康保険課で対応をいたしております。

本町においては、若年性認知症としてこれまで対応した事例が2例あり、いずれも家族等からの御相談により支援を開始し、現在、共に施設でお暮らしになっておられます。

また、若年性認知症の相談窓口としては、宇部市にございます県立山口県こころの医療センターに若年性認知症コーディネーターが常駐し、専門的に相談を受け付けられているほか、本町の窓口や地域包括支援センターでも御相談に応じております。

このほか、若年性認知症の方等を対象とする認知症カフェを来年2月2日に、柳井地域の1市4町で共催で実施する予定といたしております。

MC Iについては、それが疑われる場合であっても、多くの方が加齢による物忘れと思われ、受診につながらないことが非常に多くございます。本町でも、親族からの相談で受診の支援に関わったケースが1件ございますが、家族の判断で、介護サービスの提供にはつながっておりません。

MC Iについては、町民の方の認知度もあまり高くありませんが、今後、認知症について、町や地域包括支援センターが認知症や介護予防等について町民の方へお知らせする機会には、積極的にMC Iについても啓発等を行っていきたいと考えます。

次に、2点目は、包括支援センターと認知症地域支援推進員の周知についてでございます。

御質問のように、本町では、地域包括支援センターを社会福祉法人施福会に、認知症地域支援推進員を医療法人光仁会にそれぞれ委託いたしております。

地域包括支援センターは平成18年に設置して以降、サロンなどで啓発活動や介護よろず相談の開催等、地域に根差した活動を行っており、その他、様々な御相談もお受けし、その件数は年間約2万件にも上っていることから、町民の皆様には周知はできているというふうに考えております。

また、認知症地域支援推進員は、認知症カフェをボランティアと協力して企画運営し、カフェ参加者と交流をさせていただいております。

認知症に関する相談については、推進員が町に常駐しているわけではないため、町職員や地域包括センターがお受けした認知症に関する相談について、その後、御自宅を御訪問し、本人や家族等へ助言を行うなどいたしております。

周知については、民生委員さんには昨年、民生委員協議会で御紹介も行っておりますが、直接、町民の方に対しての周知ではありませんので、今後、サロン等の機会を活用し、周知をしていきたいと考えます。

3点目は、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための具体的な取組についてでございます。

住み慣れた地域で尊厳を持って暮らしていただくためには、御自身が健康で自立して暮らしていただくことが重要ですが、年齢を重ねるにしたがい、どうしても他人の力を借りなければならないことも出てまいります。そのため、本町では、介護予防・日常生活支援総合事業や包括的支援事業に掲げられている事業の推進に努めてまいりました。

生活支援体制整備事業では、協議体での議論を経て、地域でお互いに助け合う仕組みづくりに努め、麻里府地域及び城南の大田・川西地区では、住民の主体による支援の仕組みが立ち上がっております。

また、麻郷地域では、毎週金曜日に地域の方々がレクリエーションを楽しまれる住民主体の集いの場が立ち上がっており、その場で交わされる会話などから、地域の住民の方々が抱えられているニーズの収集を図る取組が始まっております。

在宅医療・介護連携推進事業では、熊毛郡3町が合同で事業を進めており、近年は、みとりをテーマに、医療従事者と介護従事者が参加する研修会を実施し、終末期における医療従事者と介護従事者との認識の共有を進めております。

4点目は、避難所における認知症の方への対応についてでございます。

本町では、災害による避難所を開設する際には、西田布施公民館に福祉避難所を設置することとしております。この福祉避難所を設置する際には、町の保健師を常駐させ、支援が必要な方への対応をすることといたしております。

5点目は、9月に行われるアルツハイマー月間の取組についてでございます。

今年実施する内容は、まず9月4日に、城南オレンジカフェのボランティアスタッフを対象に、認知症サポーターステップアップ講座を、また9月20日に、麻郷小学校で認知症サポーター養成講座を実施することといたしております。

また、学校行事の関係上10月になりますが、田布施農工高校で認知症サポーター養成講座を2回に分けて実施する予定といたしております。そのほか、時期は未定ですが、城南、東田布施、西田布施の各小学校でも認知症サポーター養成講座を実施する予定といたしております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 若年性認知症につきましては、私も義理の姉が発症して、70前に亡くなっております。ですから少々その知識はあります。ほかの方も若年性認知症につきましては、少々そういった知識があるかと思うんですが、MC Iにつきましては、恐らく町民の中ではあまり認知されていないのではないかと思います。ですから、さきの答弁でも、介護を拒否されたということにつながっているんじゃないかと思います。

本町では、これまで具体的には何を広報手段として、どんな形でその若年性認知症や軽度認知障害、MC Iですね、について周知してきましたか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 若年性認知症の周知というのは、町民に直接というのはできておりません。介護事業者等に、先ほど町長の答弁にありました、県が設置した相談窓口のPRを行っております。

また、MC Iにつきましては、フレイル予防の中で若干触れたケースがあるようには聞いております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 今後そういった周知が進めば、数は増えると思われます。ネットを見れば、厚労省からどちらも資料が出ています。民間のほうからも資料が出ており、私はそれをネットから習得しました。町民が各自、それだけに頼るわけにはいきませんので、これから早急にそういったことを推し進めていってほしいと思います。若年性認知症とMC Iに対する予防ですいね、認知症の前段階、そこに重点を置くのが大切だと思います。よろしく願いいたします。

厚労省は、これから認知症やMC Iが増えていくかを予測した数値を出しています。2035年には、65歳以上の人口に対する有病率は、それを合わせると30%程度になっています。そのうち半分以上がMC Iです。高齢者の認知症になる前に若年性認知症になったり、軽度認知障害が判明すると、認知症への進行を遅らせたり、軽度認知症、MC Iの場合には健常に戻るちゅうことがあるんです。認知症になる前にその発見や、発見した場合の対処が一番だと思います。先ほど言いましたように、今後その重要性を認識した取組をして、政府の出した2035年予測を低くしていきませんか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 議員さん御指摘のとおりと思っております。MC Iの方については、改善傾向が見られるというふうな話も聞いておりますので、今後、フレイル予防全体の中でも、

MC I というものについて皆さんに広く周知していただいて、そして、もし何かがあったときには、早めに受診なりというのをしていただくような方策を取っていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 本町の地域包括支援センターは、長年、たぶせ苑に委託しています。チラシやパンフレットには、相談窓口として電話番号は記されていますが、たぶせ苑にあるとか、住所は記載されていないのが多いと思います。先ほど町長の答弁では2万件の相談があり、認知されているというように言われたのですが、どうかなと思います。

認知症地域支援推進員に至っては、今回、健康保険課にお聞きしたら、初めてその存在を知りました。昨年2月からサポートたぶせの職員に委託している、まあ光仁会ですね、光の。彼とは2か所のオレンジカフェでお出会いし、お名前も伺いました。本町ではその存在を町民が知るような、具体的にどのような活動をしてきましたか。

平生町では、今、社会福祉事務所から変わっておりますが、相談室という名で回覧を回しております。そういったことが、昨年2月に交代しながら、それまでも存在はよく分からなかったんです。ですから、そういったのをとにかく出していかないと、包括支援センターとか推進員というのは前線で動くんじゃないかと思うんです。健康保険課の手と足となって前線で動くんじゃないかと思うんです。そういったところをもっとアピールしてほしいと思います。周知してほしいと思います。よろしくお願いします。どうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 周知が足りていないというのは、議員御指摘のとおりと認識しております。

認知症地域支援推進員につきましては、令和3年度、4年度と、実は直営で町の健康保険課内に職員を置きまして、それで実施をしておりましたが、なかなか介護業界というのは人材の移動が激しいもので、1年間とかいう期間でちょっともう辞めてしまわれました。で、どうしても認知症地域支援推進員をお願いするとなりますと、それなりの知識と識見が必要でございます。それで、今、光仁会の沖廣さんのほうにお願いをしておるところでございます。

今後につきましても、まずは町のほうに常駐はしておりませんので、ファーストコンタクトはちょっと難しいかと思っておりますけれども、地域支援推進員をPRして、もし困っている方には、積極的に関わっていく体制というのをこれからもつくっていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） これから住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにするには、多くの人に認知症には中核症状と高度心理症状があることを理解してもらう必要があります。その上に立って、地区の支援体制の構築が求められます。

地区の支援体制を構築するには、今、個別の避難計画、そういったのを作成していると思うんですが、それと重なる部分があると思います。横断的に対処できませんか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） 認知症の中核症状、周辺症状とかということについても、今、認知症サポーター養成講座等を行っております。今、小学生、中学生がやっておりますし、地域の方々へのサポーター養成講座というのも継続して行ってまいりました。これ以上、より多くの方に認知症サポーター養成講座を受講していただきまして、認知症のことを広く知っていただける体制をつくっていききたいと思っております。

また、個別避難計画につきましても、要介護の方で希望される方については、対象ということになっておりますので、そこら辺はいろいろな関係部署と協議をしながら進めていかしていただけたらと思っております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 夫婦のどちらかが若年性認知症になったり、さらに親が認知症になるケースも多いみたいです。そうすると、介護に疲れて介護鬱となるケースも、まああるようです。近隣市町では、光市では家族会がありますが、本町も含めて、そういった家族会があるのはありません。山口県にはありますので、今後、みんなで支えていくためには、そういった家族会の復活、そういったものも視野に入れてもらえませんか。

○議長（南 一成議員） 寶城健康保険課長。

○健康保険課長（寶城 和之君） そういうふうな活動に積極的に関わっていただける方がいらっしゃいましたら、当然、そういうふうな家族会というのも復活はさせていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 國本議員。

○議員（6番 國本 悦郎議員） 最後のお願いになります。

最近の報道によりますと、今回、2019年の大綱に続き、認知症施策推進基本計画案が出されております。近々閣議決定するというように聞いております。ここにはポイントとなる基本施策が

7点、重点目標が4点の新しい認知観が示されております。これから計画を立てていく場合には、それも踏まえて長期的に支援計画を立てていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。

○議長（南 一成議員） 以上で、國本悦郎議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） ここで暫時休憩を行います。

再開を15分後の14時55分。14時55分に再開しますのでよろしくお願いいたします。

午後2時39分休憩

.....

午後2時55分再開

○議長（南 一成議員） 休憩を解きます。

休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

瀬石公夫議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） それでは、通告に基づきまして、2件の質問をいたします。

質問方式は、いずれも一問一答方式です。

質問事項1は、住み続け、移り住んでくる「希望の町」を「かたち」にしてはについてお伺いします。

答弁者は町長でお願いします。

質問要旨は、田布施町の課題解決策は何か、少子高齢化を起因とした人口減少が大きな問題であるが、今、田布施町の人口は1万4,000人であり、20年先には1万人となり、その後ますます減少します。地域経済や地域の利便性、暮らしの安全・安心は低下し、人手不足や財政負担の増大など、大好きな田布施町は消滅していくかもしれません。住み続け、移り住んでくる希望の町を形にすることが重要であり、町の未来に希望を見いだすアイデアや施策の構築が必要であります。

そこで、次のことについてお尋ねします。

- 1、次世代を担う子ども・子育て・教育の充実をもっと進めては。
- 2、人生100年を支える人づくり・地域づくり・健康づくりを進め、町民の暮らしを守る施策を。
- 3、産業（農業・漁業・商業・工業）の活性化と誘致を進め、経済を力強くし、若者の働く場をつくり出してはどうでしょうか。
- 4、災害に強いまちづくり、山づくり、川づくり、海づくりを行い、災害から町民の命と生活を

守る対策を。

以上、質問いたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 瀬石議員から、まちづくりについてすばらしい御提言をいただきました。

ありがとうございます。町としても少子高齢化、人口減少等厳しい現実もございますが、しっかりとまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

それでは、お答えを申し上げます。

1点目の御質問でございます。

次世代を担う子ども・子育てや教育の充実は、田布施町のみならず、日本全体の大変重要な課題でもございます。このため、町では様々な子育て支援策に取り組んでおります。

昨年の町独自の取組といたしましては、子育て世帯向けの城南住宅の建設、おむつ定期便の事業開始などが上げられます。どちらも大変好評をいただいております。また、令和7年4月には、こども家庭センターを田布施町保健センター内に設置し、現在、健康保険課で担っております母子保健機能と町民福祉課で担っております児童福祉機能を集約することで、これまで以上に緊密に連携を図り、妊産婦や子育て世帯に対して、包括的で切れ目のない、きめ細やかな支援を目指してまいります。

現在、町では第3期田布施町子ども・子育て支援事業計画の策定に向け作業を進めており、子育て世帯へのアンケート調査や有識者の方々からの様々な御意見を踏まえ、より一層子ども・子育て、教育環境の充実に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目の人生100年を支える人づくり・地域づくり・健康づくりを進め、町民の暮らしを守る施策についてでございますが、人づくりと地域づくりにつきましては、田布施町地方創生検討委員会や田布施農工高校との連携によるたぶせView会議において、様々なアイデアや意見をいただいております。

人も地域もやはり人口減少が課題となります。少ない人数でこれまでの地域での生活を維持、発展させようとする、AIや機械の活用等、新たな技術を使いこなしたり、そうした人材がこれまで以上に必要になってまいります。

また、そうした人材が、これからの幸せで住みやすい地域をつくっていきますので、行政と民間、住民の皆様が一体となって取り組んでいく必要があると考えます。

健康づくりにつきましては、第2期田布施町健康増進計画に基づいた施策を行っております。

現在、地域計画作成に向けての評価を行っており、今後、人生100年時代に向けて健康寿命の

延伸を目指した施策を検討していけたらと思っております。

また、がん検診については、受診率が横ばいの状態が続いているため、今年度は肺がん検診の自己負担を無料とし、受診率の向上を目指しております。また、住民が検診をまとめて受けることができるよう、特定健診とがん検診を同じ日に受けることができる総合検診を休日に行い、若い世代を中心に受診希望者が増えてきております。

今後、さらに住民の皆様の声をお聞きし、実施方法等を検討してまいりたいと考えております。

次に、3点目の産業の活性化と誘致を進めて力強い経済と若者の働く場の創出についてでございますが、御承知のとおり、本町の区域内に企業の立地を促進するため必要な奨励措置を講じ、産業振興と雇用の拡大を図り、地域経済の発展に資する支援を行っているところでございます。

また、町内の商業の活性化を図るため、空き店舗等を活用して事業をしようとする者に対しての空き店舗等活用事業補助金についても、前回の定例会の一般質問においても説明をいたしております。

各分野において、補助金制度の活用周知や関係機関との連携に取り組んでおりますが、とりわけ農業に関しましては、既存法人等の規模拡大を後押しし、さらに、ほ場整備された農地への企業参入ができるよう、将来構想を関係機関と連携して構築しながら、国、県、町の支援策を積極的に活用し、新規就労者の雇用につながるよう取り組んでおります。

最後に4点目でございますが、災害から町民の命と生活を守る対策についてでございます。

近年の異常気象による集中豪雨や大規模地震などに備え、安全・安心な地域経済社会を構築するため、第6次田布施町総合計画や田布施町地域防災計画、田布施町国土強靱化地域計画等を策定しており、防災・減災対策に取り組んでおります。

災害から住民の生命と財産を守り、安心して生活ができる環境を整えるため、大規模盛土造成地の滑動崩落対策等の調査や、災害危険箇所を中心に治山・治水・海岸保全などの防災対策に努めており、田布施川の改修や港湾、漁港などの護岸改修の海岸高潮対策事業も計画的に推進しております。

今後も引き続き、予防事業の推進を、国や県などの関係機関に働きかけ、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 瀬石議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） いろいろ今、施策と取組を御説明いただきましてありがとうございます。いろいろと今までもいろんなことに取り組まれて、教育あるいは災害まで、るる述べら

れてよく分かりました。こういうことを行政としたら、前にもっともっと進めていくことが重要なことだろうと思っています。

しかしながら、ここに住んで暮らすということになると、やはり一番大切なのは経済ではないかと思うわけでございます。日本の総人口は、次の20年で1,300万人も減少すると予想されております。これは、1年間で65万人が減少することとなり、毎年、山口県の人口の半数がなくなる事態であります。こうしたことで、多くの自治体が消滅することは避けられないと思います。

人口減少スピードを少しでも遅くすることが、この町に住み続け、移り住んでくる対策が必要と思われる。企業誘致と産業の活性化を進め、先ほど言われました農業もこれから力を入れて、法人等の誘致等をしてもらって、企業誘致も土地もなかなかないということですが、そうは言いつても、ちょこちょこ空いているところもあるわけで、そういう企業誘致を進め、経済を力強くしていただきたいと。

また、水道代、下水道代、国保、介護保険料が安く、町民の生活への経済負担が少ないまちづくりは第一義だと思います。効率的な財政運営に努め、そこに住んでいる人の経済負担が少なく、住み続け、豊かな生活ができる田布施町をつくってほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） この御質問を通じて、本当にいろんな問題が有機的に関わってきております。おっしゃいますように、まず経済ですね。仕事があるということが大前提だろうと思っております。商工会とも相談しながら、いろんな事業に取り組んでまいりたいと思っておりますが、やはり、この人口減をどう分析して考えるかというのは、今、出ておりますような国の方針だけじゃ到底無理だろうと思っております。もう少し国、県もスタンスを変えてもらって、新しい日本をつくるような提言をしていただいて、各自治体が本当に希望を持って取り組めるように、ネガティブな話ばかり出されると気持ちもすさんでいきますので、ちょっと前に申し上げました、本当にこうすればええんかなという希望が少しでも見えるような施策を出していただいて、それに従って、田布施町も山口県も行っていけたらというふうに思います。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 瀬石議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） なかなか難しいことではございますが、今後、町の人口が減少することは仕方のないことだろうと思っております。先ほど言いましたように、山口県の人口の半数がなくなるという現状を見ると。そういうことで、人口が減ることを前提とした社会をつくり直すことが必要だと思っております。

人口減少を経験した先進国の国のように、1人当たりの生産性、1人当たりの経済を伸ばすこと

が重要であろうと思っております。ヨーロッパから見ると、日本が1万三、四千ですが、大体7、000万から800万ぐらいの人口規模でございまして、フランスなんかは国土が日本の1.5倍ぐらいだと思いますが、そうした中で人口が少なくても、1人当たりの生産性、1人当たりの経済性といいたいでしょうか、所得が伸びることが重要だと思っております。

そういうことで、効率的な財政運営、経済活動により豊かな生活を送れるよう施策やアイデアを出し、一生懸命考え、成果を形にさせていただきたいと思っております。人口を増やすことも必要ですが、そこに住んでいる人が豊かに暮らせるような施策をすると、やはりそこで一生を終えることができるのではないかと思いますので、その辺をちょっと御見識があればお伺いしたいと思っております。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 瀬石議員おっしゃいますように、やはり人口が少なくなっても、その生産性でしょうか、そうしたものがあれば、当然、生活はできていくわけでございます。人が減って、今はちょっと日本がどんどんどんどん貧乏になって、海にお金を捨てているような状態でございますが、やはりもうちょっと考え方を改めて、今、所得のほうも上げようということをやっておりますが、そうした所得と生産性、そうしたものがつながってきてということが必要かなと思っております。

総裁選で提案をするような答弁になってもいけませんけども、やはり国民がみんな思っているんじゃないかと思うんですよ、このままじゃいけんよということをごすね。やっぱり人口が少なくなっても、やはり日本というのはしっかりしているねということで評価を受けるように、最近いろんなことがあって、日本神話というのが本当に崩れる一方で、日本が誇ってきたものがどんどんなくなってきておりますが、そうしたことがないように、本当に日本全体が一緒になって、将来を見据えてやっていったらと思っておりますし、よそは、フランスなんかでも移民政策とかがありますから、なかなか一概に、日本のようにもう移民というものは受けないということで、今の研修制度とかいうものでいくのであれば、少しまた考え方を、ヨーロッパとは変えないといけないかもわかりませんが、ドイツも、フォルクスワーゲンがドイツの国内から工場がなくなるということですから、日本でいうとトヨタの工場が日本から全くなくなるということと同じですから、全世界的にやはりそういった傾向にあると思っておりますので、日本としてもしっかりしていただきたいと思っておりますし、当然、町のことですから、また議会と御相談しながら、やっぱり田布施のよさを残していけるように努力していきたいと思っております。

○議長（南 一成議員） 瀬石議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） そういうことでございます。そして、それを実現するためには何だといえ、町の財政の中で無駄なことは徹底的に省いて、それを住民に還元するというのが

大切に、言えば1人の所得を増やす、1人の所得を増やせば、総所得ではなしに、GNPの総生産力ではなしに、一人一人の生産力、経済力を伸ばすということに重点を置いてもらえればいいんじゃないかと思います。

そうすると、おのずから無駄なことが見えてくる。その無駄を省いて町を進めていただければ、そこに住んでいる人が本当に幸せに生きられるものだと思っております。そのことで無駄なことをとにかく省いて、町民のほうにそれを還元していただくようにしていただきたいと、このように思っております。

先ほど誰かがちょっと言われたみたいなの、公共施設がこのまんまでいいんだらうかと、その辺にもメスを入れて、そういうことが効率的な、やはり一人一人に所得の還元ができるものだと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、次の質問に移ります。

質問事項は、給食費の無償化を来年度も継続実施してはについてお伺いします。

答弁者は町長でお願いします。

質問要旨は、公立小中学校の児童生徒全員の給食費を無償化している自治体が、2023年9月時点で全国の3割に当たる547自治体あり、17年度の調査から6年で約7倍に増え、子育て支援の一環で無償化する動きが全国で広がっています。

本町では、物価高騰対策として影響を大きく受けている小中学校の保護者の負担を軽減するため、令和6年度の小中学校の学校給食を無償化しました。今、国際的な原材料価格の上昇や、円安による輸入品の高騰、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格の上昇の長期化など、あらゆるものが値上がりし、実質賃金は減少している状況であり生活は大変であります。家庭の事情に関わらず、全ての子どもが安心して昼御飯を食べられるよう保障することは、町民の願いだと思います。

無償化は、子どもに直接支援が届くという点でも優先度は高いと思います。こうしたことから、来年度も本町の給食費の無償化を継続されてはどうかお尋ねいたします。

以上、質問します。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、お答えいたします。松田議員の御質問もございました。重複するものも多くございますが、御容赦いただきたいと思います。

本町における小中学校の学校給食の無償化につきましては、最初に令和4年度に11月から3月分まで実施し、また、現在は令和6年度につきましては、既に4月分から実施しており、全学期分を予算措置をして、完全無償化ということで取り組んでおります。

どちらの年度とも地方創生臨時交付金を財源としており、令和4年度の交付金の趣旨は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するとともに、感染症拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援することであり、令和6年度は食料品価格等の物価高騰を受けた生活者等の支援であり、そうした交付金の趣旨に沿って様々な事業を実施する中で、両年度とも学校給食無償化事業を交付金の計画に計上し、国の承認を得て実施してきたものでございます。

全学期ベースの令和6年度につきましては、予算上は歳出予算に4,500万円程度を計上しており、そのうち交付金を4,100万円程度活用するように組んでおります。これだけの金額を全て一般財源で実施することになりますと、地方交付税に依存しております本町といたしましては、財政運営に大きな影響が出てくることは必至でございます。

私といたしましては、今後、国の補正予算等により新たな交付金制度が創設された際には、趣旨等を踏まえ、学校給食無償化事業を国の計画に計上するかどうかについて検討したいと考えますが、本来、異次元の子育て支援対策の中で国が責任を持って取り組むべきことだろうと思えますし、それは県内ほとんどの市長、町長もその考えでおります。財政に余裕のある自治体では実施ができるが、そういった自治体では実施できないというのは、やはり憲法に違反するような事態だろうというふうに思います。

いずれにいたしましても、重要な課題であることは確かでございますので、財政見通しに最大の注意を払いながら、財源確保と併せて検討はしてまいります。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 瀬石議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） 2年前に町民の方から、令和4年9月11日付の日経新聞に掲載の記事のことで要望を受けました。それは、公立小中学校の児童生徒の給食費を無償化する自治体が相次いでいるという記事で、田布施町も無償化してはという内容でありました。

そこで私は、令和4年12月議会で、給食完全無償化で子育て支援をと一般質問を行いました。それから1年後の令和5年9月には、文部科学省から全国の3割に当たる547自治体が給食費の無償化をし、東京23区では令和6年4月から無償化となると発表されました。このように全国で給食費無償化に動き始めているが、このあたりの御所見をお伺いいたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 皆さん御承知のとおり、給食費の無償化について報道でもかなり報道されておりますし、状況は一緒でございます。私の率直な思いは、何とか無償化を続けたいという思いはございますが、やっぱり4,000万円を超える一般財源が今確保できるかと言われますと、自信がちょっと全くないとあって、将来ずっとですから、今年度だけとか来年度だけというんだったら

いいんですが、やはりずっとこれから無償化ということになりますと、現在ちょっと見通しがつけにくいなという判断をいたしております。

私が思いますのは、やはり、人口の移住定住の道具と使われたり、何と言うんでしょうかね、市町のPRの手段として使われること自体がどうも気に食わないと申しましょか、本来違うと思うんですよね。やはり給食ですからね、学校教育法に基づいて授業をしている子どもたちは、同じように無償化されるのであればそうであるべきだろうと思いますが、実際、給食がないという自治体もかなりありますので、そこで無償化にするとすると、それは弁当代を出すのかとか、逆の給付になってきますので難しい問題とは思いますが、ここまで子育て施策を推進したいと国が、岸田内閣もおっしゃったんだったら、やはり少しはそういったところへ踏み込んでいただきたかったなというのが、県内各首長さんの思いでありますし、実施されているところも、おかしいねと思いながら、近隣市町でやるからやっている。これが正解だとは思っていないというふうにみんなおっしゃっています。

しかし、新聞等で取り上げられて言われると、やらざるを得んかなというふうな、本来とはちょっと違う形で進んできておるのが、また医療費はしようがないと思うんです。実際にそういった病気でいらっしゃるという方に対する具体的な支援ですから、医療費のことはあまり思わんですけれども、給食となるとやはりどうなんかなという気持ちはありますが、瀬石議員おっしゃいますように、そういった御要望もあります。

今年になりまして、随分無償化で助かっておりますというふうなお電話もいただきましたし、お手紙もいただいておりますので、本当に喜んでいただいているなというのは実感いたしておりますので、財源を何とか捻出できるように、今、検討いたしておりますし、全くしないということとはございません。諦めずに検討はさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 瀬石議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） 給食費の無償化は、ずんずん全国でも広がっておるということで、東京都も半分は党アピールと、給食費のそのようになっておるようです。そういうことで、先ほど言われた国のそういうのもあるでしょうし、今度、総裁選に出られる方も、私が総理になったら給食費は無償にするというので、その辺も考えられて……。

それで、一つちょっと嫌味なんですけど、一旦6年度にしたわけですよ、この給食費を。1回無償化すると、なかなか光の市会議員、おお、田布施は無償化しちゃったんじゃないかと、いや6年だけですよ、令和ちゅうて。それで、なかなかみやすくいくんかいのと、さっきみたいにやっぱり喜

んじょってんですいね、給食費の無償化。なかなかこれを手に返すちゅうのは非常に、そのあたりはもしかしてどうしても予算が組めなければ、早めにそういうことをPR、ちょっと広報活動をしておかないと、ちょっとやっぱり不信感を、1年間のせっかく努力したことが無意味になってくるというような気がしますんで、その辺は腹に入れちよっていただきたいと思うわけです。

それと、先般、テレビを見ていると和木町出身のタレントの村重杏奈さんが「踊る！さんま御殿」の「田舎育ち有名人の逆襲」に出演されておりました。村重さんは、私の町は人口約5,600人のどかな小さな町だが、当時は地域の小学校に約500人が通っていた。すごく小さな町なのに500人ぐらいいて、給食費が無料なんですと打ち明けられていた。これは田舎でもええことがあるんだと、田舎育ちの逆襲ですからね。うちもばかにするなど。こんなええこともあるじゃということで。それでアイドルになるために福岡に転校したとき、給食費を払わなくてはいけなくなり、親がなぜと怒っていたと回想されておりました。村重家は同じぐらいの年の3姉妹で、親御さんの気持ちは痛いほど分かります。

そうしたことで、来年度も引き続き、本町の給食費の無償化を継続されるようお願いしたいと思います。

先ほどもう言われたんで、検討しよるということで、こういうこともあるので、一回やるとなかなかちょっと踏みとどまるちゅうのは相当な勇気が要ると思いますが、それはお任せしますんで。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それが事実でございますんで、腹くくってやっております。

やっぱり商品券をやったときも、今年はやっていない。何でやめるんかとか、老人の方へいろんなクーポン券をやって、何でやめるんかというのは、これはもう常でございますので、それはそれで、やはり財政をお任せいただいてやっているんだからということで、責任を全部負うということでやらさせていただいておりますが、和木町、確かにそうですが、今、非常に財政が昔と比べて厳しくなっておられまして、給食の無償化をやめたいんじゃけど、今さらやめりゃあせんということで、町長さんがこの前嘆いておられましたが、やっぱり人数が少ないから、少ないところは何とか、金額自体がやっぱりそれだけ来ませんので、総額自体が少ないから、今やられているのは、財源的に特別な財源をお持ちのところとかいうふうなところ、そして小学生、中学生が少なくて、そんなに財源としてぴりぴりする必要がないというところかなという気はいたしますが、いずれにしても、ほとんどのところはちょっと困っておりますので、またいろんな要望を通じてやりたいと思いますし、よそばかりは言っておられませんので、財源でございますので、またできるだけ工夫をして取り組んでみたいと思います。ありがとうございます。

○議長（南 一成議員） 瀬石議員。

○議員（10番 瀬石 公夫議員） 今、実質賃金は減少しており、二、三日前の新聞では、僅か実質賃金も上昇したと、ボーナスが増えたんだというようなニュースもありましたが、家計の負担は増えています。給食の無償化は子どもの基本的な生活を維持する対策であり、また、固定費の給食費が無償化になれば、家計支援につながる、ぜひ来年度も給食費の無償化を実施されることを強く要望いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（南 一成議員） 以上で、瀬石公夫議員の一般質問を終わります。

○議長（南 一成議員） お諮りします。本日の会議はこれで延会にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれで延会することに決定しました。

本日はこれで延会します。

明日は午前9時からこの会議場で開きますので、また一般質問から始めたいと思います。定刻までに御参集をお願いします。

（ベル）

午後3時28分延会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長 南 一成

署名議員 松田規久夫

署名議員 神田 栄治

令和6年9月10日(火曜日)

議事日程(第2号)

令和6年9月10日 午前9時00分開会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 一般質問
- 日程第3 議案第36号
令和5年度田布施町歳入歳出決算の認定について
- 日程第4 議案第37号
令和5年度田布施町下水道事業会計決算認定及び利益の処分について
- 日程第5 議案第38号
令和6年度田布施町一般会計補正予算(第3号)議定について
- 日程第6 議案第39号
令和6年度田布施町介護保険特別会計補正予算(第1号)議定について
- 日程第7 議案第40号
田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する
条例の一部改正について
- 日程第8 議案第41号
田布施町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改
正について
- 日程第9 議案第42号
田布施町国民健康保険条例の一部改正について
- 日程第10 議案第43号
字の区域の変更について(国営南周防土地改良事業「宿井換地区」)
- 日程第11 議案第44号
田布施・平生水道企業団規約の変更について
- 日程第12 議案第45号
柳井地域広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び規約の変更について

日程第 1 3 議案第 4 6 号

工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（建築））

日程第 1 4 議案第 4 7 号

工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（機械設備））

日程第 1 5 議案第 4 8 号

議決事項の一部変更について

本日の会議に付した事件

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

日程第 3 議案第 3 6 号

令和 5 年度田布施町歳入歳出決算の認定について

日程第 4 議案第 3 7 号

令和 5 年度田布施町下水道事業会計決算認定及び利益の処分について

日程第 5 議案第 3 8 号

令和 6 年度田布施町一般会計補正予算（第 3 号）議定について

日程第 6 議案第 3 9 号

令和 6 年度田布施町介護保険特別会計補正予算（第 1 号）議定について

日程第 7 議案第 4 0 号

田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する
条例の一部改正について

日程第 8 議案第 4 1 号

田布施町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改
正について

日程第 9 議案第 4 2 号

田布施町国民健康保険条例の一部改正について

日程第 1 0 議案第 4 3 号

字の区域の変更について（国営南周防土地改良事業「宿井換地区」）

日程第 1 1 議案第 4 4 号

田布施・平生水道企業団規約の変更について

日程第 1 2 議案第 4 5 号

柳井地域広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び規約の変更について

日程第 1 3 議案第 4 6 号

工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（建築））

日程第 1 4 議案第 4 7 号

工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（機械設備））

日程第 1 5 議案第 4 8 号

議決事項の一部変更について

出席議員（11名）

1 番	内山 昌晃議員	2 番	神田 栄治議員
3 番	西本 篤史議員	4 番	松田規久夫議員
5 番	落合 祥二議員	6 番	國本 悦郎議員
7 番	高月 義夫議員	9 番	谷村 善彦議員
1 0 番	瀬石 公夫議員	1 1 番	伊村 渉議員
1 2 番	南 一成議員		

欠席議員（1名）

8 番 河内 賀寿議員

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長 増原 慎一君 書記 羽山 齊克君
書記 有吉 純一君

説明のため出席した者の職氏名

町長 東 浩二君 副町長 川添 俊樹君
教育長 鳥枝 浩二君 総務課長 森 清君
総務課主幹 堀 昌子君 企画財政課長 山田 浩君
税務課長 藤本 直樹君 町民福祉課長 長合 保典君
健康保険課長 寶城 和之君 経済課長 長谷 満晴君
建設課長 吉藤 功治君 学校教育課長 山中 浩徳君
社会教育課長 福田 幸治君 会計室長 江良 和美君
代表監査委員 内田 勝己君

午前9時00分開議

(ベル)

○議長（南 一成議員） これから本日の会議を開きます。

あらかじめ申し上げます。本日、河内賀寿議員より欠席届が提出されておりますので、御報告します。

議事日程は、お手元に配付したとおりです。

日程第1. 会議録署名議員の指名

○議長（南 一成議員） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、高月義夫議員、落合祥二議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（南 一成議員） 日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許します。高月義夫議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） それでは、通告に従いまして、2問質問をいたします。最初は一括質問一括答弁、2回目より一問一答形式で、答弁は1問目は東町長、2問目は鳥枝教育長にお願いいたします。

まず1問目、田布施町地域防災計画の徹底をです。まずもって、先日の台風10号が接近の折、自主避難所開設や警戒レベル3の高齢者等避難情報発令の対応など、多くの職員の皆様が準備などに奔走されましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、3月定例会において、地域防災の取組について、命の確保の観点から、住宅の耐震化を中心に質問をいたしました。今回は、8月8日、午後4時43分頃、日向などを震源とする宮崎県南部で最大震度6弱の地震が発生。田布施町も震度2の揺れがありました。気象庁は、同日午後7時15分に南海トラフ地震が発生する可能性が平時より高まっているとして、南海トラフ地震臨時情報、巨大地震注意を出しました。これは制度ができて初の注意で、普段より数倍発生する可能性が高まったとして、日頃からの備えの再確認することを呼びかけ、町民の皆さんの防災への意識がより一層高まったのではないかと感じます。

さらに9月1日には、関東大震災後101年が経過。城南地域では避難訓練が開催され、城南小学校児童をはじめ、多くの参加者が防災の知識や実際の避難、消火訓練などを体験し、防災の意識がさらに高まったものと思います。そこで、行政と教育についてそれぞれ質問をいたします。

本年5月、田布施町地域防災計画が改定されました。震災対策編の災害予防計画には、1番目に防災思想の普及・啓発が上げられています。一人一人に自らの命と財産を守る心構え、行動を求めるとともに、町は町民に対し、地震に対する防災知識を啓発指導する必要があり、防災の日を設定するなど普及啓発を推進するとあります。そこで、地域防災計画の推進について問います。

- 1、町職員へ防災対策を積極的に推進するための研修会等を実施していますか。
- 2、町内各種団体へ災害防災に関する知識の普及啓発指導をしていますか。
- 3、町防災担当者に対し、必要な知識、心構えの研修会は実施していますか。
- 4、大規模災害に関する各種資料を広く収集・整理・保存、その公開状況はです。

続いて2問目です。8月19日、保健センターで行われた田布施町児童生徒ふれあい活動では、防災・学び・交流をテーマに、町内の児童生徒が異なる学校同士、交流を図りながら、グループ学習によって、防災の基本、命を守る共助など、防災の心を学べたように感じました。また、学校の安全については、国の第3次学校安全の推進に関する計画に沿って進められていると理解しています。この計画は、5つの推進方策を設定し、学校の安全を確保するための組織的取組や、家庭・地

域・関係機関との連携・協働、学校での安全に関する教育、安全管理の充実、推進方策に関する横断的な事項等が上げられています。そこで、学校安全の推進について問います。

- 1、学校安全を学校経営に明確に位置づけることができますか。
- 2、学校安全に関する校長・教職員の研修並びに充実はなされていますか。
- 3、子どもが危険を予測し、回避する能力を育成する取組をしていますか。
- 4、ふれあい活動における防災への取組の成果、そして今後の展開は。

以上、お願いいたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、質問事項 1 の田布施町地域防災計画への取組について、4つの御質問にお答えをいたします。

まず1点目でございますが、町職員への防災対策に関する研修会等の実施についてでございます。町職員の研修については、毎年、新規採用職員に対して災害対応研修を実施し、研修の中では土の作り方、チェーンソーなどの資機材の取扱いの実技もさせております。

また、毎年、公益財団法人山口県ひとつづくり財団が実施されます危機管理実務講座や災害対応講座に、各講座2名ずつを受講させております。

また、内閣府が実施されます職員向けの研修では、防災スペシャリスト養成の防災基礎コース研修がございます。また、普段、防災に関する業務に従事していない職員を対象に、災害対応業務の手順を業務担当別に学べる災害対応eラーニングも実施させていただいております。

また、山口県が実施されます研修では、罹災証明などを発行するために、災害に係る住家の被害認定業務研修に令和5年は4名を参加させております。

その他、ドローン免許資格研修講座に職員3名を参加させておりますが、ドローンは防災関係だけでなく、観光分野など様々な分野で利用することができるというふうに期待をいたしております。

なお、研修ではございませんが、町が実施した訓練は、昨年5月30日に麻里府保育園で保育職員や児童係職員を対象に、土砂災害訓練を想定した避難訓練と情報伝達訓練を実施し、また、6月25日は、田布施農工高校で、水害を想定したぼうさいフェスタを開催し、避難行動、避難所運営訓練等を行っております。

また、国の緊急地震速報訓練に併せて、シェイクアウト訓練を来庁者に呼びかけながら実施もいたしております。

その他、県内では初めての開催となりました総務省主催の災害時初動対応力向上のための連携訓練では、大規模地震を想定した状況付与による情報伝達や、図上等のシミュレーション訓練に74

名の職員や関係団体、関係機関の職員が参加をいたしております。

なお、毎年4月の課長会議では、災害対応マニュアルの改訂版を配付し、業務継続計画BCPと併せて、全職員に対して防災対応の周知徹底を図っております。

ここ数年、国等から職員への防災研修の参加要請が多くなってきております。できるだけ研修や講座訓練に参加させ、町の防災力の底上げを図っていきたくと考えております。

職員の研修ではありませんが、私自身も今年6月に消防庁主催の市町村長の災害対応力の強化のための研修に、県内では私だけでございましたが参加をさせていただきました。内容は、実際の災害発生を想定し、風水害をテーマに、研修を指導していただく職員と私の1対1で、災害の警戒段階から発災後に至る重要な局面を、警戒期、発災・初動対応期、避難生活期の3つに分け、それぞれの局面においてトップとして必要な対応や意思決定について、実践的なシミュレーション訓練を受けさせていただきました。感想といたしましては、災害対策本部が持つ役割の重要性を再認識するとともに、災害対応シミュレーションを繰り返し行う必要性を感じた貴重な研修となりました。

2点目でございますが、町内の各種団体へ災害・防災に関する知識の普及・啓発・指導を行っているかについてでございます。毎年、町広報紙等で、地震・災害への備えの啓発や、出水期前には命を守るための避難行動などについて啓発を行ってきております。各種団体への啓発につきましては、令和5年度から6年度にかけて、山口県や光地区消防組合とも連携しながら、計5回の出前講座を開催し、家庭や地域での防火・防災対策や障がい者の避難、災害時の逃げ方などの講座を開催し、併せて指導も行わせていただいております。

次に、3点目でございますが、町防災担当者に対し必要な知識、心構えの研修は実施しているかについてでございます。まず、町の防災体制について御説明をさせていただきます。町の防災担当の職員数は、今年度から1名増加し、体制強化を図っているさなかでございます。しかし、現在、防災の主担当の職員は担当となってから1年目でございますので、令和6年3月に公益的法人等への一般職員の地方公務員の派遣等に関する法律に基づき、前任のベテラン職員が派遣勤務しております法人と協議書を締結し、消防防災に関する後方支援とアドバイスができるように、協定をもって職員体制を整えているところでございます。

お尋ねの防災担当者の研修でございますが、自治体危機管理・防災責任者研修や被災者生活支援再建支援システム研修会などを受講させておりますが、柳井圏域で開催されます研修では、学校関係者や防災担当者が集まり、学校の安心安全に関する研修と併せて、学校の防災等の意見交換会にも参加させております。

4点目は、大規模災害に関する各種資料の収集・整理・保存と公開についてでございます。田布

施町地域防災計画にある災害教訓の伝承では、町及び県は、過去に発生した大規模災害の教訓や災害文化を確実に後世に伝えていくため、大規模災害に関する各種資料を広く収集・整理・保存するとあります。また、災害に関する石碑やモニュメントを正しく後世に伝え、町民は自らの災害教訓の伝承に努め、町及び県はその取組を支援するというふうにあります。

全国では、令和7年に気象庁による震度観測史上、初めて震度7を記録した阪神・淡路大震災以降、数多くの地震とそれに伴う災害が発生してきております。また、気候変動に伴い、台風の大型化や豪雨災害も多数発生しております。過去の災害関連資料については、近年、国等でデータベース化されてきております。田布施町の災害史では、古くは毛利家文庫にございます1854年の安政南海地震と津波に関する文献がございますが、近年では幸いにも大規模な災害事例はございません。その情報につきましては、山口県の災害教訓事例集などにも一部掲載されております。

近年の災害ごとの人的被害、住家被害、その他被害、被害の総額及び写真等の災害関連資料はデータ管理しておりますが、今後の課題としては、こういった災害関連資料や歴史的公文書に関して、どこからでも貴重な資料がアクセスできるように、デジタルアーカイブに取り組んでいく必要があると考えております。

また、災害に関する石碑やモニュメントについては、国土地理院に登録してございます自然災害伝承碑では、県内9市町、31基ございます。本町には登録されている災害伝承碑はございません。しかし、本町で把握していない災害伝承碑も幾つかあると思われまますので、その際には情報提供をしていただければというふうに思います。

そして最後にお礼ではございますが、高月議員におかれましては、今年になりましてからも、小中学生のふれあい学習の一環として、防災をテーマに保健センターで防災学習を行いました。その際にも地域ボランティアとして参加していただきました。また、9月1日の、たぶせ防災訓練in城南では、事業所としても御参加いただき、小学生も貴重な体験をさせていただきました。改めて、防災、安全なまちづくりへの御協力に感謝申し上げます。

私からは以上でございます。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 2つ目の、学校安全教育に関する4点の取組状況についてお答えをいたします。

本町におきましては、国や県の学校安全推進計画を踏まえ、学校安全の取組を総合的かつ効果的に推進していくため、防犯を含む生活安全、交通安全、そして災害安全（防災）ですが、この3領域において、学校・家庭・地域・関係機関が一体となった取組を進めていくことにしております。

まず1点目の学校安全を学校経営に明確に位置づけることができているのかのお尋ねです。現在、各学校においては、毎年度、学校安全に関わる年間指導計画や危機管理マニュアルを作成して安全教育を進めるとともに、それをPDCAサイクルにより活動や取組の見直し・改善を行っており、学校安全の質と水準の向上に努めているところであります。

2点目は、学校安全に関する校長・教職員の研修及び充実はなされているかについてであります。各学校におきましては、地域の実情に応じた実効性のある安全教育の取組となるよう、コミュニティスクール等の連携・協働体制を生かすとともに、家庭・地域・関係機関や専門家との連携強化を図りながら、地域ぐるみで子どもたちの安心安全を見守る仕組みや、学校防災の在り方等について、協議をしたり、工夫したりして理解を深めているところであります。

また、県教委等が実施いたします防犯教育、学校事故対応研修、防災教育研修会等に参加し、先進的な取組に学んだり、演習や実技等の実践的な活動を通して研修を深めたりするなどして、学校安全に関わる管理職の危機管理能力や教職員の資質向上に努めているところであります。

3点目の、子どもが危険を予測し、回避する能力を育成する取組に関しましては、各学校では発達段階に応じてKYT、危険予測学習に取り組んでいるところであります。このKYTというのは、危険予測の頭文字と、それから学習はトレーニングの略で、これをKYT、危険予測学習というふうに名づけておりますが、この中で教材の絵やイラスト、あるいは写真に潜む危険を予測し、指摘し合うことで、現実には起こりそうな危険に気づき、事故に遭わないためにはどのように行動するのかを考え、自ら安全に行動できるよう危機意識や安全意識を高めることを目的とした学習活動であります。

また、児童生徒が通学路の安全を自ら点検して確認し、安全マップづくりに取り組んだり、各種のハザードマップを活用して危険箇所や避難場所を確認したりするなどの取組もなされております。

最後に、4点目の、児童生徒ふれあい活動における取組の成果と今後の展望につきましてお答えいたします。今年度から、町内の小中学生が学校の枠を越えて会し、交流しながら体験や活動を通して学ぶ機会を新たに設けて実施することといたしました。今回は、防災について学ぶ、これをテーマに、異年齢によるグループでの活動を中心に企画したところでありますが、地域のボランティアの方々も参加いただき、活動を支えていただき、大変感謝いたしているところであります。

当日は、石川県在住の能登半島地震で被災された御家族とオンラインでつないで交流をいたしました。いまだ倒壊した建物が多く残る街の風景を目の当たりにするとともに、被災時の困難さや復興に向けての思いを直にお聞きすることができました。とりわけ、震災直後の情報の入手・収集の困難さを教えていただくとともに、苦境を乗り越え、前向きに生活しておられる御家族の明るい

姿に触れ、参加者の多くは勇気と元気をもらったように感じております。また、当日、直接御指導いただいた防災士の方々からも、本取組については高い評価をいただいたところであります。

今後も、教育委員会といたしましては、様々な自然災害への対応について学習を積み重ね、防災意識を高めるとともに、災害から命を守るために、自分で考えて判断し、実際の防災対応行動につなげることができるよう、体験等を通して学ぶ、生きた防災教育を目指したいと考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ありがとうございます。まず1問目から再質問させていただきます。

ただいま御答弁いただきました、町民に対して、それから各職員、防災担当者、また町長自らいろいろ研修に参加されての知見を深められている様子というものを伺いました。大変安心をさせていただいたわけでございます。

ただ、大きな災害におきましては、いざ災害が起きて参集するときに、全員が役場へ集まってこれるかということ、そうではないということをいろんな震災を通して、その自治体の職員の皆さんからお聞きしておるところでございます。ということで、誰もが同じ共通認識ができるような体制づくりというのも、ぜひしていただきたいなというふうに思っております。

命を守るというのが大前提ではありますが、その命を守るということ、東北・三陸地方では、明治三陸地震の津波の頃から、「てんでんこ」という言葉が残っております。これは、それぞれが津波が来たら、取るものも取りあえず、肉親にも構わず、各自てんでんばらばらに1人で高台へ逃げろと。自分の命は自分で守れという強い言葉であるというふうに思わせていただきますけれども、その中で、「津波てんでんこ」という言葉をつくられたのが、津波災害研究家である山下文男氏でございます。この「津波てんでんこ」という言葉ができた背景には、北海道西南沖地震、1993年の奥尻島での津波における近藤家母子の悲劇ということがあります。この事例では、手をつないで避難していたお母さんと子どもさん3名が、途中で祖母の家に立ち寄ったために、僅かの時間差で命を落とされたというような事例でございます。この痛ましい教訓として、山下氏が強調するのは、祖母が既に避難していたにもかかわらず、それを知らずに尊い命を落とした点ということがあります。母親が我が子連れ立って逃げた点ということではなくて、そういった意味でそれぞれが早く避難をするということ、そういったことを指した「津波てんでんこ」という言葉であろうかと思えます。こういった意識というのは非常に大事なことだなというふうに思うわけであります。

今回、東日本大震災に関連した県での避難訓練の様子を見ておりますと、皆さん、走って高台に

逃げておられるというような、実践しながらのような訓練ということをされております。そういった意味で、避難訓練というの、今、それぞれの地域で該当する災害に対しての避難訓練ということで企画をさせていただいておりますけれども、11月には津波に対しての避難訓練を計画されているというふうに麻里府の方からお聞きいたしました。本当に津波に対しては非常に緊急性を要する避難ということになるかと思えます。その避難先でありますけれども、避難場所というのがどこへ設定しておられるかということです。その避難場所に避難をきちんとするということが大切になってくるのではないかとこのように思うわけでありまして。

実は、周防大島町で町職員防災研修会というのが今年2月に行われました。その時に東日本大震災当時、釜石市防災課長だった佐々木守さんを招かれて、講師の先生としていろんなお話をさせていただいたようでございます。その先生のお話の中で、職員の使命ということのお話がありました。職員の使命は、住民の命と財産を守ることであるが、私はそのどちらもできなかった。とても悔しい。自分の一番の罪は東日本大震災で避難しなかった人をつくった防災対策に罪があるのではないかとこのようにおっしゃられました。

東日本大震災で、釜石市の鶴住居地区で起きた悲劇というのがございます。この地域は防災訓練を何度も繰り返し行われ、防災意識も非常に高い地域であったようでございます。ただ、震災当時、多くの方々が命を落とされたということ。本来、鶴住居地区の津波避難場所は高台の神社を想定されておったようでございますけれども、海拔4メートルの鶴住居地区防災センターへの避難訓練を繰り返した結果、防災センターへ避難という誤った認識が生まれたということでもございました。東日本大震災のときも、多くの方がここへ避難されて震災に遭われたと。そのきっかけというのが、避難訓練のときに何回も参加されている方から、遠くの山の高台に避難をするのでは大変だから、防災センターを使って避難訓練をさせてほしいという申出がきっかけであったというふうにおっしゃられております。

佐々木さんは、避難訓練をするというのは2つの意味があり、津波避難場所を覚えること、逃げるという意識をつくること、この2つであり、避難する意識ができればいいかと軽く思い、訓練を続けた結果だというふうに後悔されておられます。この自然災害に対してどう行政が向き合うべきか、その語り部として、今、全国各地でその体験、教訓をお話しになられておられるということでもありました。

また、もう一つは、災害が起きたときに、自分の町で対応するみたいになってはいますが、無理であり、災害対策は広域で考えるべきだと。県とかではなく、普段から付き合っている姉妹都市、災害応援協定を結んでいる同じ被害を受けない市町村とお互いが助け合う仕組みが、ものすごく重要

であるというふうに訴えられております。

1つ質問でございますけれども、11月に津波に対する避難訓練、それは津波に対しての避難場所への避難訓練というふうに認識してよろしいでしょうか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 11月24日に麻郷・麻里府で行う町との地域連携訓練については、議員おっしゃるとおり、地震を想定した津波訓練を行う予定にしております。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ぜひ高台の場所というものを指定していただいて、津波に対して逃げられるようにと、確実に避難ができるようにというようなことを想定していただきたいというふうに思います。

それと、先ほどのお話の中で、同じ災害が起きないところの市町村との連携ということを上げておられましたけれども、現在、田布施町は山口県との連携は協定を結んでおられるというふうに認識しておりますが、多分、そのほかの自治体とは協定は結ばれていないというふうに思うわけでございます。南海トラフでの津波での災害ということになりますと、たしか瀬戸内沿岸が軒並み被害に遭うというふうになるわけですが、県もその広域に対しての支援ということになってまいります。そういった意味で、やはり南海トラフでの津波の災害の想定されない地域との連携というのも、また必要ではないかと思うんですけれども、その辺はいかがでございましょうか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 議員が言われるように、今、県と19市町においては協定を結ばせていただいておりますが、それ以外で大規模災害が発生した場合、総務省の職員の派遣制度というのがございまして、対口支援制度、よく言うカウンターパート方式といいますけれども、これは県単位で基礎自治体に支援するというような方式が総務省としてございます。田布施町としても、過去、熊本地震などに6名だったと思いますけれども、この制度に基づいて職員を派遣したというような実績もございます。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ありがとうございます。非常時ということもあって、いざ何がいる……。民間との協定というのを、田布施町はたくさん結ばれておりますので、そういった物資面も抜けがないように、ひとつ検討をお願いしたいと思います。

それと、大災害でのいろんな資料等も先ほどデータベース化してというお話がございました。できれば町民の皆さんに目が触れるような形で表していただきたい。例えば図書館ですけれども、そ

ういったところに災害関係のコーナーを設けるとか、そういった啓発活動というものもぜひ取り組んでいただきたいと思います。いかがでございましょうか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 先ほど町長の答弁にもございましたけれども、データベース化、これまでのいろんな人的とか住家被害とか、写真等はまだデータ化しているんですけども、なかなか貴重資料がアクセスできるようなデジタルアーカイブ、やっていかないとは思ってはいるんですが、そういうところの整理ができていないというのが実情でございます。議員おっしゃるように、そういうところを機会を捉えてやったらどうか、展示したらということと思いますが、なかなかデジタル化というところまで……。たくさんの写真があって、それを整理するところまで至っていないというのが実情でございます。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ぜひ、できるだけ早く、町民の皆さんにはそういったものを見ていただいて、実際に体感できるようなものをしていただきたいなというふうに思います。

また、史跡でございますけれども、私が議員になる前だったか、その前後だったか分かりませんが、麻里府地区に、ここまで津波が来たという石碑があるということを知った記憶があるんですけども、ただ、それから後、麻里府の方にいろいろお聞きするんですが、いや、知らんねというお話ばかりでございまして、実際は、あるか、ないかというのがよく分かっておりません。

ただ、周防大島町には、そういう石碑が残っておりまして、碑が残っております。言い伝えというのがたくさんございました。安政南海地震のときの外入集落というところに、ほこらがあって、そのほこらのすぐ下まで津波が来た。辺り一面海になっていたというような言い伝えがございます。そこの高さが海拔16メートルでございます。あそこまで瀬戸内で津波が上がるんだということもちょっと驚いたわけですけども。その16メートルという高さ、実は、今、ハザードマップで浸水地域というのがいろいろ表示されておりますけれども、このハザードマップには津波の遡上高さというものが考慮されていないというふうに書かれております。津波というのは、私も遡上高さというのはあまりよく認識しておりませんでしたので、今回いろいろ調べました。要は、津波を押し力で遡る高さというようなことだというふうに思うわけですけども、東日本大震災では岩手県を原流とする北上川で50キロ地点まで遡ったという記録が残っておるようでございます。

ハザードマップでは現れない高さ、遡上高さというのは、大体、予想津波高さの3倍から4倍上がるそうでありまして。それを考えると、周防大島町、南海トラフ地震での予想最大津波高さ3.7メートルというふうになっておりますけれども、その4倍というのは14.8メートルになります。確

かに16メートルの地点から、そのすぐ下まで波が来たという昔の言い伝えが数字的に合うんだなというふうに、ちょっと驚いたわけでございますけれども。そうすると、田布施町もかなりのところまで遡上してくるというふうなことを考えておかなければいけないんじゃないかなというふうに思うわけです。ただ、この遡上高さ、じゃあどこまで来るのかというのは、よく分かっておりません。津波高さの3倍から4倍というふうには言われておりますけれども、実際、地形によったり、建物がいろいろ建っていたりということで、条件は変わってくると思うわけですが、ただ遡ってくるということは予想していかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思うわけでありまして。そうすると、現在の避難場所って、果たしてそれでいいのかなというふうな疑問が湧いてくるわけでございますけれども、そういった検討というものをしていただけませんか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 山口県の津波浸水想定というのは、浸水域というのがありまして、その遡上高さというのが、これ想定される……。今、ハザードマップで浸水域が入っていないとおっしゃいましたが、実際、解説を見ると、浸水域、遡上が想定される区域が入っているというふうには解説されております。また、町のハザードマップにも注意点に遡上のことも記載されているところであります。

ただ、議員が言われるように、東日本、そういう2倍から4倍というところも承知していますけど、今後、やはり大きな地震があったら、すぐハザードマップ関係なく高いところに逃げるというのは大事なことだと思います。

先ほど言いましたけど、11月に麻郷・麻里府の津波の訓練をいたします。自主防災会とかの説明の機会を通じて、今、議員の言われたようなことも伝聞していきたいというふうには考えております。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ぜひお願いしたいと思います。南海トラフの地震も、起こる場所によって津波の到達する時間というのは変わってまいります。一番近いのは、多分、宮崎県沖ですね。この前、震源があった辺りが、直接来るとかなり早い時間、多分、1時間ちょっとで田布施には到達するのではないかなというふうに思うわけです。いろんなこと、最悪を想定して対策をとることが、こういう防災では原則ではないかなというふうに思うわけで、しっかりとした対策をぜひしていただきたいなというふうに思います。そういったことをぜひお願いしたいというふうに思うわけでございます。

去年、そして今年と、2回、防災避難訓練が行われました。その避難訓練に対しての改善点とい

うか、何か得たものといえますか、そういったものというのは総括して何かございますでしょうか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） この9月1日、城南地域で避難訓練、安否確認訓練をさせていただきましたところ。本当に昨日、今日の話なんです、自治防災会会長のほうから、そういう課題とか、今後こうしたらいんじゃないかというような報告書をいただきました。それに対して、自主防災会会長が、今後、城南地域でそういうところを文書で周知していきたいというふうに聞いておりますので、また町も、その課題についてできることをやっていきたいというふうに考えております。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ぜひお願いいたします。要介護者の問題もございます。様々な問題が、この防災、避難という面では出てまいるというふうに思うわけでございます。地震の場合は、地震が起きた後というのは、余震で多少の被害は出るかもしれませんが、それ以上の被害というのはなかなか出にくい災害ではあるわけですが、津波の場合は、また別でございます。揺れが起きた後に津波ということですので、すぐ避難しなければいけないというような形になってまいります。そういった要介護者等避難ということも併せて、いろいろお考えいただきたい。今回、城南での避難訓練も、動けない方は、もう避難しないというか、そういう状況であります。安否確認というのはしておりますけれども、そのままの状況でございます。場所によって、そういう避難形態もまた変わってくるんだろうなということを思うわけでありまして、そういったこともひとつしっかりと踏まえながら、対策を取っていただきたいというふうに思わせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、2問目の再質問に移らせていただきます。学校の安全に関してですけれども、大変範囲が広がります。学校の校内だけではなくて、学校外の安全ということもいろいろ考えなければいけない。それには地域との関係ということも非常に大切になってくるというふうに思わせていただいております。

先ほど御答弁の中で、いろいろ取組をしていただいております、大変安心しておるわけですが、児童生徒が通学路の安全を自ら点検して確認し、安全マップづくりに取り組んだり、各種のハザードマップを活用して危険箇所や避難場所を確認したりするなどの取組もされておりますというふうに御答弁いただきました。これは学校内だけではなくて、地域との連携というのは図られておりますでしょうか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 随分前からこの取組は始まっているんですけれども、今は通学路につき

ましては、PTAの方も入って、安全点検に加わって、警察、それから道路管理者も一緒になって点検をしているところですが、以前は学校の中だけで、ある程度、自治会単位で取り組んでおりましたが、最近では学校運営協議会、コミュニティスクールの仕組みを生かしまして、そういった辺りの中でも、熟議の中で考えておられる学校もありますが、まだまだ取組としてはこれからだというふうに認識しています。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ぜひ地域とも連携をしっかりと図っていただいて、共通認識をしていただけたらというふうに思います。

それと、その通学路に関してですけれども、よくメールで不審者情報というのが入ってまいります。そういうのがあるというのは分かるんですけど、場所が全然分からないものですから、どこで出たんだろうかと。逆に言うと、そういう不審者が出るところというのは、多分、危険な箇所だと思うわけでございます。ぜひ、そういう過去の不審者が出た場所というのをプロットしていただいて、ここは要注意だよという場所というのを特定していただきたいなというふうに思います。

と申しますのも、犯罪学が専門の大正大学の小宮信夫先生というのがいらっしゃいます。小宮先生は、危険箇所、犯罪が起きやすい場所というのはホットスポットだというふうに呼んでいらっしゃいます。入りやすく、見えにくい場所というのが、そういうホットスポットになるんだということをおっしゃっておられます。例えば、周りにフェンスや壁のない駐車場なんかは、止まっていてミラー等で常に人の動きを見れる。待ち伏せするには最適な場所なんだということ。また、公園の遊具の近くにあるベンチというのは、大変危険であって、子どもが遊んでいる遊具のすぐそばのベンチに不審者がいて、子どもに声かけをしても何の違和感も感じない。そういった配置というのは、すぐに直すべきであるというようなお話もされておられました。また、トイレの男女の入り口というのも、防犯に関しては非常に大きな意味合いがあるんだということもおっしゃっておられます。いろいろ解説を聞くと、なるほどということを感じるわけですが、改善の点というか、これからの計画に関しても非常に重要な点だというふうに思っております。

また、防犯パトロール、防犯パトロール隊もございまして、いろいろ巡回はしております。ただ日本のほとんどの巡回方式というのは、防犯の意味では役立っていないんだということもおっしゃっておられました。まずはそのホットスポットというものをしっかりと把握して、そこを重点的に訪れ、行って、そこを歩いて回る。そういったことをしていかないと、犯罪者というのはそういう場所に隠れてしまうんだということでありました。重点型、滞留型という、選択と集中ということで、犯罪者にプレッシャーをかけるパトロールをしてほしいということもおっしゃっておられます。

そういった面で、小中学校での通学路、生活安全の危険箇所というものは、どの程度の危険箇所なのか。通学する上で、ここ危ないね、車が近く通るねというような危険箇所ではなくて、そういう犯罪者視線での危険箇所のあぶり出しというのも、これからは必要でなかろうかというふうに思います。田布施では幸い、そういう事件というのは起きていないということは聞いてはおりませんが、今後はどういうふうになっていくかということとは分かりません。田舎でも大変痛ましい事件というのが起きております。田布施によく似た環境の町でも起きておるわけでごさいます、尊い命が失われるというような現状もごさいます。そういった意味で、特に1人通学になる場所というのは、十分今後も気をつけていかなきゃいけないところだというふうに感じております。そういった場所の掘り出しというものも、ぜひお願いしたいと思います。

あともう1つ、子ども自身が生き抜く力、危険を予防するということに関してであります。

2011年の東日本大震災で、釜石の奇跡と呼ばれていた事例がごさいます。津波でんこを標語に防災訓練を受けていた釜石市内の小中学生らのうち、当日学校に登校していた生徒全員が生存し話題となっておりました。小中学生らは、地震直後に、これまでの訓練通りにグラウンドに集合して点呼を取っていたら、1人の教師が「何やってんだ、早く逃げろ」との指示で避難を開始されたそうです。最初は小中学生と一緒に避難訓練で使った場所、海拔5メートルのところだそうですけれども、そこへ避難し、崖崩れの箇所が見つかったため、ここでは危ないと判断して300メートル先の介護施設、ここは海拔15メートルということでごさいましたけれども、へ避難をされた。ところが遠くから迫り来る津波を見たとき、間もなくここも津波が来ると感じて、教師たちは、「死ぬぞ走れ」と叫び、全員でさらに高台を目指し、生徒たちは幼い子どもをおんぶしながら避難、全員に助かることができたというものであります。的確な状況判断、その2番目に避難したところは、避難した5分後に津波にのまれたそうであります。そういった状況の中で、周囲に逃げろ逃げろと知らせながら、保育園児のベビーカーを押し、高齢者の手を引いて高台に向かって走り続け、全員無事に避難ということでありました。

釜石市の教育委員会は、常識ではあり得ないことが起きたわけではなく、訓練や防災教育の成果であり、実践した児童生徒自身が、奇跡の意味は違うと当初から感じていたと説明されております。日ごろの取組の積み重ねだったことを明かしております。また、犠牲者の遺族などの心情を配慮し、奇跡という文言は使用せず、釜石市の出来事というふうに現在は言われているということでごさいました。

やはり日頃の積み重ね、防災に対しての積み重ねというものが、咄嗟のときに出るんだなということを、このことを見まして、感じさせていただいたわけでごさいます。

防災訓練というのは、大変必要であるというふうに思います。避難訓練、今回、城南の避難訓練では、小学生は学校に登校した後でございました。この話を見たときに、一緒に避難をするということも大事なんだなということを感じたわけでございます。そういう機会というのは、田布施町の児童生徒はなかなかないわけでございまして、そういった地域のみんなど一緒になって、地域の一員として逃げるといふこと、避難するといふことの体験といふのも、子どもにとっては必要ではないかなということをおもわせていただきました。

そういった訓練といふのも、またこれから考慮していただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○議長（南 一成議員） 鳥枝教育長。

○教育長（鳥枝 浩二君） 今、議員さん御提言のとおりだと思うんですが、学校安全のことについて、私は3点は絶対に守っていかなくてはいけないことがあるんじゃないかなと思うんですが、1つは、やっぱりかけがえのない子どもたちの命を守るというのが1つ目です。2つ目は、自分たちの命を守ることができる、主体的に行動できる力を身につけさせるというのが、これが2つ目だと思います。3つ目は、自分の安全を確保した上で、地域の方とか近所の方とか、できることを、一緒に命を守る、避難ができると。この3つをできることが非常に大切だと考えております。そういう視点から、いろんな訓練とか、これを見直していかないといけないというふうに思っています。

実は今、議員さん御紹介いただきました釜石の件なんですけど、これは学校関係者の中では非常に教訓として今も生きていることで、私も実は仙台に行った機会にこれを見ました。教えてもらいました。要は、小学校では実は悲劇が起こっていて、中学校では奇跡が起こっているという、そういう対比的な事例を目の当たりにしました。そのとき感じたのは、やっぱりマニュアルどおりに行動したらそれでいいかという、逆にそのことが大きな災害、被災を生んだというのがこの教訓ではないかと思います。中学校の場合はそういうマニュアルにとらわれずに、ここにいたのでは近くの避難所では危ないという判断をした、その人たちが行動を起こして、ほとんど被災なく全員が安全に避難したというので、で、小学校のほうは悲劇と言われていますが、これもまたマニュアルに沿って訓練をしてそこへ行ったということは、一概には私は非難できないものがあるのではないかと思います。だから、そのあたりを臨機応変に対応できる力というのを、いろんなケースを想定しながら訓練を企画していくということが、今、一番大切なんじゃないかなというふうに感じております。

○議長（南 一成議員） 高月議員。

○議員（7番 高月 義夫議員） ありがとうございます。本当にいろんなお話を聞くと、本当に

生死は紙一重だなということを思います。そういった中で正しい判断がいかにかにできるかということも、やはり自分の身は自分で守るといふこと、どうやったら自分の身が守れるかということを一歩に考へて、一人一人が行動することが大事だといふふうにするわけにございます。

よく山口県は安全だ、田布施町は災害ないよねといふ話をよく聞きます。ただ山口県にずっといるのか、田布施町にずっといるのかといふこと、たまには広島に行ったり、東京に出たりといふこともあるかと思ひます。中には、四国、高知のほうに行かれる方もいらっしゃると思ひわけにございます。そのときに災害が起きたときどう動くかといふことが大変大きなことでありまして、その知識をしっかりと身につけていて、その中で最善の手段を取るといふことが、一人一人の命を守るといふことになってくるのではないかなといふふうにするわけにございます。

ぜひともその意識が、一人一人の町民の皆さんに芽生えるような、これからの防災政策、いろいろな体験もそうですけれども、ぜひやっていただきたい。その原動力になるのは、たぶん私は小学生であり中学生なのかなといふふうにしております。この釜石市のまとめられた資料集の中にも、小学生のお子さんがおばあちゃんを説得して、何度も何度も説得して、ようやく逃げれて津波から何とか逃げれたといふようなことも書かれております。そうした意識といふものをしっかりと植え付けていただいて、どこにいても生き延びるんだといふような強い力が持てるような防災対策をぜひとっていただきたいといふふうにしております。

長く話しましたがけれども、やはりその意識といふものは、行政から、いろいろな団体からしっかりと発信をしていくといふことが大切なんだといふふうにするわけにございます。今現在、田布施町では昨年からは、それぞれの地域ごとに避難訓練を行い、防災意識を高める取組といふのがなされております。先ほどお願い申し上げました、そのいろいろな資料といふものを、ぜひ町民の皆さんの目に届くように、いち早くしていただきたいなといふふうにするわけにございます。その一つ一つが、町民にとって、何かあったときにとっさに思い起こせる大切な資料になるといふふうにするわけにございます。ぜひともそのことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○議長（南 一成議員） 以上で、高月義夫議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） 次に、落合祥二議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） それでは、通告に従い2件の質問をいたします。質問方式は一問一答で、答弁は町長にお願いします。

13年前の2011年、平成23年の3月11日に東日本大震災、午後2時46分に三陸沖を震源としてマグニチュード9.0、最大震度7という日本観測史上最大規模の地震が発生、大津波が東日本の沿岸部を襲い、東京電力福島第一原子力発電所事故が起きました。東北を中心に北海道から関東地方にかけて広域かつ甚大な被害となり、死者は1万9,775人、行方不明者は2,554人に上ります。原発事故が起こった福島県では4,174人がお亡くなりになり、このうちの2,343人が避難生活での体調悪化や過労など、間接的な原因で亡くなる震災関連死で命を落とされました。震災と原発事故から14年目を迎えた今も、7市町に帰還困難区域が設定され、2万6,000人を超える人々が避難生活を余儀なくされています。昨年から帰還困難区域に特定帰還居住区域が設定されるなど、復興に向けて一歩ずつ前進はしていますが、原子力災害は現在進行形です。

私は去年7月下旬に、本町議会の同僚議員2人と一緒に福島第一原発を視察見学しましたが、福島第一原発で発生し続ける処理水や廃炉、放射性物質を取り除く除染で出た土壌の県外最終処分の行方、風評被害への対応など多くの課題が山積しています。

8年前の2016年、平成28年の熊本地震、4月14日に21時26分にマグニチュード6.5、最大震度7、2日後の16日、午前の1時25分にはマグニチュード7.3、最大震度7、震度7の揺れが28時間以内に二度発生するという歴史上例を見ない大規模災害でした。死者は272人、負傷者は2,738人、20万棟近くの家屋被害が生じています。

今年になりまして、2024年、令和6年1月1日の令和6年能登半島地震。16時10分にマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生、南西方向に約2.0メートルの地殻変動と最大4メートルの地殻隆起が起こっています。また、石川県では、珠洲市、能登町及び志賀町の3市町において合計約190ヘクタールの津波による浸水が確認され、特に浸水範囲の広い珠洲市における浸水深、浸水の深さですね、は約4メートルに達したと想定されています。9月5日現在で死者は358人、うち災害関連死131人、行方不明者は3人、全壊家屋は6,038棟、半壊家屋は1万7,944棟に上ります。

そして、また同じく今年2024年の令和6年8月8日に、日向灘を震源とするマグニチュード7.1、最大震度6弱の地震が発生。発生後、南海トラフ地震臨時情報、巨大地震注意が発表されました。

これらを踏まえてお尋ねいたします。

まず1点目ですが、南海トラフ地震・津波対策をどのように考えておられるのか。

次に2点目ですが、津波高潮ハザードマップはいつできるのですか。今年度予算に組み込まれていますが、いつできるのでしょうか。また、変更があれば、その内容はどのようなふうになっている

のでしょうか。

次に3点目。本町は南海トラフ地震防災対策推進地域になっておりますが、南海トラフ地震防災対策計画等をどのように捉えているのか、お聞きいたします。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、地震・津波・高潮対策について、3つの御質問にお答えをいたします。

まず1点目は、南海トラフ地震・津波対策を、どのように考えているかについてでございます。

南海トラフ地震につきましては、8月8日の日向灘を震源とする地震の発生から1週間を経過した8月15日まで、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され、特別な注意が呼びかけられたところでございます。今、この対応については様々な検証が行われているというふう聞いております。

この南海トラフ沿いの大規模地震は、マグニチュード8から9クラスで、今後30年以内に発生する確率が70%から80%とされており、昭和東南海地震や昭和南海地震の発生から約80年が経過をしていることから、切迫性の高い状況と言われております。

南海トラフ地震の防災・減災対策や津波災害対策につきましては、町民の命と生活を守るまちづくりのため、第6次田布施町総合計画や田布施町地域防災計画、田布施町国土強靱化地域計画等を推進し、防災・減災対策に、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目でございますが、津波・高潮ハザードマップについてでございます。先月、業務委託業者が決まり、改訂に向けた作業を進めておりまして、マップの改訂の完成は今年度末を予定をいたしております。

今回の変更内容についてでございますが、津波については、変更はありません。高潮について、県が示されました潮位等を反映して、冠水範囲と避難所の見直しを行うことといたしております。

次に3点目でございますが、本町は南海トラフ地震防災対策推進地域となっているが、南海トラフ地震防災対策計画をどのように捉えているかとの御質問でございます。

まず、南海トラフ地震防災対策推進地域は、全国707の市町村が地域指定されており、山口県では本町を含め15市町が指定を受けております。

また、これとは別に、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域の指定につきましては、全国139市町村が地域指定されておりますが、山口県内でこうした指定をされている市町はございません。

議員が御質問の南海トラフ地震防災対策計画については、南海トラフ地震に係る地震防災対策の

推進に関する特別措置法により、地方公共団体等が定める南海トラフ地震防災対策推進計画と、関係事業者等が定める南海トラフ地震防災対策計画がございます。似たような名称で非常に分かりにくいものがございますが、計画の中に「推進」というふうに入っているのが、地方公共団体等が策定する計画でございます。この「推進」が入っていない計画につきましては、関係事業者等が定める「南海トラフ地震防災対策計画」になってまいります。南海トラフ地震防災対策推進地域において、津波により30センチ以上の浸水が想定される区域で、対象となる施設や事業を管理・運営する事業者が計画を作成し、山口県に計画を届け出る必要がございます。

本町では、同法第5条の規定に基づき、南海トラフ地震防災対策推進計画、及び津波災害応急対策計画を策定いたしております。南海トラフ地震によります被害の発生防止又は軽減、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項等を定めております。

この推進計画は、田布施町地域防災計画の震災対策編の第3編に掲載をいたしております。

この推進計画をどのように捉えているかとお尋ねでございますが、推進計画では、本年5月、田布施町地域防災計画を改定し、情報収集、伝達、周知及び後発地震に対する警戒期間を明記するとともに、地震発生時の応急対策や時間差発生時への対応に関する事項などを盛り込んでおります。

南海トラフ地震は、これまで経験したことのない災害になるということを踏まえ、予断を持たず、最悪の被害を念頭においておく必要があると思っておりますので、今できる防災・減災対策をしっかりと確実に行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 今の南海トラフのことにつきましては、内閣府のホームページなどにいろいろその内容が記されてもいるわけですが、先ほど言われたように、田布施町の防災計画、この5月に改定されて、その中にも含んでいるということであります。

ホームページには、例えば、南海トラフ地震とはということから、先ほど町長が言われましたけど、時間差で巨大地震が発生するかもとか、南海トラフ地震臨時情報とか、南海トラフ地震臨時情報が発表されたら何をすればいいのかとか、これは住民向けですけどね、全て。事前避難は何をすればいいのか、地震が発生したらすぐ避難するための備えとか、南海トラフ地震臨時情報はどのように伝えられるのか、というようなことが書いてあります。

一方、気象庁のホームページを見ますと、南海トラフの地震についていろいろ書いてあるわけですけども、町震災計画等には書いてあると思うんですけども、まず、田布施町の浸水面積はどういう状態なのか、そして、南海トラフ巨大地震及び周南周防灘断層群主部の地震による最高津波水位

の到達時間、海面変動影響開始時間、ほかにもいろいろ、最高水位でなくて、例えば30センチの
がいつごろくるんかとか、いろいろあると思うんですが、その辺について分かっていることを教え
ていただいたらというふうに思います。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） まず1点目の水深面積でございます。これについては、南海トラフ巨
大地震、先ほど言いました周防灘の断層群、議員も言われました、その最大による場合が想定され
ておりまして、これ県の推計結果でございますけど、田布施町では1センチ以上の水深面積が15
7ヘクタール、30センチ以上になると128ヘクタール、1メートル以上であれば50ヘクタ
ールという形で示されております。

また2点目の浸水、水位のお話です。ちょっとこれ今回一般質問が出まして、私もまた改めてち
よっと浸水域等の勉強をさせていただきました。ちょっと県のほうのいろんな解説資料を見させて
いただいて、まず南海トラフというのは巨大地震の最大マグニチュードが9.1なんですが、その想
定については、県のほうで5つのモデルについて選定をされております。それをシミュレーション
として、5つのシミュレーション結果を重ね合わせた最大となる浸水域、最大となる浸水深とい
うのが想定されております。これは高知県沖の南海地震でございます。その主な計算条件の中には満
潮時ということも含まれております。

御質問の、南海トラフ地震があった場合の最高津波水位でございますが、尾津漁港で3.4メー
トルでございます。それと、地震発生後に、プラスマイナス20センチの変動が生じるまでの時間と
いうのが35分というふうにされております。

以上です。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） いろいろその辺の実態というのは防災計画にも書いてありますが、
こういった形で確認することによって、より皆さんの理解もできると思うんですけれども。

私も今回、地震が今年の8月8日に、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が起こった
ときにあわせて、この南海トラフ臨時情報というのが発表されたことに考えて、いろいろ調べてみ
たんですけど、要するに、南海トラフというのが、要は東京の辺からずੱとこう、九州に向かって
きているんですけども、左の手をユーラシアプレートというふうにしたら、こうあるんですよ。
それにこっちのフィリピン海プレートがこういうふうに入ってきている。そういう中でこちらがぐ
ーっと押されてこうなると。それが我慢できないので、ピンと跳ねるわけですよ。それが地震に
なったり津波になったりするわけですけども。それが今までの例で、100年から150年の間に

そういうのが何度も起きています。だから、これはもう起こらないとか言うのではなくて、必然的に起こるんだという認識が必要だろうと思うんです。

で、通告書には、字数制限がありますので全て書いてないんですが、要は、29年前の、町長の高月議員の一般質問の回答の中にもありましたけども、29年前の1995年、平成7年1月17日の朝の5時46分に発生したマグニチュード7.3、最大震度7の阪神淡路大震災ですよ。あれも、もう本当、私の人生の中でびっくりというか、何であそこで地震が起こるんだというような感じだったわけですが。私の友人も神戸に、その周辺に住んでいまして、1人は、もう後で聞いたら死ぬかと思ったと。もう1人は、たまたまその時にトイレに入っていたから、後トイレから出てみたら、自分が寝たところにタンスが倒れていたと。だから、ひょっとしたら死んどったかもしれないというような状況なんですよ。だから、日本は地震大国なんで、絶えずそういったものに対して覚悟していかにゃいけん。その後、さっき言ったように東北大震災とか、今回の熊本地震とか、そして能登半島地震とかいう形で起きております。また、今の南海トラフが今の状況ですので、必ず、多少、年のずれはあるだろうと思いますが、起こるということは覚悟していかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思っております。

次に2点目にありますけど、今年度末ということでございましたが、津波が最初に到達する場所というのはどういうふうに。総務課長がさっき言われましたように、麻里府の海岸というふうになっていますが、具体的にはどこに一番最初に到達するような予想になっているのでしょうか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 津波が到達する時間、先ほど言い忘れていたんですけど、最高津波水位が本町に到達するには、これ尾津漁港ですが、124分。繰り返しになりますけど、発生後にプラスマイナス20センチで変動が生じるのが35分。尾津漁港が最初に到達する場所になります。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） それで、そういう形で津波が、先ほど高月議員の質問の中にもあって、遡上すると。遡上するというのは川を津波はずっと上がっていくわけですよ。

で、もう1つ、私、高潮のことも聞いていますけど、津波と高潮の違いというのは、私がホームページで勉強した限りではあるんですけども、要は、高潮は上の表面ですよ。満潮時なんか特に低気圧とか台風で、こう潮位が上がっていくわけですよ。津波はそうじゃなくて、さっき言ったようにポンと跳ねるわけですから、海底からその波の高さでザーッと来るわけですよ。ですから遡上して、田布施川をどこまで上がるかわかりませんが、そういう形で上がっていくんだというふうに私は解釈しているんですが、その辺はどうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 議員がおっしゃるとおりで、この津波ハザードマップ、高潮ハザードマップについても、麻里府地域だけではなく、麻郷、新川等の辺りも、みんな浸水するというようなことになっております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（５番 落合 祥二議員） それで、高潮のほうですけども、高潮は今回変更はあるんですかね。予想はどうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 吉藤建設課長。

○建設課長（吉藤 功治君） 今回マップの変更は、高潮のマップの変更となっております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（５番 落合 祥二議員） また３月末までにはできるんだろうと思いますけども、県の情報等も加味して、県との連携も取って作られるのだろうと思うんですけども。高さで言えば、今、高潮のほうは津波よりも高いですよ、多分。だから今、高潮対策で擁壁を作っておれば、一応津波のほうの関係は、そのとおりであれば、それを超えてまで作る必要はないというふうになると思うんですが、その辺はどうです。

○議長（南 一成議員） 吉藤建設課長。

○建設課長（吉藤 功治君） 津波のほうではなくて高潮のほうの高さで、堤防等は県のほうが整備していているところがございます。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（５番 落合 祥二議員） それと３点目の質問で、本町は南海トラフ地震の対策推進地域になっております。ということで、まだ作っていらっしやらないのかと思ったら、防災計画にちゃんと入っていますよということで、私の勉強不足ではあったんですけども、ちゃんとそういうふうを確認しました。ちゃんと載っておりました。

それで、南海トラフもですけども、前に確か高月議員も言われたように、安芸灘断層帯ですよ。これもこの１月１５日に政府の地震調査会が発表して、今後３０年以内の発生率が最も高い、全国３１か所のＳランクの活断層のうち、その８つの中の１つに、広島県から山口県のほうに向かってある安芸灘断層帯っていうのがあるんですけど、これについてはどういうふうな捉え方をしているかお聞きしたいと思います。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 山口県では今年度、地震、津波被害想定の見直しを進められていると

ころでございます。その中、第2回が8月に行われたということは、情報でお聞きしておりますけど、その中に、今御質問にありましたSランクの安芸灘断層帯が新たに想定されているかどうかということは、不明なところでございますけど。仮に、それが想定されて、田布施町に影響が出るような想定になれば、これは田布施町の地域防災計画とか、国土強靱化地域計画の見直しをまた行っていきたいというふうには考えております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） ちょっと話が変わるんですけども、台風10号が今回かなり極めて強い台風ということで、山口県に近づいたときは、いつ近づいたのか、私にはよく分からないような状態で去っていったんですけども。これがもし、高潮対策の関係ですけど、満潮時にあれだけの勢力を持って来るという可能性というのはあると思うんですよ。そのときにどうなんか。今回そういう状態じゃあなかったからいいと思うんですけども、今後もそういったことを考えていかなきゃいけない。もうどんどんどん台風が巨大化して、強さが巨大化してきているんで、その辺の取り扱いというのが。私が職員でおったときの時代とはもう全然、規模が違うような状況なんですけど、その辺についてはどうでしょうか。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） 高潮はやっぱり強さ、満潮もありますが、台風のコースですよね。風がこう入ってきますので。田布施町にとって一番リスクは、以前、19号台風でボロボロにやられましたけども、あのラインですね。防府の辺から入ってきて、周南のほうに抜けると。ちょっと横にこう上がっていくような、あのコースが、やっぱり海岸、麻里府のほうが受けるということで、やっぱりコースというのが大分ありますので。こっち側を通ったらあまりなかったり、こっち側を通ったらひどかったりありますが。高潮については、コースですね。山口県をこう斜めに上がるようなコースが、田布施町にとっては一番ラインとして厳しいということで、そういったコースで来るのであれば非常に被害が出るということは、県の会議でも言われておりますので、その辺はまた情報でお出しをしていきたいかなというふうに思います。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 要は、台風が進行方向の右側だったら、台風の進行方向と同じよりに行くけえ、かなり影響があると。左側だったら、逆になるので少ない。今回は田布施町がそういう状況じゃったんじゃないかなというふうに思うんですけど、その辺はどうですか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 議員おっしゃるとおり、鹿児島、熊本を通過して、大分から愛媛に抜け

た、台風より左側に田布施町があったというような状況でございます。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 必ず起こる地震だということをホームページを見ながらつくづく思ったんですけども、私、昔は本当に阪神大震災が起こって、そんなにこんなひどい地震はもう、自分が物心ついてからなかったもんですから、と置いていたら、今言ったように、東北とかいろいろ出たんで。本当、今、活動期なのかもしれませんけども、そういう。また、メカニズムも今言ったように、ユーラシア大陸側のプレートと、海側のフィリピン海プレートとの関連でそうなっていると。そういう中でパーンと跳ね上がって、その関係で地震が起こって津波があるんだと。実際それがどこで起こるのかと。周防灘のどこなのか。もっと山口県、田布施に近いところで起こればね、もっと違う結果が出るんじゃないかというふうにも思っております。その辺についてはどうですか。

○議長（南 一成議員） 森総務課長。

○総務課長（森 清君） 南海トラフだけではなくて、先ほどのSランクの安芸灘断層帯もそうですし、ほかにも、岩国大竹断層、これが田布施町で言えば一番、今、想定の中では被害が大きいとされていますので。いつどこで、海溝型だけでなく、内陸型の地震、いつ起こってもおかしくないような状況だというふうには思っております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 分かりました。大変と思いますが、今後も地震、津波、高潮に対して、住民を守るために頑張っていただきたいというふうに思います。

それでは続きまして、2番目の空き家対策について質問いたします。

本町はU J I ターン者の定住を促進し、地域の活力維持と増進、人口の増加を図ることを目的に、町内の空き家情報を募集し、本町へ移住を希望する人に情報提供をする空き家バンク事業を行っています。そして登録後に利用できる家屋リフォーム事業助成金制度を設けています。

一方、2018年、平成30年3月に田布施町空き家等対策計画を作成しています。これらを踏まえてお尋ねいたします。

まず1点目ですが、ホームページで空き家情報を見ると登録件数は5件、最近見たらいつの間にか6件になって、私が見方が悪かったのかもしれない、6件と。少ないと思いますが、その辺はどうなんでしょうか。

次に2点目、空き家相談窓口は建設課、空き家バンクは経済課ですが、連携はどうなっていますか、うまくいっていますか、ということです。

3点目、空き家などの除去促進及び解消に向けて、株式会社ジチタイアドが運営するサービス、

アキソルを試験導入していますが、効果はどんなでしょうか。

4点目、山口県には県レベルとして、公益社団法人全日本不動産協会山口県本部と、公益社団法人山口県宅地建設取引協会があります。本町が空き家バンク制度で協定を結んでいるのは、前者の全日本不動産協会山口県本部ですが、町内不動産業者10件あるわけですが、その8社が加入している。後者の山口県宅地建物取引協会とは協定を結ばないのですか、という質問です。

5点目は、空き家対策は全体的にスムーズにいらいますか、ということです。というのも、私の友人や支持者らの中から、空き家、もうあとはどうしようもない、子どもは帰ってこないし、どうしたらええんじゃろうかというような感じだったり、もう子どもがいないから空き家を売りたいんじゃが、例えば、山もはあ要らんから、ただでええから、引き取ってくれんじゃろうかと。町は買ってくれんのじゃろうかと。当然、町は管理が要るようなものは要りませんし、私個人も自分の家のことだけで精いっぱい、管理はですね、なかなかそういうわけにはいかないんですが。その辺のことも含めて、空き家以外のことも言いましたけど、とにかく空き家はどうしたらええんじゃろうかというのが、いろいろ情報のPRが難しいところもあると思いますが、その辺はどういうふうになっているのかということが5点目です。

6点目は、特定空き家というのを、建設課のほうでやっていますが、それに対してどのくらいの措置を行ったことがあるのかということをお聞きしたいと思います。

○議長（南 一成議員） 東町長。

○町長（東 浩二君） お答えをいたします。

まず1点目の空き家登録物件が少ないことについてのお尋ねでございます。

本町では、平成19年から空き家バンク制度の運用を開始し、これまでに26件の登録があり、入れ替わりはあるものの25世帯、55名の方が利用していただいております。今現在は6件ほどの入居募集を行っている状況でございます。

また、全国の自治体においても登録件数が少ない状況ではありますが、本町におきましては、ホームページ、広報、固定資産税納付書通知での空き家管理に関する啓発、登録、家屋リフォーム助成金制度の周知等、空き家所有者の関心を喚起するために、様々な対策を講じ、登録増加を促進する取組を行っております。

また、専門的な相談、町内の循環や優良物件の掘り起こしが行える空き家コンシェルジュの任命をいたしたいということで計画をいたしておりますが、なかなか人材とですね、そういった、見つからずにおりますので、今後こうしたことが課題となってくるかなと思います。

2点目の空き家相談窓口が建設課、空き家バンクは経済課だが、連携はどうかということでござ

いますが、具体的に電話や窓口に来られた状況、空き家所有者の思い、御相談内容から、バンクなのか危険家屋なのか、そうした御相談に応じて連携をして、対応させていただいております。

3点目の空き家の除去促進及び解消に向けたジチタイアドが運営するサービス、アキソルの試験導入効果についてのお尋ねでございますが、空き家所有者の中でも、町の空き家バンクでは対応が難しい場合に、アキソルとつなぎ必要に応じて業者とのマッチング、流通困難な空き家のマッチング等を行っております。現在、ゼロ円物件として登録されているのが町内2件あります。そうした実績も出てきております。

4点目の、全日本不動産協会山口県本部と協定を結び、山口県宅地建物取引協会と協定を結ばないことについてのお尋ねでございますが、以前は山口県宅地建物取引協会とも協定を締結しておりましたが、平成26年に協会のほうから、今後は空き家バンク制度の運営を行わない、関与しないという連絡がございましたので、それ以降は、全日本不動産協会山口県本部との協定で運営をいたしております。

5点目は、空き家対策はスムーズにいつているかとお尋ねですが、今年度から賃貸だけでなく、空き家バンクの売買物件の取扱いを開始したほか、先ほど述べましたけども、アキソルの活用なども行っております。難しい問題ですが、一步一步取り組んでいきたいと思っております。

また、麻里府地域では集落支援員を配置させていただき、空き家の把握等を務めていけるような調整を行っており、空き家コンシェルジュの任命、選定を進める中で、現時点で対応困難な対策に取り組んでいるところでございます。

6点目の、特定空き家等に対する措置を行ったことはあるかとお尋ねでございますが、前年度2回ほど田布施町特定空き家等対策協議会を開催し、その中で特定空き家等に該当するとされた所有者に対し、口頭での助言または指導書等の送付も行っており、これらの措置により、現在までに12戸が自主的に解体、撤去等をされております。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） まず1点目の再質問ですけども、5年度の事務執行概要に、空き家の物件登録は18件というふうに書いてあるんですね。それと、今回ホームページを見た件数が、数字が違うので、5年度と現在で違うと思うんですが、その辺の説明をお願いしたいと思うんですが。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） お答えいたします。

事務執行状況概要、令和5年度に掲載されております空き家物件登録件数18件は、令和5年末現在の入居実績、これは累積になります。平成19年度からの数14世帯分と、そのときの募集物件4件、こちらを足し合わせた18件、こういうふうになっております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） いつからいつまでと言われましたか。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） 制度を開始した当初から令和5年度末までになっております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 制度を開始したときからの累計ちゅうことですよね。分かりました。ちょっと少ないような気がするんですよね。私の友人とかいろいろ聞けば、いろいろそういうのがあるんじゃないけど、あんまり制度を知らないんじゃないかと思うんですよね。そういった意味で、4点目も関係するんですけど、町内の不動産会社8割がそっちいうんで、そっちのほうに結構ね、どうかしてくれんか、どうしたらえかろうかと相談がいくらしいんですよ。ほいで、民間活力を利用するというのでこの制度があると思うんで、今はそういう状態になっているということですけども。まあ、4点目の質問に先、行くんですけども、今後は、別に私は田布施町の8割の不動産業者から頼まれたわけじゃあないんですけど、ちょっとその辺がどうなんかなと思ったんで、今回の質問に入れたんですが、それは、今後、山口県の宅地建物取引協会のほうの側のあれとも協定を結ぶというふうに考えてよろしいんですかね。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） 現在の状況は、先ほど町長の答弁でございましたとおり、全日本不動産協会山口県本部と締結しておりまして、山口県宅地建物取引協会とは、平成26年度に空き家バンク制度の運営については一旦終わりにしたいというふうな旨がございましたので、今に至っている状況ではございます。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 未来永劫ずっと結ばんちゅうわけじゃないでしょう。ほやから、やっぱり民間活力を利用するちゅう意味で、その辺も当たっていただいたらと思うんですよね。実際、聞いたところには柳井市のほうは、そっちのほうの協会のほうに入っている。で、多分、断られたちゅうときの体制がどうじゃったんか、私もよく分かりませんが、いろんな事情があつて断られたんだろうと思うんですが、未来永劫、それでもうずっと一切当たりませんよというふうな考えなんですか、どうですか。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） 議員御指摘のとおり、確認のほうは取ってまいりたいというふうには思っておりますが、協会のほうから、よその自治体やられているところはございますので、その意思はないと思われませんが、それに加盟している会員の方の意思、またその辺りの理由はちょっと定かではないんですが、折合だとか、当時はあったのではなかろうかと思われまして、今現在についてどうなのかというのは確認のほうは取ってみたいというふうに考えております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 確認を、当時の代表者がどうだったんかちゅうのもあるかもしれませんが、町にとって、町内の不動産業者がそういったことを知って、いろいろ町との連携を取ってもらえるとええことじゃろうと思うんです。だから、過去にそういうことがあったから、もう未来永劫そこは結ばんというふうなことでは、今の答弁でそういうことではないというふうに理解しましたので、まあ、よろしく願いいたします。

ちょっと飛びましたので、2点目の連携ですよね。具体的にはどういうふうにされているんですかね。建設課に話があると。建設課はどっちかいうたら、今、言ったように撤去してもらおうとかいんな来るんじゃけど、そうでない相談もあると思いますし、経済課のほうもそういった形で相談が来ることもあると思うんですが、その辺の連携というのは、もうちょっと具体的に話していただいたらと思うんですけども。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） 今、空き家に関する窓口というのは、特定空き家を中心とした廃屋の部分から含めて、そこは建設課、実態調査の部分については企画財政課、それと空き家登録バンク制度事業につきましては経済課、それと、最近は移住対策ということの対策で経済課、窓口が一元化していないもので、まずは建設課に相談というのが多くございまして、その相談内容から、それぞれの経済課に関する部分でしたら引き継いで、こちらのほうで対応させていただいているというところでございます。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） なかなかね、課がまたがると難しいところもあるんですけど、とにかく連携を取って、かなりこれから空き家に対する住民のいろんな要望とか何とかいろいろ出てくると思います。いろいろ役場に行って聞いてみたいと。はっきり言って私もよく分からんところもあったんで、今度は役場の建設課なり経済課のほうに行って、よう話を聞いてみなさいというふうに言おうとは思いますが、そこの中でよく連携されていただいたらというふうに思い

ます。2点目はそうですね。

3点目は利用件数が、アキソルの活用はゼロ円物件としての対応ですよね。町内に2件登録があったと。これは公表されているものなんですか。それとも公表しないものなんですか。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） ちょっと公表につきましては確認取れていないんですが、アキソルのほうに今回の件につきまして、今現在の状況を確認をしましたところ、先ほど申しましたゼロ円物件の相談2件のほかにも、地元不動産会社への売買へ進んだ相談件数が1件ございました。途中で連絡が取れなかった相談も2件。それと不動産会社で売買中の空き家の相談も1件ございます。権利関係が複雑で当社から有効な手段を提供できなかった相談、また売れないことを自覚されているが手数料を払ってまで手放したくないという相談、そういった相談も受けているというふう聞いております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） このアキソルの利用については、田布施だけでなく、いろいろよそでそれなりの、自治体としてのメリットがあるんだろうと思いますけども、私たちがその情報を見れないというのもちょっとどうなんかなというふうにも思います。

例えば移住したいとか何とか、ゼロ円の物件であれば移住してもええよという人はおられると思うんですよね。その辺を、いろいろ運用を、再度よくチェックしていただいたらというふうに思います。

それから、6点目ですね。一応、そういった措置をしたことがあると。ほいで、平成30年に、この空き家対策計画を、空き家ポータルを作っておられますが、そのときに自治会とかいろいろ調べられて、件数がありますが、今後こういう調査というのはある程度、年数がたつと、もう一遍ちょっとやったらどうなんかなというふうな気もするんですが、その辺はどうですか。

○議長（南 一成議員） 吉藤設課長。

○建設課長（吉藤 功治君） 今、計画に上がっているのが、平成27年に各自治会長さんをお願いして調査した数字を載せておるんですが、また、再度調査を行うとなると、前回の調査のように自治会長さんに結構な御負担をかけることになろうかと思えますし、現在、建設課のほうでは空き家の近隣の住民からの連絡、情報提供等により、特定空き家等に該当するかどうかの調査に追われておりますので、戸数調査につきましては、現在のところ行う考えは持ってはおりません。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 今は、ほいじゃから、毎年毎年そういう調査をしながら、この辺

の空き家の調査の件の表は作り直していきよるとのことだろうと思うんですけど、自治会長がそのときにやっても続いてないんですね。私は、私の妻が自治会長をやったんですけど、全然そういう引継ぎはないです。ですから、その後こういうところが空き家ができたよと言って、もう何年も経っているけど、多分、自治会長は順番で回ることが多いんで、なかなかそこまで言うというのはないと思うんです。じゃけえ、その辺の実態把握ちゅうのは、やっぱりちょっと何らかの方法で、ただその近所から言ってきたとかそういうことだけじゃなくて、何かの方法を、建設課だけで考えなさいちゅうんじゃないで、町全体で考えていただきたいとは思いますが、その辺はどうなんですか。

○議長（南 一成議員） 川添副町長。

○副町長（川添 俊樹君） おっしゃられるように、空き家の問題というのは各自治会に話しに行っても、自治会長さんのほうから質問があったりして、関心がかなりあります。で、そのときにもお答えしたんですけど、組織体制とか、今、課が分かれていますけど、有効活用するためにコンシェルジュを含めた形の組織でやろうとするんですが、なかなかそういう人材がないということなんで、できるだけ早い時期に体制的にどういう体制がいいのか、ずっと考えているんですけど、なかなか難しいんで、言われるように、空き家の有効活用を含めた全体的な、財産なんで、それと個人情報絡んでくるというのがあって、一律これというのがなかなかないんですけど、その個人情報と財産の価値の活用ということで、町内で何か組織か何かを作って、またどういった形がいいか考えてみたいというふうに思いますので、落合議員のほうも何かいい案があれば教えていただければと思います。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 一般質問するだけじゃなくて、自分も考えてくれということじゃろうと思うので、しっかり考えていきたいとは思っております。

最後に、今回初めて聞いた空き家コンシェルジュというのは、これ具体的にはホテルでいやあコンシェルジュさん、何でもホテルに来たお客さんに対して御相談に乗るちゅうことなんですけど、空き家コンシェルジュも同じような空き家に対する何でも相談というような感じなんじゃないでしょうか。

○議長（南 一成議員） 長谷経済課長。

○経済課長（長谷 満晴君） 今、先ほどのアキソルだとか空き家登録バンク制度、その所有者から依頼をする、またその後の対応という部分の、まず最初に掘り起こしとかそういった情報とか、そういったのを吸い上げる明確な動きというのがなくて、なので登録にもつながらないとかそういった課題がございまして、今、どういった人材がそれを担っていくべきかという部分でいろいろ調査

研究しているんですが、よその自治体でもそういった専門的な知識を持たれた方を任命して動いていただいているというところもありまして、これ今後は、企業人材派遣制度等、またそういう事例、ちょっとこの近辺ではそういったものはないんですが、その情報をいただきながら、その派遣制度を活用するとかも一つの案として、今、検討しているという状況でございます。

あとは地域の方々にも御協力いただいて、そういった口コミとか情報、また、例えば新聞受けにいっぱいまだ郵便物がたまっているというような情報、いろんな情報を吸い上げながら調査のほうをしていきたいというふうに考えております。

○議長（南 一成議員） 落合議員。

○議員（5番 落合 祥二議員） 分かりました。空き家対策について、ちょっと私もいろいろ先ほど副町長からも言われたのも当然ありますけど、ちょっとよく調べて、よその例とかいろいろ、だんだん田布施でも子どもがいないとか、おつても、子どももその後どうするんかとかいうような心配がどんどん出てきていると思いますので、行政で何でもやるわけにはいきませんが、ちょっとその辺がうまい具合にいったらというふうに思っていますので、私自身もちょっと調べてみたいというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（南 一成議員） 以上で、落合祥二議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（南 一成議員） これをもって一般質問を終わります。

ここで暫時休憩します。再開を11時10分とします。よろしくお願いします。

午前10時53分休憩

.....

午前11時08分再開

○議長（南 一成議員） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

.....

日程第3. 議案第36号

日程第4. 議案第37号

日程第5. 議案第38号

日程第6. 議案第39号

日程第7. 議案第40号

日程第8. 議案第41号

日程第 9. 議案第 4 2 号

日程第 1 0. 議案第 4 3 号

日程第 1 1. 議案第 4 4 号

日程第 1 2. 議案第 4 5 号

日程第 1 3. 議案第 4 6 号

日程第 1 4. 議案第 4 7 号

日程第 1 5. 議案第 4 8 号

○議長（南 一成議員） 日程第 3、議案第 3 6 号令和 5 年度田布施町歳入歳出決算の認定についてから、日程第 1 5、議案第 4 8 号議決事項の一部変更についてまで、1 3 件を一括議題といたします。

議案の朗読は省略します。

提案理由の説明を求めます。東町長。

○町長（東 浩二君） それでは、本定例会に提出いたしました 1 3 議案の概要について、御説明を申し上げます。

まず、議案第 3 6 号は令和 6 年度田布施町一般会計及び特別会計 3 件の歳入歳出決算について、さきに監査委員の審査を受けましたので、地方自治法第 2 3 3 条第 3 項の規定により、その意見を付けて議会の認定をお願いするものでございます。

決算の概要でございますが、令和 5 年度は高校生までの医療費の完全無償化、1 歳までを対象としたおむつ定期便の開始、子育て世帯を対象とする城南住宅建て替え工事の完了などにより、子育て支援の充実に重点的に取り組んでまいりました。

防災減災対策としては、防災拠点施設となる保健センターの整備工事が完了し、麻里府地区における防災拠点施設となる麻里府公民館の整備に向け、基本設計や用地造成を実施をいたしました。

また、図書館システム分館機能を、麻郷小学校、東田布施小学校、城南小学校に導入するとともに、地方活性化企業人制度を活用し、田布施町公式 LINE アカウントで情報発信を開始するなど、行政、地域のデジタル化を推進してまいりました。

さらにエネルギー、食料品等の価格物価高騰の影響を受けておられる住民生活の支援として、国の地方創生臨時交付金を活用し、全住民を対象とした生活応援商品券配布事業や小中学校給食費物価高騰差額補助事業、低所得者世帯を対象とした価格物価高騰重点支援給付金事業に取り組んでまいりました。

それでは、一般会計の決算状況について御説明をいたします。

歳入総額は74億7,984万6,677円で、前年度に比べ2億6,208万2,517円、3.4%の減でございます。また、歳出総額は72億6,556万2,447円で、前年度に比べ2億6,107万984円、3.5%の減でございます。歳入から歳出を差し引きました形式収支は、2億1,428万4,230円の黒字であり、形式収支から翌年度に繰越すべき財源4,068万5,926円を差し引いた実質収支は、1億7,359万8,304円でございます。

次に、歳入歳出の使用事項について御説明をいたします。

まず歳入についてでございますが、町税は前年度に比べ2,796万5,254円の減収となりました。主な要因は、法人税額の減によるものでございます。

地方交付税は包括算定経費の歳入額の増等により、普通交付税が増額となったことから、前年度に比べ1億3,374万5,000円の増額でございます。

国庫支出金につきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減や、城南小学校大規模改修に伴う学校施設環境改善交付金の皆減などにより、前年度に比べ2億668万383円の減額でございます。

県支出金は、尾津漁港水産物供給基盤機能保全事業の増などにより、前年度に比べ2,745万82円の増額でございます。

財産収入は、町有地売却収入の減により、前年度に比べ4,182万2,648円の減額でございます。

繰入金は、財政基金繰入金の増により、前年度に比べ3,342万1,000円の増額でございます。

なお、財政基金の年度末残高は、前年度に比べ1億円程度の減額となっております。

町債は、利子償還金の低減のための臨時財政対策債、繰上償還、借換債の皆減などにより、前年度に比べ1億7,337万円の減額でございます。

続きまして、歳出についてですが、前年度に比べ減額となった主な要因は、城南小学校大規模改修事業費の皆減、臨時財政対策債の借換えに伴う、売上償還の皆減等によるものでございます。

なお、令和5年度中に実施した諸事業、行政事務の内容は、お手元に配付いたしております決算書及び事務執行状況概要等の付属資料のとおりでございます。

続きまして、国民健康保険、介護保険及び後期高齢者医療の各特別会計についてでございますが、その決算状況は、それぞれ決算書等のとおりでございます。

なお、歳入歳出決算等審査意見書において、監査委員から御指摘を受けました事項は、各課に検討させ、改善等を図るよう指示をいたしております。各会計の決算について、慎重なる御審議を

いただき、認定をお願いいたします。

次に、議案第37号は、令和5年度田布施町下水道事業会計決算認定及び利益の処分についてでございます。

令和5年度から地方公営企業法を適用して、初めての決算となります。

さきに、同じく監査委員の審査を受けましたので、地方公営企業法第30条第4項の規定により、その意見を付けて議会の認定をお願いするものでございます。また、決算の結果生じました利益の処分についても、議決を求めるものでございます。

次に、議案第38号は、令和6年度田布施町一般会計補正予算（第3号）でございます。

まず、歳入でございますが、地方特例交付金と地方交付税、繰越金については、数値の確定に伴う補正でございます。

国庫出資金は、児童手当の拡充に対する子ども・子育て支援事業費補助金の計上などにより、増額補正でございます。

県支出金は、7月豪雨災害に対する農林水産施設災害復旧費補助金の計上などにより、増額補正でございます。

諸収入は、新型コロナワクチンの価格上昇分を国が基金管理団体を通じて助成する新型コロナ定期接種ワクチン確保事業補助金の計上により、増額補正でございます。

町債は、災害に備えた町有地の整備や、麻里府地区における防災広場の整備に対し、防災拠点施設等整備事業債を活用するため、増額補正といたしております。

次に、歳出でございますが、各費目において人事異動等による人件費の補正をいたしております。

その他、各費目の主な内容でございます。まず、総務費は、災害時に移動型宿泊施設等を活用するための町有地の整備や、麻里府地区における防災広場の整備に伴う測量設計、法令に基づく繰越金の一部財政基金への積立てなどにより、増額補正でございます。

民生費は、療養給付費前年度精算負担金や法人保育園委託事業における前年度補助金返還金などにより、増額補正でございます。

衛生費は、新型コロナワクチン価格上昇等に伴う予防接種委託料の増により、増額補正でございます。

農林水産業費は、新規就農者等による施設の改修経費を補助する地域農業資源リノベーション事業の計上などにより、増額補正でございます。

土木費は、民間宅地開発支援事業費の増などにより、増額補正でございます。

教育費は、西田布施公民館の消防施設の更新などにより、増額補正でございます。

災害復旧費は、7月豪雨等に伴う農林水産施設災害復旧事業費により、増額補正でございます。

以上によりまして、歳入歳出それぞれ2億4,926万9,000円を追加し、予算総額を77億6,323万3,000円とするものでございます。

次に、議案第39号は、田布施町介護保険特別会計補正予算（第1号）でございます。

主な補正内容は、前年度精算とそれに伴う介護給付費準備基金の調整でございます。

次に、議案第40号は、田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正についてでございます。これは、町議会議員及び町長選挙における選挙運動用自動車の使用、選挙運動用ビラの作成及び選挙運動用ポスターの作成に係る費用の公費負担額を、物価上昇等を鑑み改定しようとするものでございます。

議案第41号は、田布施町家庭的保育事業等の整備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正についてでございます。

これは、令和6年3月13日に移行されました児童福祉施設の整備及び運営に関する基準及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部を改正する内閣府令により、保育所C型を除く小規模保育所及び事業内保育事業所における3歳以上の児童に係る保育士、保育従事者の配置基準を見直すものでございます。

議案第42号は、田布施町国民健康保険条例の一部改正についてでございます。

これは、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の制定等に伴い、本年12月2日から被保険者証がマイナ保険証に統一されることから、第11条中の被保険者証に係る部分を削るものでございます。

議案第43号は、字の区域の変更（国営南周防土地改良事業「宿井換地区」）についてでございます。

これは、国営南周防土地改良事業宿井換地区の換地処分に伴い、字の変更を必要とするため、地方自治法第260条第1項の規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。

議案第44号は、田布施・平生水道企業団規約の変更についてでございます。

これは、田布施・平生水道企業団規約の一部を変更するため、地方自治法第290条の規定により、一部事務組合を構成する町議会の議決を求めるものでございます。内容といたしましては、令和7年4月1日から柳井地域の全ての水道事業を柳井地域広域水道企業団へ経営統合することに伴い、田布施・平生水道企業団が解散した場合に、承継事務等が円滑に行えるように、事務の承継等に係る規定を定めるため、規約の改正を行うものでございます。

次に、議案第45号は、柳井地域広域水道企業団の共同処理に関する事務の変更及び規約の変更

について、地方自治法第290条の規定により、一部事務組合を構成する市町の議会の議決を求めるものでございます。内容といたしましては、令和7年4月1日からの柳井地域の全ての水道事業を柳井地域広域水道企業団へ経営統合することに伴う規約の改正でございます。

そして、追加提案させていただきました議案第46号と議案第47号は、麻里府公民館新築工事の建築、そして機械設備における工事請負契約の締結について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

本工事は、社会教育施設整備事業債等を充当し、津波や高潮の浸水想定区域内にある老朽化した麻里府公民館を、現在地よりも安全な場所に新築し、地区の防災拠点やコミュニティ機能を備えた施設として整備するものでございます。

両工事とも、9月2日に条件付一般競争入札を執行させていただきました。この入札に伴い、議案第46号の建築工事につきましては、落札されました兼本建設株式会社と2億8,600万円で契約するものでございます。

次に、議案第47号の機械設備工事につきましては、落札されました株式会社栗原設備と6,374万5,000円で、それぞれ請負契約を締結するため、議会の議決を求めるものでございます。

なお、両工事とも、9月の議会議決の翌日から令和7年3月31日までといたしておりますが、3月になりましたら繰越し手続をいたしまして、令和7年9月30日まで延期することといたしております。

なお、予定しておりました電気設備工事につきましては、入札不調となりましたので、再度入札させていただき、議案上程させていただきます。

議案第48号は、田布施町B&G海洋センター（スポーツセンター第1体育館）大規模改修工事（建築）の契約金額の変更について、議会の議決をお願いするものでございます。

本工事は、令和6年第4回議会において、議決を得た議案第33号の工事請負契約の締結に係るもので、契約の金額4,695万9,000円を5,481万3,000円に変更しようとするものでございます。

変更内容といたしましては、外部足場を設置後、外壁の詳細調査を実施いたしましたところ、外壁改修工事の補修箇所が設計数量よりも増加したこと、また屋根の改修においてさびを落とす作業のブラスト処理の際、当初見込んでおりました材料で試し塗装を行ったところ、広範囲に飛散が見られ、周辺家屋等に御迷惑をおかけする可能性が高いと判断したため、飛散がしにくいよう比重の高い材料に変更したものでございます。

なお、これに伴う工期の変更はございません。

以上、本定例会に御提案申し上げました議案 13 件について、その概要を御説明いたしましたが、詳細につきましては、御質問に応じ私及び関係参与から説明いたしますので、よろしく御審議を賜り、承認及び議決いただきますようお願い申し上げます、提案理由といたします。

以上でございます。

○議長（南 一成議員） これで提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。

議案第 36 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。

議案第 37 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。

議案第 38 号、質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第 39 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。

議案第 40 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。

議案第 41 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第 42 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第 43 号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第44号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第45号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第46号、質疑はありませんか。内山議員。

○議員（1番 内山 昌晃議員） すいません。こちらの議案が、総務文教委員会のほうに付託をされるということで、ちょっと質疑をする機会が今しかないということで、ちょっと質問をさせていただきます。

入札が終わって、こういう金額で落札をされたということです。要は入札の額といたしますか、最低価格というか、最低制限価格を設けているのかいないのかというところをちょっとお伺いしたいんですけど、もし設けてなければ、何ていうんでしょう、その落札額が限りなくこの業者のほうか、もし、もうこれは絶対取りたいんだということになれば、限りなく安い落札額になるということで、これは安く落札すれば町にとってはそれだけ安くできますので、有利というか、いいという面もある一方、そうですね、安かろう悪かろうという、ちょっと表現は悪いんですけど、安くした分、その工事のほうの品質が悪くなるというような懸念もあります。

今、物価も上昇してまして、資材も高騰もしています。それから人件費のほうも高くなってきているというふうに聞いていますので、なかなかその企業努力では、あまりその下げ幅を多くすれば、その辺も企業努力の中では賄っていけないところに行くのではないのかなというふうに思っています。

その制限価格もし設けていけば、適正なその県の示した単価とかで設計費のほうを積算されていると思いますので、最低価格の範囲内であれば、業者のほうもそれなりの利益も生むし、品質も保証はされるのではないかとこの辺のところをお伺いしたいと思います。

○議長（南 一成議員） 川添副町長。

○副町長（川添 俊樹君） 今回の建築工事は、最低制限価格は設けておりません。今まで実施した建築工事で、最低制限価格を設けて実施したものはございません。

ただ、光消防の今度建築のほうで実施された建築工事等で、最低制限価格を設けていらっしゃいます。近隣も最低制限設けていらっしゃいますし、田布施町のほうでは、土木工事では最低制限価

格を設けて実施しているもの、いわゆる品質を保証するというか、そういう形で何年からかはちょっと覚えていないんですけど、実施をいたしております。

言われるように、物価高騰を含めて人件費、人員不足というか職員不足というかいろいろな要素があるんで、建築工事につきまして、土木と同じような形で実施できるような形で、ちょっと近隣を含めて調査をして、前向きに検討させていただきたいというふうには思っております。

○議長（南 一成議員） よろしいでしょうか。はい。

議案第46号、そのほか質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

続きまして、議案第47号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

議案第48号、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） なしと認めます。

これで、質疑を終わります。

ここでお諮りします。議案第36号及び議案第37号については、議長を除く11人の委員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、本件については議長を除く11人の委員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託することに決定いたしました。

ただいま設置されました決算審査特別委員会の委員の選任については、委員会条例第7条第4項の規定により、お手元に配付しております名簿のとおり指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、決算審査特別委員会は、お手元に配付しました名簿のとおり、選任することに決定いたしました。

それでは、決算審査特別委員会を直ちに開催し、委員長、副委員長の互選をお願いします。

ここで暫時休憩します。休憩中に委員長、副委員長の互選をお願いできたらと思います。委員は

隣の会議室に移動してください。再開は、委員長、副委員長の互選が終わり次第再開します。よろしくお願ひします。

午前11時33分休憩

.....

午前11時41分再開

○議長（南 一成議員） 休憩を取消し、会議を再開します。

先ほどの休憩中に、決算審査特別委員会が開催され、委員長に西本篤史議員、副委員長に伊村涉議員が選任されましたので、御報告いたします。

次に、議案第38号から議案第48号までの11件は、会議規則第39条第1項の規定により、お手元に配付の議案付託区分表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

----- . ----- . -----

○議長（南 一成議員） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

（ベル）

午前11時41分散会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長 南 一 成

署名議員 高月 義夫

署名議員 落合 祥二

令和6年9月20日(金曜日)

議事日程(第3号)

令和6年9月20日 午前9時00分開会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 議案第36号
令和5年度田布施町歳入歳出決算の認定について (委員長報告)
- 日程第3 議案第37号
令和5年度田布施町下水道事業会計決算認定及び利益の処分について
(委員長報告)
- 日程第4 議案第38号
令和6年度田布施町一般会計補正予算(第3号)議定について (委員長報告)
- 日程第5 議案第39号
令和6年度田布施町介護保険特別会計補正予算(第1号)議定について
(委員長報告)
- 日程第6 議案第40号
田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する
条例の一部改正について (委員長報告)
- 日程第7 議案第41号
田布施町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改
正について (委員長報告)
- 日程第8 議案第42号
田布施町国民健康保険条例の一部改正について (委員長報告)
- 日程第9 議案第43号
字の区域の変更について(国営南周防土地改良事業「宿井換地区」)
(委員長報告)
- 日程第10 議案第44号
田布施・平生水道企業団規約の変更について (委員長報告)

- 日程第 1 1 議案第 4 5 号
柳井地域広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び規約の変更について
(委員長報告)
- 日程第 1 2 議案第 4 6 号
工事請負契約の締結について (麻里府公民館新築工事 (建築)) (委員長報告)
- 日程第 1 3 議案第 4 7 号
工事請負契約の締結について (麻里府公民館新築工事 (機械設備))
(委員長報告)
- 日程第 1 4 議案第 4 8 号
議決事項の一部変更について (委員長報告)
- 日程第 1 5 議案第 4 9 号
教育委員会委員の任命について
- 日程第 1 6 議案第 5 0 号
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
- 日程第 1 7 閉会中の継続審査及び調査
- 日程第 1 8 議員派遣について

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 議案第 3 6 号
令和 5 年度田布施町歳入歳出決算の認定について (委員長報告)
- 日程第 3 議案第 3 7 号
令和 5 年度田布施町下水道事業会計決算認定及び利益の処分について
(委員長報告)
- 日程第 4 議案第 3 8 号
令和 6 年度田布施町一般会計補正予算 (第 3 号) 議定について (委員長報告)

- 日程第 5 議案第 39 号
令和 6 年度田布施町介護保険特別会計補正予算（第 1 号）議定について
(委員長報告)
- 日程第 6 議案第 40 号
田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する
条例の一部改正について
(委員長報告)
- 日程第 7 議案第 41 号
田布施町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改
正について
(委員長報告)
- 日程第 8 議案第 42 号
田布施町国民健康保険条例の一部改正について
(委員長報告)
- 日程第 9 議案第 43 号
字の区域の変更について（国営南周防土地改良事業「宿井換地区」）
(委員長報告)
- 日程第 10 議案第 44 号
田布施・平生水道企業団規約の変更について
(委員長報告)
- 日程第 11 議案第 45 号
柳井地域広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び規約の変更について
(委員長報告)
- 日程第 12 議案第 46 号
工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（建築））（委員長報告）
- 日程第 13 議案第 47 号
工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（機械設備））
(委員長報告)
- 日程第 14 議案第 48 号
議決事項の一部変更について
(委員長報告)
- 日程第 15 議案第 49 号
教育委員会委員の任命について
- 日程第 16 議案第 50 号
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

日程第17 閉会中の継続審査及び調査

日程第18 議員派遣について

出席議員（11名）

1番	内山 昌晃議員	2番	神田 栄治議員
3番	西本 篤史議員	4番	松田規久夫議員
5番	落合 祥二議員	6番	國本 悦郎議員
7番	高月 義夫議員	9番	谷村 善彦議員
10番	瀬石 公夫議員	11番	伊村 渉議員
12番	南 一成議員		

欠席議員（1名）

8番 河内 賀寿議員

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長	増原 慎一君	書記	福本 俊明君
書記	手島 千晶君	書記	稲木 陽君

説明のため出席した者の職氏名

町 長	東 浩二君	副 町 長	川添 俊樹君
教 育 長	鳥枝 浩二君	総 務 課 長	森 清君
総 務 課 主 幹	堀 昌子君	企画財政課長	山田 浩君

税 務 課 長	藤本 直樹君	町民福祉課長	長合 保典君
健康保険課長	寶城 和之君	経 済 課 長	長谷 満晴君
建 設 課 長	吉藤 功治君	学校教育課長	山中 浩徳君
社会教育課長	福田 幸治君	会 計 室 長	江良 和美君

午前9時06分開議

(ベル)

○議長（南 一成議員） これから本日の会議を開きます。

あらかじめ申し上げます。本日、河内賀寿議員より欠席届が提出してありますので、報告します。

議事日程は、お手元に配付したとおりです。

日程第1. 会議録署名議員の指名

○議長（南 一成議員） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、谷村善彦議員、國本悦郎議員を指名いたします。

日程第2. 議案第36号

日程第3. 議案第37号

日程第4. 議案第38号

日程第5. 議案第39号

日程第6. 議案第40号

日程第7. 議案第41号

日程第8. 議案第42号

日程第9. 議案第43号

日程第10. 議案第44号

日程第11. 議案第45号

日程第12. 議案第46号

日程第13. 議案第47号

日程第14. 議案第48号

○議長（南 一成議員） 日程第2、議案第36号令和5年度田布施町歳入歳出決算の認定についてから、日程第14、議案第48号議決事項の一部変更についてまで13件を一括議題とします。

まず、委員会の審査の経過及び結果の報告を求めます。西本決算審査特別委員長。

○決算審査特別委員長（西本 篤史議員） それでは、決算審査特別委員会の報告を申し上げます。

去る9月10日の本会議において、当委員会に付託されました議案第36号及び議案第37号の2件について、9月11日に審査を行いましたので、その経過と結果について御報告申し上げます。

議案について、執行部に説明を求め、質疑、採決の結果、お手元に配付の審査報告書のとおり、議案第36号及び議案第37号は全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。

以上をもちまして、本委員会の報告といたします。

○議長（南 一成議員） 次に、西本総務文教委員長。

○総務文教委員長（西本 篤史議員） それでは、総務文教委員会の報告を申し上げます。

去る9月10日の本会議において、当委員会に付託されました議案第38号及び議案第40号、議案第46号から議案第48号の議案5件について、9月18日に審査を行いましたので、その経過と結果について御報告申し上げます。

初めに、議案第38号令和6年度田布施町一般会計補正予算（第3号）議定について、9月18日に経済厚生委員長から予備審査の経過と結果について御報告があり、審査の結果、経済厚生委員会では原案のとおり、全会一致で可決されました。

本委員会での主な質疑は、歳出の総務費、財産管理費の測量設計委託料に伴う麻里府防災広場の整備について、同じく、財産管理費の工事請負費の町有地等整備工事の中央南町有地舗装等工事に伴う移動式宿泊施設レスキューホテルの設置及び給配水について、麻里府地区防災拠点等整備工事の造成追加工事について、衛生費・予備費の予防接種委託料について、商工費・地域振興費の備品購入費から委託料に組み替えた場合の費用対効果について、土木費・都市計画総務費の住宅建築物耐震化促進事業について、同じく、都市計画総務費の負担金補助及び交付金の民間宅地開発支援事業について、質疑を終了し、討論なく、採決の結果、本案は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第40号田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正についてであります。主な質疑は、選挙運動の公費負担額の近隣市町との比較についてで、質疑を終了し、討論なく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第46号工事請負契約の締結について（麻里府公民館新築工事（建築））であります。主な質疑は、契約の方法及び入札参加業者数等についてで、質疑を終了し、討論なく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第47号工事請負の締結について（麻里府公民館新築工事（機械設備））であります。主な質疑は、契約の方法及び入札参加業者数等についてで、質疑を終了し、討論もなく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第48号議決事項の一部変更についてであります。質疑もなく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上をもちまして、本委員会の報告を終わります。

○議長（南 一成議員） 次に、伊村経済厚生委員長。

○経済厚生委員長（伊村 渉議員） それでは、経済厚生委員会の報告を申し上げます。

去る9月10日の本会議において、当委員会に付託されました議案第39号及び議案第41号から議案第45号までの議案6件について、9月13日に審査を行いましたので、その経過と結果について御報告申し上げます。

議案第39号令和6年度田布施町介護保険特別会計補正予算（第1号）議定について、議案第41号田布施町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について、議案第42号田布施町国民健康保険条例の一部改正について、議案第43号字の区域の変更について（国営南周防土地改良事業「宿井換地区」）の4件であります。4件とも質疑なく、討論なく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第44号田布施・平生水道企業団規約の変更についてであります。本委員会の主な質疑は、田布施・平生水道企業団が解散した場合の決算審査の取扱いについてで、質疑を終了し、討論なく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、議案第45号柳井地域広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び規約の変更についてであります。質疑もなく、採決の結果、本件は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上をもちまして、本委員会の報告を終わります。

○議長（南 一成議員） これから、各委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。議案第36号から議案第48号まで討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第36号令和5年度田布施町歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。議案第36号に対する委員長の報告は認定です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第36号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、議案第37号令和5年度田布施町下水道事業会計決算認定及び利益の処分についてを採決します。議案第37号に対する委員長の報告は認定です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第37号は委員長の報告のとおり認定されました。

次に、議案第38号令和6年度田布施町一般会計補正予算（第3号）議定についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第38号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第39号令和6年度田布施町介護保険特別会計補正予算（第1号）議定について採決をします。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第39号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第40号田布施町議会議員及び田布施町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第40号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第41号田布施町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第41号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第42号田布施町国民健康保険条例の一部改正についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第42号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第43号字の区域の変更について（国営南周防土地改良事業「宿井換地区」）を採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第43号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第44号田布施・平生水道企業団規約の変更についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第44号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第45号柳井地域広域水道企業団の共同処理する事務の変更及び規約の変更についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第45号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第46号工事請負契約の締結について(麻里府公民館新築工事(建築))を採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長(南 一成議員) 起立全員です。したがって、議案第46号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第47号工事請負契約の締結について(麻里府公民館新築工事(機械設備))を採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長(南 一成議員) 起立全員です。したがって、議案第47号は委員長の報告のとおり可決されました。

次に、議案第48号議決事項の一部変更についてを採決します。本件に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長(南 一成議員) 起立全員です。したがって、議案第48号は委員長の報告のとおり可決されました。

日程第15. 議案第49号

○議長(南 一成議員) 日程第15、議案第49号教育委員会委員の任命についてを議題とします。

議案の朗読は省略します。

提案理由の説明を求めます。東町長。

○町長(東 浩二君) それでは、本日提出いたしました議案第49号は、教育委員会委員の任命についてでございます。

本案は、石田清実さんの任期が本年9月30日をもって満了することに伴い、引き続き同氏を委員に任命いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定に基づき、議会の同意をお願いするものでございます。

石田さんは、中学生の保護者として子育てをされる中、平成23年4月から現在まで、城南小学校において、本の読み聞かせ会のメンバーなど、子どもたちの健全育成に女性の立場から積極的に

取り組まれております。また、令和5年4月からは、城南放課後教室の事務局として活動されており、学校、児童生徒の教育の現状もよく理解されております。また、平成28年10月からは田布施町教育委員会委員をお願いし、その重責を果たされており、本町の教育委員会委員として適任と考え、再任をお願いするものでございます。よろしく御審議を賜り、御同意いただきますようお願い申し上げます。提案理由といたします。

○議長（南 一成議員） これで提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

日程第16. 議案第50号

○議長（南 一成議員） 日程第16、議案第50号人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを議題といたします。

議案の朗読は省略します。

提案理由の説明を求めます。東町長。

○町長（東 浩二君） 同じく、本日提出いたしました議案第50号は、人権擁護委員の推薦に関するものでございます。本町では、現在、4名の方が法務大臣の委嘱を受け、人権擁護委員として活躍をされております。本案は、この4名のうち、岩本宏司さんの任期が令和6年12月末をもって満了するため、引き続き同氏を推薦することについて、人権擁護委員会法第6条第3項の規定により議会の議決を求めるものでございます。

岩本さんは、昭和48年4月から光地区消防組合に勤務され、平成27年3月、光地区消防組合東消防署長として退職をされております。現職中も補導委員会会長や学校評議委員会として活躍されるなど、地域の子どもたちを見守るリーダー的な役割を続けてこられました。そして、平成28年からは3期にわたり、人権擁護委員として大変御尽力をいただいております。長らく田布施町民の安心安全に力を注がれております。こうしたことから、同氏には、改めまして推薦をいたしたいというものでございます。よろしく御審議賜り、御同意いただけますようお願い申し上げます。提案理由とさせていただきます。

○議長（南 一成議員） これで提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっています議案第49号及び議案第50号は、会議規則第39条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、議案第49号及び議案第50号は、委員会付託を省略することに決定しました。

これから、議案第49号教育委員会委員の任命について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第49号教育委員会委員の任命についてを採決します。本件を同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第49号は同意することに決定しました。

これから、議案第50号人権擁護委員の推薦について意見を求めることについて討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

議案第50号人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについてを採決します。本件を同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（南 一成議員） 起立全員です。したがって、議案第50号は同意することに決定いたしました。

日程第17. 閉会中の継続審査及び調査

○議長（南 一成議員） 次に、日程第17、閉会中の継続審査及び調査を議題とします。

総務文教委員長より会議規則第75条の規定によって、お手元に配付しました申出書のとおり、陳情第1号上関町での中間貯蔵施設の建設に反対する決議の採択をお願いする陳情書及び陳情第4号上関町での中間貯蔵施設の建設の反対をお願いする陳情書について、閉会中の継続審査及び調査の申出があります。

お諮りします。委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査及び調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査及び調査とすることに決定いたしました。

同じく、総務文教委員長及び経済厚生委員長より会議規則第75条の規定によって、お手元に配付しました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。したがって、委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定いたしました。

日程第18. 議員派遣について

○議長（南 一成議員） 次に、日程第18、議員派遣についてを議題とします。

お諮りします。会議規則第129条の規定により、お手元に配付しました議員派遣についての申出、議員を派遣したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。

よって、ただいまのとおり議員派遣とすることに決定しました。

お諮りします。ただいま議員派遣は決定されましたが、後日、日程等の変更がある場合は、変更の決定については、議長に委任されたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（南 一成議員） 異議なしと認めます。

よって、日程の変更の決定は議長に委任されました。

○議長（南 一成議員） これで本日の日程は全部終了しました。

以上で会議を閉じます。令和6年第5回田布施町議会定例会を閉会します。

（ベル）

午前9時26分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議 長 南 一成

署名議員 谷村 善彦

署名議員 國本 悦郎